

産スルモノニシテ同鐵山ニ使用スル原料池ハ湯ノ澤鐵山産ナルモ之亦釜石鐵山ノ使用ニ供セルモノナリ左ニ湯ノ澤鐵山ノ現狀ヲ示サン

湯ノ澤鐵山

鑛業者 藤田惣太郎

位置 本鐵山ハ青森縣西津輕郡深浦村ニ在リテ深浦村ヨリ能代街道ヲ南々西ニ行クコト約半里湯ノ澤川ト其支流鶯ノ澤ト合流スル地點ニ位ス鑛區ノ面積ハ十一萬二千九百十四坪ヲ占ム
地質及鑛床 地質ハ第三紀古層及深浦層ニシテ深浦層ニ屬スル砂岩及粘土層ハ古層ヲ不整合ニ被覆シ北十度乃至三十度西ニ走リ南西ニ傾斜スルコト十度ナリ鑛床ハ一條ニシテ疑灰質粘土層ニ胚胎シ厚サ數尺ニシテ中ニ層狀ノ鑛石しやぼん喰及虎石ヲ含有シ母岩ノ褶曲ニ伴ヒ鑛床モ共ニ屈曲ス
採鑛及選鑛 鑛床ヲ採掘スルニ地勢ニ從ヒ或ハ低地ヨリ坑道ヲ設ケテ掘リ上リ又ハ露天掘ヲナスコトアリ鑛石ハ先ツ片手槌ニテ約一寸二分立方ニ破碎シ次ニ數回水槽中ニテ洗淘シ細末ノモノハ四分篩ニテ篩分シ再ヒ洗淘ス以上二種ハ乾燥シタル後手選ヲ行フ又四分以下ノモノ篩流ヲナシテ淘汰ス
鑛夫 本鐵山ニ於テ使用スル鑛夫總夫ハ百三十三人ナリ
産額 本鐵山ハ明治三十八年以來現鑛業者ニ依リテ探鑛セラレタル所ニシテ明治四十二年ニ及シテ二千七百二十九噸ノ鑛石ヲ産スルニ至レリ

第三、硫黄

審査官 農商務技師 西尾銈次郎

硫黄ニ關スル出品ハ其點數ニ於テ四點人員ニ於テ四名ナリ左ニ聯合府縣ニ於ケル硫黄ノ産額ト全國産額ニ對スル割合ヲ示サン

年次	數量	價額	全國産額ニ對スル比
明治三十八年	三、三二七	七七、九七〇 ^円	一三、一
同 三十九年	四、三五八	九七、一九六	一五、三
同 四十年	五、六〇四	一四八、〇三三	一六、八
同 四十一年	七、六一二	一七六、一八四	二二、七
同 四十二年	七、九〇七	二二四、一〇四	二二、四

上表ニ據レハ聯合府縣ニ於ケル硫黄ノ産額ハ明治三十八年三千二百二十七噸ヲ産セシ以來年々増加シテ遂ニ明治四十二年ニ至リテハ其二倍半ニ達セリ而シテ之ヲ全國産額ニ比スル時ハ一割三分一厘ヲ占メシモ増加シテ遂ニ二割一分四厘ヲ占ムルニ至レリ我國産出硫黄ノ大部分ハ輸出ニ供セラルモノニシテ其數量年々左ノ如シ

年次	數量	價額
明治三十八年	二九、三九四 ^噸	九五、九二一 ^円
同 三十九年	三七、六八〇	一二九、九二一

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會雜礦物及其生産品審査報告

同 四十年	三二、四二一	一、〇九一、三八九
同 四十一年	三〇、五三二	一、〇三七、四九六
同 四十二年	四一、四一一	一、三二三、四一四

是ニ由リテ之ヲ觀レハ輸出ハ明治四十年及同四十一年ニ於テ其量ヲ減セシモ翌四十二年ニ至リテハ著シク増加セルヲ見ル元來我國ハ伊米兩國ニ次ク硫黃産出ナリト雖トモ彼ノ二國ノ産出ニ對比スル時ハ僅カニ四分六厘ニ過キス故ニ市價ノ如キモ彼ノ左右セラル所ナレハ常ニ其競争ニ堪フルニハ其製鍊法ヲ改良シ其品質ヲ精良ナラシムルト同時ニ其製産費ヲ低減スルノ工夫ヲ要スルモノナリ今回出品ニ係ル硫黃ハ何レモ燒取製鍊法ニ依リテ得タルモノナレ共比較的純精ナルヲ見ル左ニ東京鑛山監督署ノ爲シタル分析ノ成績ヲ掲クヘシ

鑛 山 名	硫 黃(百分中)
鶯澤硫黃山	九九、六八
沼尻硫黃山	九九、五九
吾妻硫黃山	九九、五四
同火口ノ分	九九、六六
米子硫黃山	九九、七〇

左ニ出品ニ係ル諸硫黃山ノ現状ヲ示サン

(一) 沼尻硫黃山

鑛業者 日本硫黃株式會社

位置 本鑛山ハ福島縣耶麻郡吾妻村沼尻山ノ噴火口ノ附近ニ在リ故ニ探鑛所ハ海拔約四千尺ノ高處ニ在リ

地質及鑛床 本鑛山ヲ構成セル岩石ハ安山岩及凝灰岩ニシテ硫黃ハ之等ノ岩石ニ浸染セルモノナリ鑛石ハ平均硫黃百分ノ四十五ヲ含ム

探鑛 探鑛方法トシテハ鑛床ト母岩ノ境界ニ坑道ヲ掘進シ鑛床ノ幅員ヲ調査シ尙地表ヨリ試錐ヲ行ヘリ探鑛方法ハ坑道掘及露天掘ヲ併用セリ坑道掘ニ在リテハ六間乃至八間ノ間隙ヲ以テ坑道ヲ設ケ掘進シ十間毎ニ目貫坑ヲ設ケテ通風ニ便ス探掘セル鑛石ハ水平距離八千尺高差一千百尺ナル玉村式單線自動索道ニテ製鍊所ニ運搬ス

製鍊 鑛石ハ先ツ碎破シ手選ヲ行ヒ燒取製鍊ニ附ス之ニ用ユル鑄鐵製釜ハ其形狀圓形ニシテ上部鶴首形ノ圓形ヲ備ヘ胴内徑三尺深サ二尺五寸ナリ左右ニ五個宛併置シ中間ニ圓形沈澱器ヲ置キ焚口ハ五個ニ付一個ヲ有ス現在ノ釜數ハ百五十個ニシテ釜一個一日約百八十斤ヲ製出ス

鑛夫 本鑛山ニ於テ使用スル鑛夫ノ種類及員數左ノ如シ

坑 夫	四四	手 子	三五
-----	----	-----	----

群馬縣中館一府十四縣聯合共進會雜礦物及其生産品審査報告

選 鑛 夫 一三
製 鍊 夫 四九
運 搬 夫 四八
雜 夫 八四
合 計 二七三

產額 本鑛業者ハ明治三十九年以來操業セルモノナレハ左ニ其以後ノ產額ヲ掲ク

年 次	數 量	價 額
明治三十九年	二、一四四	九、一一四
同 四十年	一、五四四	五〇、一七八
同 四十一年	五、三六九	一二八、五八四
同 四十二年	五、六七七	一七三、〇〇七

(一) 其他ノ硫黃山

慈澤硫黃山及其他二鑛山ニ就テハ左ニ之ヲ表示スヘシ

鑛 業 者	所 在 地	製 鍊 ノ 方 法	取 法
慈澤硫黃山	佐藤清兵衛	岩手縣稗貫郡湯口村	燒取法
吾妻硫黃山	大 家 七 平	福島縣信夫郡水保村	火口ヨリ流出スルモノヲ採取シ並ニ燒取法ヲ行フ
信濃硫黃山	信濃硫黃株式會社	長野縣上高井郡仁禮村	燒取法

鑛 夫 員 數	產 額	硫 黃	組 鑛	硫 黃
明治三十八年	同	九、六	八九六	八〇〇、三
同 三十九年	同	二一六、六	七〇、八	一、〇三四、七
同 四十年	同	八〇一、六	二一〇、〇	八二九、三
同 四十一年	同	六五七、六	三一六、六	八〇九、五
同 四十二年	同			七九六、〇

第四、石灰

審査官 農商務技師 山下 傳 吉

石灰石ハ本聯合府縣域内ニ其產地甚タ多ク從來其用途ハ壁土、肥料ノ類ニ限ラレシモ現今ニテハ工業用トシテノ需用日ニ月ニ増加スルノ狀況ナルト共ニ品質ノ良好ナルモノヲ要シ隨テ營業者ハ原料精選ニ留意スルニ至レルモ其採掘、運搬、燒製等ノ方法ニ在テハ之ヲ新ニセルモノ少ナク舊態ヲ存スルヲ普通トスルハ營業者ニ於テモ満足セサル所ナルハ言ヲ俟タス徐々之ニ改良ヲ加ヘ以テ其生産費ヲ減シ自他共ニ益スルノ計ニ出ツルヲ要ス

第五、磨砂

審査官 農務技師 山下 傳 吉

磨砂ノ出品三點アリ本邦ノ第三紀層中ニハ之ヲ産スルノ地甚タ多ク房州砂又ハ磨砂ト稱シ其應用頗ル廣シ就中精米用、金屬器物ノ磨淨、劣等硝子壘製造ノ原料等ハ其主ナルモノナリ而シテ磨砂ノ需要ハ諸工業ノ勃興ト共ニ益々増加スルノ狀況ナルヲ以テ營業者タルモノ其品質ノ良好ナル種類ヲ發見スル

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會雜礦物及其生産品審査報告

ニ勉メサルヘカラス

第六、漂白土

審査官 農商務技師 山下 傳吉

漂白土ノ出品三點アリ本邦ノ第二紀層中ニハ其現出スル所少ナシトセス殊ニ東北地方ニ於テ然リトスルモ之ヲ採掘スルノ地稀ナリ其質脂質物ヲ吸收スルノ特性ヲ有シ髮洗粉、漂白用、石鹼製造ノ原料等ニ供セラル又植物及鑛油ノ精製ニ適シ其需用漸々増加スルノ狀況ナリ

第七、石膏

審査官 農商務技師 山下 傳吉

石膏ノ出品ハ山形縣ノ一點アリ本邦産ノ石膏ハ内國需用ノ極メテ少部分ヲ充タスニ止マリ専ラ之ヲ支那、北米合衆國及獨逸國ヨリノ輸入ニ仰クせめんと製造ノ原料、壁土、陶磁器製造ノ型、白堊ノ代用、塑像等其用途甚タ廣キニモ係ハラヌ其供給ノ大部分ヲ外國産ニ俟チ内國石膏採掘業ノ振ハサルハ當事者ノ一考ヲ要スル所ナリ

第八、鑛物標本其他瑪瑙、玉髓、蛇紋岩等

審査官 農商務技師 山下 傳吉

新潟縣ノ出品ニ係ル鑛物標本ハ佐渡國ニ産スルモノヲ集メ其種類二十五點アリ長野縣ノモノハ上諏訪町ノ産ニ係ル水晶、黒曜石、角閃石及蛋白石ノ四種ナリ其他新潟縣ヨリ瑪瑙、玉髓及蛇紋岩ヲ出ダシ群馬縣ヨリ木葉化石ノ出品アリ瑪瑙及玉髓ハ品質普通ニシテ蛇紋岩ハ轉石ニ屬セリ本項ノ出品ハ斯ノ如ク點數僅少ニシテ特ニ言フヘキコトナシ

ク點數僅少ニシテ特ニ言フヘキコトナシ

建築用及裝飾用石材、砥石審査報告

審査官 農商務技師 山下 傳吉

本類ノ出品ハ四十四人ニシテ出品點數五十九其大部分ハ建築用石材ニシテ砥石之ニ次ケリ而シテ建築用石材中ニハすれ一と瓦ヲモ含メリ

第一 建築用石材

建築用石材ハ其岩種安山岩、花崗岩及角礫凝灰岩ニシテ安山岩ノ出品其主位ヲ占ム

花崗岩ハ其質堅牢ニシテ又美觀ヲ呈セルモノアリテ裝飾用石材ニモ使用セラレ普通建築石材中最良ノモノナリ其產地ハ關西地方ヲ主トセシモ之ニ應スル適材ノ撰擇ハ花崗岩ノ需用ヲ來タシタルト共ニ交通ノ便開ケ關東地方ニ於テモ之ヲ採掘シテ盛ンニ市場ニ出タス茨城縣ノ如キモノアルニ至レリ其出品ハ甚タ少ナク只岩手縣ヨリノ三點アルノミ其内岩手郡築川村産ノ花崗岩ハ組織細粒ナルト稍粗ナルトノ二種アリテ共ニ其一面ヲ研磨シアリテ普通建築用材トシテ外裝飾用ニモ供セラルルモノナルコトヲ示セリ安山岩ハ輝石安山岩及石英安山岩ノ二種アルモ只一點ヲ除クノ外ハ都テ前者ニ屬セリ其質堅硬ニシテ耐壓力花崗岩ニ近ク關東ヨリ奥羽地方ニ互リ頗ル廣キ頒布ヲナシ之ヲ得ルニ便ナルノ地多ク

群馬縣主龍一府十四縣聯合共進會建築用及裝飾用石材砥石審査報告

堅牢ヲ主トセル建築ノ用材トシテ専ラ使用セラレ隨テ出品點數最モ多ク品質良好ナルモ產額ノ多キモ
 ノ少ナシ近來花崗岩ノ多ク東京地方ニ於テ使用セラルルニ至リシハ外觀ノ美ニシテ安山岩ト其價格ニ
 大差ナク安山岩ノ主產地タル相模地方ニ於ケル產量ノ運搬ニ便ナル所ハ漸ク減少シタルニ原因セルヲ
 以テ安山岩ノ產地ニ富メル地方ノ當業者ハ之ニ注意スルノ要アリ凝灰角礫岩ノ出品ハ一人ニシテ其質
 柔軟組織粗造ニシテ外觀美ナラサルモ加工シ易ク價格廉ニシテ廣ク使用セラルル石材ナリ而シテ其多
 クハ耐火性ナルヲ以テ石藏倉庫ノ建築及窰ノ如キ大氣ニ接觸スル所ノ用材ニ適セリ然レトモ大氣雨水
 ニ遇ヘハ崩壞シ易キヲ以テ當業者ハ可及丈ケ凝力ノ強クシテ崩壞ノ甚シカラサル材石ヲ撰フニ注意セ
 サルヘカラス

すれ一ト瓦ハ宮城及岩手二縣ノ出品ナリ前者ハ中生層中ニ產スル粘板岩ニシテ後者ハ秩父古生層ニ屬
 スル粘板岩ナリすれ一ト瓦トシテハ其質大氣ニ觸ルルモ崩壞容易ナラス平坦ナル薄板ニ剝割シ得ヘク
 釘穴ヲ穿ツニ破壞ノ患ナク硫化鐵ノ如キ分解シ易キ礦物ヲ含マサルモノヲ最良トス本邦ノ地質ハ極メ
 テ粘板岩ノ存在ニ富ムト雖モ斯ル性質ヲ具備スルモノ甚タ稀ナリ宮城縣產ノすれ一ト瓦ハ良質ナレト
 モ洋風家屋一部分ノ建造ニ供セラルルニ止リ未タ一般ニ舊來ノ土瓦ヲ使用スルノ習慣ニシテ其採掘業
 ハ顯著ナル發達ヲ見ス近來臺灣ニ於テモすれ一ト瓦ヲ出タスニ至リ其品質宮城縣產ノモノニ讓ラス

第二 裝飾用石材

本邦ニハ裝飾用石材ノ種類及其產額ノ大ナルモノ少ナシ今回ノ出品ニハ大理石アルノミ其茨城縣產ニ
 係ルモノハ純白ニシテ品質良好ナルモ產量多シト言フヘカラス岩手縣ノモノ又裝飾用ニ適スルモ未タ
 之ヲ採掘シテ市場ニ出タスニ至ラス

第三 砥石

砥石ノ出品ハ十四點ニシテ之ヲ其石種ニ由テ區別スレハ粘板岩及石英粗面岩ノ二種アリテ石英粗面岩
 其大部ヲ占ム砥石ノ特性ハ其組成礦物粒子ノ細粗均一ニシテ硬度ノ一様ナルニアリ石英粗面岩ノ砥石
 ニハ普通硫化鐵鐵ヲ含ミ純粹ナルモノ稀ナルハ其缺點トスル所ナリ出品砥材中ニモ之ヲ含ムモノ少ナ
 カラス今回出品ノ砥石ハ其材質ノ種類甚タ少ナク殊ニ砂岩ノ如キヲ全ク見サルハ甚タ寂寞タルノ感ア
 リ

鑛業用機械及器具審査報告

審査官 農商務技師 西尾 銈 次 郎

本類ニ於ケル出品ハ點數十點人員二人ナリ

探鑛用鐵鏈ハ普通ノ製作品ニシテ特ニ論評スルヲ要セス減摩合金タルやまと、あんちふりくしよん、
 めたるノ出品ハ硬軟七種及番外一種ナリ之ニ就テハ化學的及金屬組織學的ノ研究ナセシモ使用試験ハ

之ヲ省略セリ以下少シクニ試験ニ就テ述フヘシ

(一) 化學試驗

やまと、めたる合金八種ノ内分析ニ附シタルハ $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ 及番外ノ六種ニシテ $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ ハ省ケリ左ニ其成績(百分率)ヲ掲ク(東京鑛山監督署分析)

	鉛	安質母尼	錫	亞鉛	銅	合計
$-\frac{1}{2}$	七五、〇〇	一九、八六	三、三六	〇、四八	〇、〇二〇	九八、七二〇
$-\frac{1}{4}\%$	七一、五〇	九、三四	一七、六三	〇、八七	〇、〇〇四	九九、三四四
$+\frac{1}{4}$	七五、二六	九、四〇	一四、六二	〇、三六	〇、〇〇四	九九、六四四
$+\frac{1}{2}$	七七、三二	一〇、九五	一〇、八八	〇、六六	痕跡	九九、八一〇
番外	八〇、八七	一一、一九	六、六二	〇、五六	〇、〇〇四	九九、二四四
	七九、九九	一七、〇七	一、一七	〇、八九	〇、〇二七	九九、一四七

上表ニ據レハ鉛ハ何レモ百分ノ七十以上ヲ含有セル合金ニシテ安質母尼及錫ニテ其硬度ヲ附與セルモノナリ而シテ前者ハ九、三四乃至一九、八六ニシテ $\frac{1}{2}$ 及番外ノ比較的多量ナルヲ除ケハ他ハ適度ニ在リ錫ハ $\frac{1}{4}$ ヨリ $\frac{1}{2}$ ニ至ル迄一七、六二乃至六、六二ヲ含有シ硬度減スルニ從ヒ其含有量ヲ減少スルヲ見ル然レ共最硬タル可キ $+\frac{1}{2}$ ニ於テ其量僅ニ三、三六ニシテ他ニ比シテ安質母尼ノ含有量多シ $+\frac{1}{2}$ ノ硬度ハ主トシテ安質母尼ニ由リテ附與セルモノナランカ

去ル明治四十年東京勸業博覽會ノ審査報告ニ據レハ當時出品セシやまと、めたるノ成分ハ左ノ如シ

	鉛	安質母尼	錫	銅	合計
$-\frac{1}{2}\%$	六七、二五	二七、六五	四、六四	痕跡	九九、五四
$+\frac{1}{2}$	七五、一〇	一一、八三	二、五三	痕跡	九九、四六
	七七、二三	一七、二二	五、五一	痕跡	九九、九五

上表ニ據レハ該合金ハ安質母尼多量ニシテ錫少量ナルヲ見ル當時審査官侯博士ハしやーびー氏ノ試験ヲ引用シテ安質母尼ノ含有量ヲ二十以下ナラシムルヲ安全ナリト警告セル事アリ之ヲ今回ノ成績ト對比スルニ安質母尼ハ $\frac{1}{2}$ 及番外ノ外十二以下ニシテ錫ノ配合ニ於テモ著シク注意ヲ加ヘタルヲ見ル

(二) 組織試驗

次ニ本官ハ前記六種ノめたるヲ取り平滑ニ琢磨シ酸類ニテ腐蝕シ之ヲ顯微鏡ニテ檢セシニ $\frac{1}{2}$ ハ $\frac{1}{4}$ ヨリちくちく合金ノ地ニ安質母尼ノ合金ニ依リテ生スル不規則形ノ結晶斑晶狀ニ多ク存在スルヲ見ル又錫ト安質母尼トノ化合物 $\frac{1}{2}$ ノ結晶ハ甚タ稀ナリ之ニ反シテ $\frac{1}{4}$ ヨリ $\frac{1}{2}$ ニ至ル四種ニハ安質母尼ニ依ル結晶ノ外ニ錫安質母尼ノ化合物タル方形ノ結晶 $\frac{1}{2}$ ヨリモ多ク顯ル而シテ硬ヨリ軟ニ進ムニ從テ後者ノ量ヲ減スルヲ見ルハ恰モ化學試驗ニ於テ $\frac{1}{2}$ ニ於テ錫殊ニ少ク $\frac{1}{4}$ ヨリ $\frac{1}{2}$ ノ六種ニ於テ錫ノ秩序の配列アル成分ヲ有スル現象ト相一致セリ番外ハ前者ト其成分割合ヲ異ニスル事著シキカ故ニ其組織モ亦異ナ

千葉縣	茨城縣	栃木縣	山梨縣	長野縣	宮城縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	群馬縣	計
三〇六	一八二				二六六	二三四	二二四	三五五	二二	二〇二	二、一〇二
二九七	一七六				二二七	二二四	一八七	三五三	一九	一七三	一、七八三
一	一				一	一	一	二		一〇	
五八					一	一	一	一	一	四九	
一七	九				一	一	一	一	一	九五	
五七	三一				三	三	三	三	三	三二〇	
八三	四六				六	六	六	六	六	四七四	

鰯、節類、乾鮑其他審査報告

審査官 農商務技師 柘川 温
同 同 技手 小川 清 一

鰯ノ出品點數ハ二百九十二點其人員二百五十人ニ達セリ之ヲ出品セシ府縣ハ新潟、青森、岩手、山形、

宮城ノ五縣ニシテ新潟縣ノ出品最モ多數ヲ占メ之ニ次クハ青森トス 新潟縣ノ出品ハ西頸城郡産ノ八點ヲ除クノ外悉ク佐渡産ニ係リ乾燥、形狀、把束等通シテ良好ナリシハ彼ノ郡水産組合ノ多年本品ノ改良ニ意ヲ用キタルノ結果ニシテ殊ニ相川町ノ出品中ニ優良ノモノ乏カラサリシハ該組合本部ノ所在地ナルニ由ルト謂フヲ得ヘシ青森縣ノ出品ハ主トシテ下北郡ノ産ニシテ本回ノ出品ヲ見ルニ乾燥ハ一般ニ佳良ナリシモ仲熨ノ點ニ於テ往々周到ヲ缺キ脚肢整ハサルモノアリ或ハ今仍ホ眼球ヲ附着シ若クハ體ノ裏面ニ腸ノ一片ヲ附着セシムルノ弊習アルハ今後改良ヲ要ス本縣ノ柔魚ハ新潟地方ニ比シ品質遙ニ優良ナルカ故ニ下北郡水産組合等ニ於テ製造改良上一段ノ督勵ヲ加フルニ於テハ貿易市場ニ聲價ヲ博スルコト決テ難キニ在ラサルナリ岩手縣ノ出品ハ凡ヘテ於多福鰯ニシテ下閉伊郡産多數ヲ占メ之ニ次クハ氣仙郡産ナリ仲熨ノ概シテ良好ナルニ反シ乾燥一般ニ不良ニシテ溫氣ヲ含ム者多カリシハ寔ハ惜ムヘキノ點ニシテ是レ或ハ製了後降雨多クシテ手入ノ行届カサリシコト其主因タルヘシト雖モ他府縣産ニ比シ此點ニ注意ヲ缺キシハ一考ヲ要ス山形縣ノ出品ハ凡ヘテ他海郡飛鳥ノ産ニシテ原料ニ於テハ固ヨリ優良ト云フヲ得スト雖モ其製造上ニ至テハ近時改良ノ蹟ヲ認ム今後仲熨ト把束ノ二點ニ關シ尙ホ一層ノ注意ヲ用キルニ於テハ品價ノ上進期シテ俟ツヘシ

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十五類錫擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級	計
	點數	人員	一等	二等		
東京府						
神奈川縣	一九一	一五〇	一	五	七	二六
新潟縣						
埼玉縣						
千葉縣						
茨城縣						
栃木縣						
山梨縣						
長野縣						
宮城縣	二	二				一
福島縣						
岩手縣	二四	二三				四
青森縣	一七八	一七八	一	二	一	〇
山形縣	一七	一七				二
群馬縣						
計	二九二	二五〇	二	九	一二	四三
						六六

鯉節

鯉節ノ出品總點數ハ六百四十二點ニシテ其人員ハ五百五十人ニ達シ出品セシ府縣ハ一府七縣ニシテ出品ナキ縣ハ新潟、群馬、埼玉、栃木、長野、山梨、青森ノ七縣ナリ本聯合内ニテ沿海ノ府縣ハ漸ク十府縣ニシテ水産物ノ出品ハ聯合地方ノ廣キニモ係ハラズ陳列場面稍々寂寞タリ就中鯉節ノ類ノ産出スル方面ハ東南海岸ニ沿フ一府六縣ニシテ日本海ニ沿フ山形縣ノ如キハ鯉節漁業ハ近頃ノ創始ニシテ今日節類ノ産地トシテ算スルニ足ラス東南海ノ鯉漁期ハ最モ末期ニ屬シ例年七月以後ニシテ八月九月カ盛漁期トスレハ即チ製造期ト本會ノ出品期カ撞着セルヲ以テ開會ノ時期ニハ到底品格ノ良好ナル枯節ヲ出品スルヲ能ハス適々季節ノ早キ枯節ヲ看ルモ其産額ハ極メテ少數ニシテ一地方ノ利源トシテ看ルニ足ラス此地方ノ節ハ夏末ヨリ秋期ノ産ヲ以テ本産トセサルベカラズ如斯キ關係ヨリシテ本會出品ノ節類カ一般ニ不良ナリシハ遺憾ノコトナリ殊ニ本年ハ漁期モ例年ヨリ晚レ加之ノミナラス夏秋ノ候霖雨連續シテ水産物ノ製造上ニハ甚タシキ障害ヲ與ヘタレハ節類ノ如キモ其障害ニ逢ヒシ地方モ亦必ス多カルヘシ是等ノ原因ヨリシテ出品ノ節類モ半成品ト見做スヘキモノ殊ニ多ク陳列中ニ形色ノ變化セシモノモ少シトセス之ヲ切言スレハ本會ノ開期ハ節類ノ出品時期ニアラス殊ニ茨城岩手二縣ノ節類ハ例年ニ比シ概シテ不良ナリ纒カニ千葉縣安房郡ノ一部福島縣石城郡ノ一部ニ於テ看ルヘキ鯉節ノ出品アリ青森縣ノ如キハ産地ニモ係ハラズ一點ノ出品ナキハ時季ノ關係ニ因ルモノト推測ス斯ク本會出品

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會錫節類乾鮑其他審査報告

ノ節類ノ不良ナリシハ全ク當業者ノ不熱心ニ因ルモノニアラサルヘキモ茲ニ將來出品ノ爲メ注意スヘキコトアリ經節ハ三番微以上ノ成品ニアラサレハ出品スヘカラス陳列中ニ形色ヲ變スル如キ半成品ヲ出品スルハ出品者ノ爲メ凡テノ點ニ於テ不利益ナリ又昨今他人或ハ他地方ノ製品ヲ以テ自己ノ製品トシテ出品セシモノアリ爰ニ聯合共進會ニ關スル規則ノ發布アリ是レニ因レハ如斯基出品ニシテ若シ發覺スルニ於テハ相當ノ制裁ヲ加フルノ條項アリ條項ノ如何ニ係ハラス斯ル出品者ノ意思カ那邊ニ存スルカ殆ントト了解ニ苦シムコトナリ抑モ出品物ノ良否ハ直ニ出品者平素ノ行跡ヲ凡ソ判別スルニ足ルモノナリ平素謹勉ナル出品者ノ出品ハ其製品必ス良好ナルモノニテ既往數回ノ博覽會共進會ノ出品ニ徴シテ歷々タリ他人ノ製品ヲ以テ自己ノ製品トシテ出品シテ耻テサル者ハ唯タ虛榮虛利ヲ以テ世人ヲ瞞着セントスルモノニテ眞個ノ實業家ニアラス從來是等ノ出品ハ獨リ水産物ノミナラス各類ノ出品物ニモ往々見聞スルトコロナリシカ昨今ニ至ツテ殊ニ酷タシキ傾向アルヲ以テ今日之ヲ默止スルニ忍ヒス將來ノ爲メ勢ヒ出品者ニ戒飭ヲ加ヘサルヘカラサルニ至レリ出品物ハ平素製造スル物品ヲ陳列シテ自家ノ製品ハ平素如斯基製品タルコトヲ世人ニ知ラシメ自家營業ノ確實ナルコトヲ表明スヘシ茲ニ注意トシテ一言ヲ添フ

左ニ參考ノ爲メ經節類ノ出品府縣及授賞ノ成績表ヲ掲ク

第三十五類節類擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
東京府	一一〇	一五七		一		一	二	四一	
神奈川縣	二二								
新潟縣									
埼玉縣									
千葉縣	一一七	一一二		四		五	二〇	三〇	
茨城縣	八八	八七		三		四	一六	二三	
栃木縣									
山梨縣									
長野縣									
宮城縣	一八〇	一五三	一	四		八	二七	四〇	
福島縣	一三五	一〇六		三		五	一九	二八	
岩手縣	八六	六八					二	一八	
青森縣									
山形縣	五	二					一	一	
群馬縣									
計	六四二	五五〇	三	一八	二七	九七	一四六		

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會經節類乾飽其他審査報告

乾鮑ノ出品點數ハ百點其人員九十四人ニ達シ之ヲ出品セシ府縣ハ神奈川、茨城、福島、宮城、岩手、青森、新潟ノ七縣ニシテ就中出品點數ノ最モ多キハ岩手縣ノ三十八點ニシテ青森縣ノ二十七點之ニ次ク

本回ノ出品中ニハ明鮑ト稱スルモノハ其數甚タ少ク多クハ灰鮑若クハ明鮑ト灰鮑トノ中間製多キヲ認メタリ而シテ特ニ注目ヲ惹キシハ岩手、茨城二縣ノ出品ニシテ岩手産ニ在リテハ其出品意外ニ多數ニ上リシニ係ラス大サニ於テモ殆ト能ク整一シテ小粒ノモノ乏カリシニシテ茨城産ニ在リテハ出品點數ニ至テハ僅少ナリシト雖モ其品質及製法ノ優良ニシテ形色殆ト間然スヘキ所ナカリシニ依レリ蓋シ本回ニ於ケル岩手縣ノ偉觀ハ全ク清人「ボイコット」開始ノ爲販路ノ停滯ヲ機トシ自治的ニ濫獲ヲ戒メ蕃殖ニ努メタル結果ニ依ルモノナレハ千葉、茨城等該漁礁ノ將ニ荒廢セントスル地方ニ在リテハ須ラク三省ヲ要ス灰鮑製中特ニ改良ヲ要スヘキハ多量ノ腸ヲ附着セシムル舊法ニシテ多量ノ腸付品ハ容易ニ乾燥シ難ク隨テ腐敗ヲ促進セシムルノミナラス蟲付ヲ多カラシメ且他ノ製品ニモ忌ムヘキ綠青色ノ色素ヲ傳播セシムルノ害アリ故ニ凡テ俗ニ改良製ト稱スル腸ノ附着少キ方法ニ改ムルコト肝要ナリ又灰鮑ノ特長トシテハ可成薄ク一帯ニ白粉ヲ附着セシムヘキモノナルニ殊更ラ石灰又ハ灰ヲ使用シ濃ク着色セシムルモノアリ是レ俗ニ「オシロイ」鮑ト稱セラル、モノニシテ清商ノ忌避スルモノナレハ注

意ヲ要ス

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞ノ成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十五類乾鮑擬賞一覽表

府 縣 名	出 品		擬 賞				級 計
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等	
東 京 府	一	一					一
神 奈 川 縣	四	四					一
新 潟 縣							
埼 玉 縣							
千 葉 縣	六	六					三
茨 城 縣							
栃 木 縣							
山 梨 縣							
長 野 縣							
宮 城 縣	二	二					一
福 島 縣	一	一					一
岩 手 縣	三	三					六
青 森 縣	二	二					六
計	二七	二六	一	二	一	一	六九

群馬縣並一府十四縣聯合共進會鮑類乾鮑其他審査報告

山形縣	一〇〇
馬形縣	九四
計	二
	五
	四
	一五
	二六

四百八

海參

海參ノ出品點數ハ四十六點其人員亦同數ニ達セリ之ヲ出品セシ府縣ハ青森、岩手、宮城及神奈川ノ四縣ニシテ就中出品點數ノ最モ多カリシハ青森縣ノ二十八點ニシテ岩手縣ノ十一點之ニ次ク
 海參ニ於テモ干鮑ト同ク充分成熟シタル原料ヲ使用シ製造セル者多カリシヲ以テ其出品概シテ佳良ナリシカ殊ニ良品ノ出品多カリシハ青森縣ニシテ岩手縣ノ出品ハ比較的劣レリ本品製造ノ缺點トシテハ形狀ヲ美大ナラシメン爲メ差子ト爲シタルモノアリ又脱腸法不完全ノ爲砂喰ノモノアリ之等ハ商取引上嫌忌セラル、モノナルヲ以テ速ニ改善スヘシ此他衰熟不足ノ爲假令乾燥ニ意ヲ用キタルノ跡アルモ尙ホ乾固セスシテ品位ヲ損セルモノアリ注意ヲ要ス元來三陸地方ハ全國中海風ノ盛產地ニ屬セルニ係ラス近年著シク其産額ヲ減シタルハ官民共ニ認ムル所ナルカ故ニ之カ蕃殖保護ノ途ヲ立ルコトモ亦當業者刻下ノ要務タルヘシ

第三十五類海參擬賞一覽表

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣名	出品擬賞級			
	點數	人員	一等	二等
東京府	一	一		
神奈川縣				
新潟縣				
埼玉縣				
千葉縣				
茨城縣				
栃木縣				
山梨縣				
長野縣				
宮城縣	六	一		
福島縣				
岩手縣	二	一		
青森縣	二八	一		
山形縣				
計	四六	四六	一	一

鱈

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會鰯節類乾鮑其他海產報告

四百九

鱈魚ノ出品點數ハ十七點其人員十五人ニシテ之ヲ出品セシ府縣ハ神奈川、新潟、千葉、宮城、岩手、青森ノ六縣ニ互レトモ品質區々ニシテ擧テ賞スヘキモノ少シ是レ原料ノ鱈魚トシテ適當ナルモノナク鼠紋ニ在ラサレハつのもち稱スル小鱈ノ出品ナリシト一ハ切方ノ當ヲ得スシテ多量ノ贅肉ヲ附着スルモノ多カリシニ依レリ小鱈ハ近年其產額増進シ本聯合區域内ニテハ小鱈ノ方大鱈ニ比シ多量ヲ占ムト雖モ商品トシテ本品ノ通弊ハ不用ナル背鱈、腹鱈ヲ多數混入シテ荷造ヲ施スコトニ在リ是レ却テ當業者ノ不利益ヲ招クモノナルカ故ニ宜シク改良ヲ要ス

第三十五類鱈魚擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
東京府	二	一					一
神奈川縣	一	一					一
新潟縣	二						二
千葉縣							
茨城縣							
栃木縣							
計	五	三					三

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
山梨縣							
長野縣							
宮城縣	四						四
福島縣	三						三
岩手縣	五						五
青森縣							
山形縣							
群馬縣	一						一
計	一七	一五					一七

表 干 鱈

表干鱈ノ出品點數ハ三十二點其人員三十一人ニシテ之ヲ出品セシ府縣ハ千葉、茨城、宮城、岩手、青森ノ五縣ニシテ就中出品點數ノ多カリシハ青森縣ニシテ千葉縣ハ其次位ニ在リ由來該地方ノ小鱈ハ肥料ニ製造スルニアラサレハ田作ニ爲セシニ近年盛ニ表干鱈ニ製造スルニ至リシハ一進歩ニシテ品位モ亦漸次改善ノ傾向アルハ喜フヘキ現象ナレトモ之ヲ中國地方ノ産ニ比較スルニ原料其者ニ於テ遠ク遜色アルハ惜ムヘキコトナリ而カモ表干鱈ノ販路ハ漸次開擴シテ已マサルカ故ニ品位ノ精選ニ努ムルト共ニ可成價格ノ低廉ヲ期スルニ於テハ之カ市場ニ優勢ヲ占ムルコト疑ヲ容レズ

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

群馬縣主龍一府十四縣聯合共進會鱈魚類乾鮑其他審査報告

第三十五類養干鯉擬賞一覽表

府 縣 名	出 品		擬 賞 等 級				計
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等	
東 京 府							
神 奈 川 縣							
新 潟 縣							
埼 玉 縣							
千 葉 縣	八						
茨 城 縣	五						
山 梨 縣							
長 野 縣							
宮 城 縣	一						
福 島 縣							
岩 手 縣	三						
青 森 縣	一						
山 形 縣							
群 馬 縣							
計	三三	三一			二	四	六

田 作

田作ノ出品點數ハ五十五點ニシテ其人員亦同數ナリ之ヲ出品セシ府縣ハ千葉、茨城、宮城、福島、岩手及青森ノ六縣ニシテ就中出品點數ノ最モ多キハ養干鯉ニ於ケルト同ク青森縣ナリ之等ノ地方ハ從來田作ノ名産地ナルカ故ニ品位佳良ノモノモ乏カラサレトモ其内優良品ノ多キハ茨城縣ヲ推ササルヲ得ス茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十五類田作擬賞一覽表

府 縣 名	出 品		擬 賞 等 級				計
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等	
東 京 府							
神 奈 川 縣							
新 潟 縣							
埼 玉 縣							
千 葉 縣	九						
茨 城 縣	六						
山 梨 縣							
長 野 縣							
計					一	二	三

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會錫箔類乾鰯其他審査報告

郡縣名	出	品	擬	賞	等	級
計	數	人	一	二	三	四
千葉縣	一三七	二				一
茨城縣	一三七	二				一
栃木縣	一三七	二				一
山梨縣	一三七	二				一
長野縣	一三七	二				一
宮城縣	一三七	二				一
福島縣	一三七	二				一
岩手縣	一三七	二				一
青森縣	一三七	二				一
山形縣	一三七	二				一
群馬縣	一三七	二				一
計	一三七	二				一

佃養ノ出品點數三十七點ニシテ其人員二十五人ナリ之ヲ出品セシ府縣ハ神奈川、新潟、千葉、茨城ノ四縣ニシテ出品點數ノ最モ多キハ茨城縣トス本品中ニハ紗、蛤、蝦、鮓、鮒等ノ製品アリタレトモ多數ヲ占メシハ紗ノ佃養ニシテ良品ノ多キハ茨城縣ノ出品ニ在リ是レ同縣ハ近年之カ製造ニ意ヲ用ユルノ結果ニシテ色澤風味ノ加減能ク時世ニ適合シタルハ賞揚スルニ足レリ新潟縣ノ出品ニ至テハ眞ノ館

佃 養

養ニシテ甘味強キハ缺點ナリ概シテ日本海方面ニハ此式ノ製法行ハルレトモ廣ク販路ヲ求メントスルニハ必ラス改良ノ要アルヘシ
茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員及擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十五類佃養擬賞一覽表

府縣名	出	品	擬	賞	等	級
計	數	人	一	二	三	四
東京府	八	二				
神奈川縣	四	三				
新潟縣	八	二				
埼玉縣	八	二				
千葉縣	一七	六				
茨城縣	一七	六				
栃木縣	一七	六				
山梨縣	一七	六				
長野縣	一七	六				
宮城縣	一七	六				
福島縣	一七	六				
岩手縣	一七	六				
計	一七	六				

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會餉節乾飽其他審査報告

寒天、海苔、石花菜其他審査報告

審査官 農商務技師 柘川 温
 同 農商務技師 小川 清一

寒天

寒天ノ出品點數ハ二十三點其人員二十二ニシテ之ヲ出品セシ府縣ハ長野ト神奈川トノ二縣ナリシモ
 神奈川縣ノ出品ハ其實長野縣ノ生産ニ係レルヲ以テ本回ノ出品ハ長野縣ノ獨占ト云フヲ得ヘシ之ヲ前
 回ニ於ケル長野市主催ノ聯合共進會ニ比スレハ管ニ出品點數ノ減少セルノミナラス品位ニ於テモ多少
 劣レル所アリシハ遺憾ニ堪ヘサルナリ是レ一ハ氣候ノ影響ニ支配サレシモノナランモ又一ハ改良ノ念
 懈怠セシニ在ラサルカ注意ヲ要ス本縣ハ從來角寒天ノ生産地ナリシニ近年細寒天ヲモ盛ニ製造スルニ
 至リ且其各自生産額ヲ彼此協定シテ需給ヲ調和シ市價ノ暴落ヲ防止シツツアルカ如キ能ク時世ニ適合
 シタル方法ニシテ喜フヘキ現象ト謂ハサルヘカラス尙ホ此際當業者ハ原料ノ購入及製造方法上ニ於テ
 モ一致ノ步調ヲ取ルコト緊要ナルヘシ

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十六類寒天擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
東京府	二	一					
神奈川縣							
新潟縣							
埼玉縣							
千葉縣							
茨城縣							
栃木縣							
山梨縣							
長野縣	二	二	一	一	一	三	六
宮城縣							
福島縣							
岩手縣							
青森縣							
山形縣							
群馬縣							
計	二三	二二	一	一	一	三	六

乾海苔

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會寒天海苔石花菜其他審査報告

乾海苔ノ出品點數ハ二百二十八點ニシテ其人員二百十六人ノ多キニ達セリ之ヲ出品セシ府縣ハ東京、神奈川、千葉、宮城、岩手、青森ノ一府五縣ニシテ就中出品點數ノ最モ多キハ千葉縣ニシテ東京府ハ第二位神奈川縣ハ第三位ニ在リ是レ有名ノ產地タル東京灣ニ臨メルカ爲ニシテ近年千葉縣ニ於テハ銳意改良ニ努メタル結果其製品モ概シテ佳良ナリト雖モ猶ホ之ヲ東京府ノ出品ニ比較シ遜色ヲ免レサルハ一ニ原料其者ニ歸着スト云フヘク同縣ノ爲ニ惜マサルヲ得ス神奈川縣ノ出品ハ殆ト全部カ各帖折目ノ心ニ一條ノ葉ヲ挿入セシハ戒飭スヘキ點ニシテ之ニ依リ固有ノ香味ヲ毀損スルヲ決シテ少キニ在ラス其他ノ出品ニ至テハ原料品質ノ遠ク及ハサルハ勿論焙乾貯藏法ノ宜キヲ得サル爲概シテ濕氣ヲ帶ヒ固有ノ香味ヲ失ヒタリシハ改良ヲ要ス

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員及擬賞成績ヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十六類 乾海苔擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
東京府	七三	六四	一			四	一七
神奈川縣	三四	三三		一			八
新玉縣							
埼縣							
計							

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
千葉縣	一〇一	一〇〇					二七
茨城縣							
栃木縣							
山梨縣							
長野縣	七	七					二
宮城縣							
福島縣	一一	一一					三
岩手縣	二	二					三
青森縣							
山形縣							
群馬縣	二二八	二二六	一	八	一	三	五七
計							

昆布

昆布ノ出品點數ハ四十一點其人員四十人ニ達シ之ヲ出品セシ府縣ハ茨城、岩手及青森ノ三縣ニシテ點數ノ最モ多キハ青森縣ナリ出品種類ハ元揃昆布、花折昆布、長切昆布、及刻昆布ノ四種ニシテ前二種ノ出品最モ多カリシカ概シテ乾燥ノ不良ナリシハ缺點ナリ而カモ品位ノ比較的可良ナルモノヲ擧クレハ青森縣ヲ第一トス刻昆布ハ岩手及茨城二縣ノ出品ニシテ製造ノ通シテ當ヲ得タルハ一進歩ト謂フヘ

群馬縣並一府十四縣聯合共進會寒天海苔石花菜其他審査報告

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十六類昆布擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級			
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計	
東京府								
神奈川縣								
新潟縣								
埼玉縣								
千葉縣								
茨城縣								
栃木縣								
山梨縣								
長野縣								
宮城縣								
福島縣								
岩手縣								
青森縣								
計	三二九	三一八			二	一	六二	
							八二	

府縣名	出品	擬賞等級				
點數	人員	一等	二等	三等	四等	計
山形縣						
群馬縣						
計	四一	四〇				三
						八
						二

和布

和布ノ出品點數ハ十八點ニシテ其人員十七人ナリ之ヲ出品セシ府縣ハ神奈川、新潟、宮城、福島、青森ノ五縣ニシテ點數ノ多キハ宮城縣ナリ品位ニ於テモ宮城縣ノ出品ハ凡ヘテ鳴戸製ニ改良セラレタルヲ以テ可良ノモノ少シトセス他縣ノ出品モ亦宜ク此製ニ改ムルヲ要ス

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十六類和布擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級			
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計	
東京府								
神奈川縣								
新潟縣								
埼玉縣								
千葉縣								
計	一四	一四						

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會寒天海苔石花菜其他審査報告

群馬縣	七九	七八				四	一六	二一
計								

四百二十八

惠胡

惠胡ノ出品點數ハ八十五點ニ達シ其人員亦同數ナリ之ヲ出品セシ府縣ハ新潟、青森、山形ノ三縣ニシテ青森縣ノ出品過半ヲ占ム同縣ノ出品ハ洗滌乾燥ノ點ニ於テ可ナルモノアリト雖モ原料品質ニ至テハ新潟縣ニ一步ヲ輸セサルヲ得ス

茲ニ參考ノ爲府縣別出品點數人員ト擬賞成績トヲ表示スレハ左ノ如シ

第三十六類惠胡擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
東京府							
神奈川縣	一八	一八				二	三
新潟縣							五
埼玉縣							
千葉縣							
茨城縣							

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
山梨縣							
長野縣							
宮城縣							
福島縣							
岩手縣							
青森縣	六四	六四				二	一五
山形縣	三	三					一
群馬縣	八五	八五				四	一九
計							二三

食鹽

食鹽ノ出品點數ハ十五點ニシテ其人員亦同數ナリ之ヲ出品セシ府縣ハ神奈川、宮城、青森ノ三縣ニシテ品位ノ良好ナルモノニ至テハ神奈川縣及宮城縣一部ノ出品ヲ推サ、ルヲ得ス

第三十六類食鹽擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
東京府							

群馬縣主僅一府十四縣聯合共進會寒天海苔石花菜其他審査報告

四百二十九

出品點數人員及授賞數一覽表

府縣別	出品點數					人員	授賞數							
	網地	釣魚	網釣	絲漁	船網		具	副漁具	計	一等	二等	三等	四等	計
東京						一								
神奈川						一								
新潟						正								
埼玉						六								
千葉						一								
茨城						三								
栃木						三								
山梨														
長野														
宮城						一								
福島						一								
岩手						一								
青森						一								
山形						一								
群馬						一								
計	一〇三	五	一	八	三	二	一	二	一	二	一	一	二	一

右表ニ依レハ岩手縣ノ出品點數百三十八點ヲ除キテハ各府縣共出品點數極メテ少ク其ノ種類モ數種ニ過キサリシハ遺憾ナレトモ製品ハ之ヲ四十一年開設ノ第六回奥羽六縣聯合共進會ニ比シテ一段ノ進歩ヲ認メタリ然レトモ關西ノ夫ニ比シテ尙及ハス是レ關西ニ於テハ多數漁業者競争ノ結果精巧ノ漁具ヲ用ヒ新規ノ漁具ヲ考案シ漁場ヲ遠洋ニ求メ互ニ相刺戟シ相進歩シ終ニ現今ノ漁業狀態ニ及ヘリ關東北地方ニ於テモ遠洋漁業ニ從事スルモノアリト雖一般沿岸漁業ニ從事スル漁業者ハ概シテ進取ノ思想ニ乏シク價格ノ如何ニ拘ラス善良ノ漁具ヲ求メンヨリ寧ロ廉價ヲ喜フノ傾向アリ漁業ノ方法モ亦短期回收ヲ計ルモノ多キヲ以テ勢ヒ進歩モ遲々タルナリ近來本邦ノ遠洋漁業ハ著シク發達シ漁業開發ノ各要素モ亦完備セントシツ、アルヲ以テ該地方漁業者ハ須ラク本邦漁業ノ大勢ニ鑑ミ進ンテ開發的漁業ニ努メサルヘカラス

今左ニ出品種類ニヨリ項ヲ別チテ之ヲ批評セン
網地

出品點數百三點内岩手縣九十四點ヲ占メ其他ハ福島縣茨城縣ノ數點ナリトス綿網地ハ概シテ原料製作粗惡ニシテ之ヲ關西地方ニ比シ甚シク遜色アリ現今奥羽北海道地方ニテハ其ノ廉價ナルモノヲ喜ブノ風アルモ早晚今日ノ如キ粗網ノ供給ニ満足セサルニ至ルヘキヲ信ス宜シク其ノ原料製作ニ意ヲ用ヒサルヘカラス近來岩手縣ニ編網機ヲ使用スルモノアルニ至リタルハ喜ハシキ現象ナレトモ編網機製網地

ニハ結節不完全ノモノアリ又手編キニモ網目不規則ナルアリ又往々網絲ノ上撚強キニ失スルモノ上下撚共ニ強キモノアリ是等ハ製品ノ外觀ヲ裝ハントシテ其實効ヲ缺クモノト云フヘシ麻網出品ハ岩手縣ノ三十點ニシテ之ヲ綿網地ニ比シ概シテ良好ニシテ製品一定シ且廉價ナリ然レトモ往々撚度強キニ失シ結節緊締セサルモノアルハ改善スヘシ

釣 鈎

大ハ鮫鮪ヨリ小ハ鯊鱈鈎ニ至ル多種ノ出品ニシテ漁業者ノ自製セルモノ少ナク多ク鈎製造業者ノ製品ナリ近來分業的ニ鈎鈎製造業起リテヨリ材料ノ撰擇、燒入、磨方、鍍鐵、鈎ノ形狀等ノ研究ニ努ムルニ至リタルハ一進歩ト謂フヘシ今回ノ出品中磨方鍍鐵粗雜ナルモノ又質ノ剛堅彈性其ノ度ヲ失シタルモノアリ或ハ鈎ノ形狀ヲ魚ノ習性漁法ニ依ラスシテ只多種多樣ヲ主トセルノ嫌アリ擬餌鈎中群馬縣渡邊卯兵衛出品ノ淡水魚用蟲形擬餌鈎ハ精巧ト稱スヘク宮城縣岩手縣ノ鳥賊角モ概シテ良好ナレトモ鯉角ハ劣等品多ク材料形狀共ニ改良ヲ要ス又鈎ハ眞鍮製ノモノ少ナク錫鍍ノモノ多ク往々鍍鐵セサルモノアリ

網、鈎絲

出品點數八點ニシテ内山形縣高板盛藏出品ノ人造テグスハ絹絲ニ防水藥ヲ塗付シタルモノニテ一層其ノ撚度ニ注意セハ必ス内外ノ需用多キニ至ルヘシ岩手縣細川幸次郎出品ノ鮪立繩籠目拔延繩用幹繩ハ

品質撚度良好ニシテ價額亦高價ナラス其ノ他縞絲モ概シテ善良ナリ

漁 船

新潟福島岩手ヨリ各一點ノ模型船出品アリ内新潟縣丸山文吉出品ノ改良鮪流網船ハ日本形漁船ヲ改良シ水密甲板トナシ船口及肋骨ヲ付シ船首ニ三角帆ヲ展開シ輕快堅牢ヲ主トセルハ此ノ地方ノ如ク漁場比較的近海ニシテ漁船一朝暴風ニ遭遇スル時ハ極力歸航ヲ急キ沖合ニ凌クコトヲ爲サ、ル現今ノ漁業狀態ニハ適合セルモノト謂ハサルヘカラス今其ノ構造ノ大要ヲ示セハ左ノ如シ

新潟縣丸山文吉出品改良鮪流網漁船構造大要

船體	長サ	四十尺
	幅	九尺六寸
	深サ	二尺八寸
敷	用材杉	長サ前二十四尺七寸後七尺五寸立一尺二寸厚サ五寸
舳	用材槻	長サ八尺三寸
		付留ノ高四尺二寸
戸立	用材杉	厚サ二寸六分
		上肩五尺六寸

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會漁船漁網其他審査報告

下肩五尺四寸

加敷 用材杉 厚サ一尺八分

舫 九寸八分

開キ 九寸七分

表 七寸五分

上棚 用材杉 厚サ一尺六分

開キ 二寸六分

表 三寸三分

接手 一寸

仕切板及肘材 仕切板六枚 肘材天然曲リ材十六本ヲ付ス

甲板 全部水密甲板トス

魚艙 壁ヲ二重ニシ氷又ハ雪ヲ以テ魚類ヲ貯藏ス

舵 檣材 長サ十二尺

檣 長サ三十七尺

帆裝 和洋折衷トス

福島縣門馬安次郎出品ノ鯉釣漁船ハ精巧ニシテ能ク内部ノ構造ヲモ窺フヲ得レトモ何等改良ノ跡ヲ認
 メス該地方に於ケル鯉漁業ハ斯ノ如キ純日本形漁船ヲ以テ帆ノカト手漕トニヨリ運轉スルカ如キハ時
 勢ノ許サ、ル時期ニ到達スヘシ競争ノ結果必ス動力ヲ應用スルニ至ルヘシ此種ノ漁船ハ速ニ改良セサ
 ルヘカラス右ノ外今回ノ出品中西洋形模型船一隻アリシモ製作粗雜ニシテ其ノ構造裝置ノ何タルヲ窺
 フ能ハス

今ヤ本邦ノ漁業ハ進ンテ遠洋漁業ノ發達ヲ觀ルニ至レリ而シテ該漁業發達ノ第一義ハ漁船ニアリトス
 然ルニ日本形漁船ハ累年難破覆没ノ厄ニ際會スルモノ多キヲ以テ各地漁船改良ノ聲ヲ高ムルニ至リタ
 ルハ喜ハシキ現象ナリト雖日本形漁船ハ其ノ構造及材料ノ配置等根本的缺點ヲ有スレハ之ヲ如何ニ改
 善セントスルモ單ニ局部ノ改良ニ止マリ却ツテ日本形漁船ノ特徴ヲ失フニ至ルヘキヲ以テ日本形漁船
 改良ハ漁業ノ種類漁期漁場沿岸ノ状態等ニヨリテ自ラ限アルモノナレハ此ノ範圍ニ於ケル改良ニ留意
 セサルヘカラス然ラハ遠洋ニ出漁スルモノハ須ラク數日或ハ數十日ヲ海上ニ凌キ暴風怒濤ト闘ヒテ難
 破覆没ノ憂ナク且漁具使用ニ容易ナル如ク設計セラレタル西洋型漁船ニ依ラサルヘカラス由來關東北
 ノ地ハ鮪鯨鱈目拔漁業鰯虎鰯鰒鰯業等盛ニシテ漁船ニ西洋形帆船ヲ用フルモノ多ク四十年中ニ於テ
 ハ宮城岩手兩縣下ニ於ケル西洋形漁船數ハ凡五十隻ニ及ヒ實ニ全國ニ冠タリシナリ然ルニ其ノ後遠洋
 漁業ノ發達著シク四十三年八月中ノ調査ニヨレハ一般ニ遠洋漁業獎勵法ニヨル漁船及動力ヲ應用スル

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會漁船漁網其他審査報告

漁船ノ數ハ五百四十一隻其噸數一萬七千三百三十一噸ヲ算スルニ至リ今ヤ前記二縣ノ如キハ人後ニ落テ
タリ其ノ他ノ漁業ニ於テ東海以西ノ地方ニ及ハサルコト遠シ然ルニ今回ノ出品ハ僅ニ三點ニシテ其ノ
種類ノ如キモ日本形改良ヲ主トセルモノニシテ之ヲ四十二年開設ノ奥羽六縣聯合共進會ノ出品ニ比シ
テ甲乙ナシ又以テ此地方漁業者ノ進取ノ氣象ニ乏シキヲ知ルニ足ル須ラク本邦漁業ノ大勢ニ鑑ミ奮勵
一番猛進スヘシ

釣具

出品點數十二點ニシテ内新潟縣羽生伊右衛門出品ノ鳥賊釣具ハ簡便ニシテ善ク一人ニテ四本ノ釣ヲ操
ルコトヲ得茨城縣鈴木彦八出品ノ鯛ハ釣ハ嶄新ノ考案ト謂フヘシ岩手縣新沼金作ノ「エサリ」ハ廣キ
漁場ニ用ヒラル、ノ點ヲ特徴トス其ノ他ハ普通ノ出品ニシテ何等進歩ノ跡ヲ認メス

網具

出品ハ山形縣白幡仲治ノ鮪流網福島縣野崎武兵衛ノ揚繰網ノ二點ニシテ其ニ該地方ニ適切ニシテ且ツ
新規ノ漁具ナリ近來沿岸魚族ノ減少ニ伴ヒ此ノ種ノ漁具ヲ以テ新漁場ヲ求ムルハ漁業開發ノ一端ト稱
スヘク前記ノ漁具ハ必スシモ精緻ニ非サルモ使用簡易ニシテ沿岸ヲ離レ沖合又ハ遠洋ニ使用セラルヘ
キモノナリ揚繰網模型ハ善ク其ノ構造ヲ窺フヘク流網ハ材料構成共ニ注目ニ値セリ

染織工業(輕紡及生産ニ關スル方法成績ヲ除ク)審査報告

審査官	花筵検査所技師	杉山良俊
同	愛知縣工業技師	大塚久次郎
同	京都府技師	栗原深造
同	農商務技師	大山清一郎
同	三重縣工業試驗場技師	佐田友雄
同	工業試驗所技師	荒井谷吉
同	農商務技師	近藤只三

概況

今回ノ聯合府縣ハ東京神奈川新潟埼玉千葉茨城栃木山梨長野宮城福島岩手青森山形群馬ノ一府十四縣
ニシテ明治四十一年ニ開設シタル福島縣主催奥羽六縣聯合共進會及長野縣主催一府十縣聯合共進會ヲ
併合開催シタルモノニシテ本會ニ加名セサルハ愛知秋田ノ二縣ナリ小官等ノ擔任審査シタルハ第六部
染織工業第三十九類ヨリ第四十六類ニ至ル八類ニ屬シ出品點數ハ八類ヲ通シテ一萬五千三百一十一人員
四千九百二十五之ヲ總出品ニ比スレハ點數ニ於テ約二割人員ニ於テ約一割ニ相當セリ今各府縣別ニ出
品點數及人員等ヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣名	出 品 點 數 及 人 員					
	第三十九類	第四十類	第四十一類	第四十二類	第四十三類	第四十四類
東 京	三,四九七	四〇〇		六	二四	二六
神 奈 川	二九	一三		一七	八四	二四
新 潟	五七	七九	〇	一	六	一
埼 玉	七八	一七		三	三	一
千 葉	一一	二七		二	三	一
茨 城	一	四		一	一	
栃 木	二五	二七		三	一	
山 梨	二五	二七		三	一	
長 野	二〇	三		二	一	
合 計	一,七六八	四九		二四	二九	一,七六八

府縣名	出 品 點 數 及 人 員					
	第三十九類	第四十類	第四十一類	第四十二類	第四十三類	第四十四類
宮 城	一八〇	一六				
福 島	四二	一〇九				
岩 手	九	三六				
青 森	三	九				
山 形	三二	五九				
群 馬	一,四六六	一四				
計	二,一〇	一四三				

右各類ノ出品ハ本館内ニ陳列セラレ其坪數九百六十七坪九七ニシテ各府縣出品ノ概勢ヲ示サンカ爲メ
左ニ陳列間數ヲ掲ク

東 京

六、一、五

神 奈 川

八、五

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

四百四十三

新潟	六二、	埼玉	六〇、
千葉	六、	茨城	六、
栃木	六二、	山梨	一四、五
長野	一七、	宮城	一五、
福島	一三、五	岩手	一八、五
青森	五、	山形	五五、五
群馬	一二四、		
計	五三二、		四百四十四

審査ハ九月廿七日ヲ以テ開始シ十月十六日現品ノ鑑定ヲ結了シ直ニ業況ノ調査ニ着手シ同月廿五日ヲ以テ全部擬賞ヲ終了セリ
 審査方法ハ各類ヲ通シ左記ノ項目ニ依リ合議ノ方法ヲ採レリ

審査法

第一 鑑定

- 一 下扱並ニ製作技術ノ巧拙機械利用ノ多少及其適否
- 二 精練晒白並ニ整理ノ良否又ハ學理應用ノ程度

三 意匠地合ノ良否並ニ原料材料ノ撰擇
 四 丈幅量目價格ノ適否需用ノ廣狹

第二 調査

一本業ノ状態並ニ出品者ノ業況等ヲ調査ス

審査ニ關係シタル職員ハ審査官七名審査員三十三名ニシテ審査官ハ各類ニ互リ責ヲ負フト雖モ假リニ左ノ分掌ヲ定メ審査進行上ノ便利ヲ計レリ

第三十九類 絹織物	審査官 栗原深造
第四十類 綿織物	同 大山清一郎
第四十一類 麻織物及其交織物	審査官 大塚久次郎
第四十二類 毛織物及其交織物	同 住田友雄
第四十三類 綿絹交織物	審査官 荒井谷吉
	審査官 大塚久次郎
	審査官 栗原深造

第四十四類 染物

同 佐田友雄

第四十五類 編物組物

審査官 荒井谷吉
同 近藤只三

第四十六類 染織工業用機械器具

審査官 大山清一郎
審査官 近藤只三

今回ノ出品ハ或ハ製造製作ノ際ニ或ハ荷作運搬ノ期節ニ當リ各府縣共總テ今次ノ大洪水ノ災害ヲ蒙ラサルナク隨テ出品ノ狀況會場ノ設備等ニ多少杞憂ナキ能ハサリシカ流石ハ關東北ニ於ケル染織工業品ノ主産地タル東京新潟埼玉栃木山形群馬等ヲ網羅セルコトヲ巧ニ學理ヲ應用シ盛ニ機械ヲ作用シ製品精緻意匠嶄新ノ出品ニ乏シカラズ染色整理等ニ於テモ亦成績ノ見ルヘキモノアリ且今回聯合セル府縣ノ大部ハ今春名古屋市ニ開設セラレタル共進會ニ參加シ其餘熱未タ全ク散セサルニ出品人員ノ如キ豫定以上ニ達セルノ盛況ヲ呈シタルハ當業者奮勵ノ結果ニ外ナラサルヘシ殊ニ主催縣タル群馬ハ二回ノ大水害ヲ蒙リタルニ拘ラス會場ノ設備其他ニ於テモ更ニ遺憾ナカリシハ當事者ノ苦心實ニ多トスヘキナリ而シテ出品物ニ就テハ尙仔細ニ之ヲ鑑査スルトキハ當局者ノ指導獎勵當業者ノ經營改善ヲ要スルモノ少シトセス希クハ彼ノ長ヲ取り我ノ短ヲ補ヒ邦家ノ爲益々斯業ニ熱中セラレンコトヲ左ニ各類ノ

出品點數人員及擬賞統計表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

品類	出品點數	出品人員	擬賞等級				合計	人員ニ對スル割合
			一等	二等	三等	四等		
第三十九類 絹織物	5,051	2,110	26	70	133	370	590	0.16
第四十類 綿織物	4,732	1,476	5	25	60	246	336	0.13
第四十一類 麻織物及其交織物	1,355	704	1	2	5	14	22	0.16
第四十二類 毛織物及其交織物	1,021	77	1	2	3	14	22	0.16
第四十三類 絹織物	3,657	866	6	27	46	149	255	0.15
第四十四類 染物	1,295	335	4	22	29	77	125	0.19
第四十五類 編物組物	281	50	1	4	9	22	35	0.12
第四十六類 染織工業用機械器具	1,219	27	1	4	4	8	13	0.08
合計	15,331	4,915	45	142	278	845	1,310	0.16

第三十九類 絹織物

本會ハ從來ノ關東奥羽ノ兩共進會ヲ併合シタルモノニシテ我國ニ於ケル絹織物ノ主要産地タル東京、新潟、埼玉、栃木、山梨、福島、山形、群馬等ノ諸府縣ヲ聯合セルニヨリ本類ノ出品ハ第六部中最モ多ク即チ點數ニ於テ三分ノ一人員ニ於テ約其ノ半數ヲ占ム又各府縣ノ出品狀態ヲ四十一年ニ開カレタル奥羽六縣聯合共進會(内秋田縣ヲ除ク)及ヒ一府十縣聯合共進會(内愛知縣ヲ除ク)ノ出品ニ比スレハ

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

次表ニ示スル如シ

府縣名	點		數		人		員	
	今	前	增	減	今	前	增	減
東京府	三一四	六九四	△	三八〇	九六	一一六	△	二〇
神奈川縣	一二九	七九		五〇	八九	五四		三五
新潟縣	五七六	六二二	△	四六	一六八	一九二	△	二四
埼玉縣	七〇八	三八九		三一九	三五五	二三八		一一七
長野縣	二八〇	三九〇	△	一一〇	一八〇	二〇九	△	二九
千葉縣	一	七	△	六	一	五	△	四
茨城縣	三九	二五		一四	一二	九		三
栃木縣	一四二	一四三	△	一	五一	六五	△	一四
山梨縣	二六六	四九九	△	二三三	二三五	二九五	△	六〇
福島縣	六一	三三〇	△	二六九	四一			
宮城縣	八八	一六〇	△	七二	二三			
山形縣	九六五	七四三		二二二	三一四			
岩手縣	九	一六	△	七	四			
青森縣	七	七			三			
群馬縣	〇	六四八		八一八	五三八	二四七		
合計	五〇五一	四、七五二		二九九	二、一一〇			

四百四十八

(○印ハ主催縣ヲ示ス △印ハ前回ニ比シ減少ヲ示ス)

由是觀之總點數ニ於テ二九九點ノ増加ヲ示スト雖トモ之ヲ主催縣ノ増加數ニ比スルモ及ハサルコト遠ク概シテ甚ダ不振ナリト言フヘシ蓋シ不幸ニシテ開會ノ直前ニ於テ聯合府縣ノ殆ト總テカ大水害ヲ被リ力ヲ此方面ニ専ラニスル能ハサリシニヨルハ勿論ナル可シト雖トモ亦近來共進會ノ開催セラル、コト頻繁ニシテ特ニ福岡、愛知ノ後ヲ受ケ一般ノ共進會ニ對スル感想昔時ノ如クナル能ハサルハ確ニ半面ノ理由ナリト言ハサル可カラス前回ニ比シ出品數點ノ増加シタルモノハ主催縣以外ニアリテハ埼玉及ヒ山形ノ二縣ニシテ神奈川縣之ニ次ク更ニ各府縣ノ類別出品情態ヲ見ルトキハ左表ニ示スカ如シ

第三十九類類別府縣出品表

府縣名	類別	點數	人員
東京府	絲織及御召	一二九	三九
神奈川縣		一五	六
新潟縣	(透綾ヲ含ム)	二五四	七二
栃木縣		六七	二二
山梨縣		一二	一一
山形縣		二六七	七四

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

四百四十九

群馬縣

計

東京府

新潟縣

茨城縣

長野縣

宮城縣

岩手縣

山形縣

群馬縣

計

東京府

新潟縣

茨城縣

栃木縣

袴地

一八五

九二九

三四

四三

一

一

四三

四

六三

二

一九一

七三

三

一

三

四一

二五五

一四

八

一

一

五

二

二

二

五四

一五

一

一

六

四百五十一

長野縣

山形縣

群馬縣

計

東京府

神奈川縣

新潟縣

埼玉縣

千葉縣

茨城縣

栃木縣

山梨縣

長野縣

青森縣

山形縣

紬及太織類

四

六九

二二三

三八六

六一

一五

一九五

四八七

一

三一

一七

四

五六

七

五二三

一

一七

六八

一〇九

二五

六

三一

一七八

一

七

九

四

三一

三

一七三

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業調査報告

四百五十一

群馬縣	六九五	二四四
計	二、〇九二	七二二
神奈川縣	六	五
新潟縣	七一	五四
埼玉縣	二二二	一七七
茨城縣	六	三
栃木縣	二	一
長野縣	二二八	一四六
宮城縣	三六	一〇
福島縣	二五	一六
岩手縣	五	二
山形縣	二六	一七
群馬縣	二五六	一四九
計	八七二	五八〇
東京府	五	二

內地向白絹

輸出向白絹

神奈川縣	三	一
長野縣	一	一
宮城縣	九	八
福島縣	三六	二五
山形縣	一四	一一
群馬縣	三七	七
計	一〇五	五五
栃木縣	三三	一三
群馬縣	七八	二七
計	一一一	四〇
東京府	一二	一
神奈川縣	九〇	七一
新潟縣	一〇	二
山梨縣	二五〇	二三〇
山形縣	三	一
計	三六五	三〇五

輸出向色物

甲斐絹、傘地、及衣服裏地

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會染織工業調查報告

ニシテ主催縣タル群馬縣ノ如ク殆ント各種類ニ渡リテ出品セサルモノナキニアラサレトモ大體ニ於テ
 出品ノ種類カ地方的ニ分配セラル、ノ傾キヲ認ムルニ難カラス即チ東京ノ絲類御召類、袴地、帶地ノ
 如キ神奈川ノ津久井絹、新潟ノ袴地、紬及太織、内地向白絹類、透綾、埼玉縣ノ紬及太織、内地向生
 絹類、長野縣ノ紬、縮緬及ヒ斜子類、栃木縣ノ絲織御召類及ヒ輸出織物、山梨縣ノ甲斐絹傘地、宮城
 縣ノ袴地、輸出羽二重、山形縣ノ糸織、袴地、帶地、紬、輸出羽二重ニ於ケルカ如キ即チ之レナリ而
 シテ此等ノ一二ノ場合ヲ除キ何レモ各其ノ地ノ特有物産トシテ長キ歴史及ヒ特種ノ趣味ヲ有スルモノ
 ニシテ之ヲ比較研究スルコトハ極メテ有益ナル問題ナラント信スルモ從來ノ博覽會或ハ共進會カ稍モ
 スレハ膨大ニ失シ然ラサレハ其範圍狹少ニ過キ此目的ヲ達スルニ不便少ナカラサリシモ本會ニ於テハ
 糸織ニ於テ關東ヲ代表スル八王子ト東北ヲ代表スル米澤トヲ對照シ或ハ仙臺、米澤、五泉、山邊里、八
 王子等ノ袴地ニ於ケルカ如ク互ニ類似セルモノヲ比較シ得ルノ便アリシハ當業者ノ研究上甚タ有益ナ
 リシモノアラント信ス、

出品ノ情況以上ノ如ク之ヲ前回ニ比シ決シテ盛ナリト云フ能ハサリシモ大體ニ於テ技術上ノ進歩ヲ認
 ムルニ難カラス即チ緋ノ應用ハ益々擴張シ精緻ヲ極メタルモノ少カラス或ハ解織ノ方法ヲ以テ或ハ捺
 染拔染ヲ經糸ニ施シ盛ニ柄合ノ變化ヲ講シ一面ニハ種々ナル撈撈糸又ハ金銀糸ヲ混織シ或ハ壁撈縮緬
 撈ヲ巧妙ニ利用シテ多種ナル皺縮織物ヲ得加フルニ更ニ緋撈糸ヲ取合スル等學理技術ノ運用ハ實ニ極

點ニ達セルモノニアラサルカヲ疑フモノアリ然リト雖モ是レ一二隆昌ノ域ニアリト稱セラル、府縣ノ
 織物ニ見ル處ニシテ舊慣墨守昔時ノ製産ヲ蹈襲スルニ過キサル地方ニシテハ前者ト對比シテ殆ント隔
 世ノ感アルモノアリ夫レ共進會ノ効果ハ彼此長短相補フヲ以テ共進ノ實ヲ舉クルニ存スルナリ當業者
 宜シク心ニ之ヲ致シ單ニ出品シテ優賞ヲ希フニ止メス自ラ願ル所ナカルヘカラス尙ホ特ニ一言セント
 スルモノハ近來實業學校或ハ試驗場等ノ効果ニ關シ動モスレハ無謀ノ言ヲナスモノアルニ係ラス出品
 物ヲ通覽シテ其進歩發展カヨク公私ノ獎勵如何ニ比例スルノ事實ヲ發見セル一事ナリ即チ八王子ニ於
 ケル織染學校、新潟縣ニ於ケル工業學校及ヒ染織講習所、埼玉縣ニ於ケル染織學校及ヒ秩父組合ニ於
 ケル事業、栃木縣、山形縣、群馬縣ニ於ケル工業學校或ハ織物學校、山梨縣及ヒ福島縣ニ於ケル工業
 學校及ヒ工業試驗場ノ如ク此等ノ設備及ヒ獎勵機關ヲ有スル地方ノ發達カ常ニ然ラサル地方ニ比シ一
 歩ヲ先ニスルモノアルハ明カナル事實ニシテ局ニ當ルモノ、最モ注意ヲ要スルトコロナラント信ス
 審査ノ結果優等ト認ムルモノ五九〇點ヲ選拔シ一等賞二八、二等賞七〇、三等賞一二二、四等賞三七
 〇ヲ擬賞セリ即チ出品人員ノ約二割八分ニ相當ス
 更ラニ各種類毎ニ概評ヲ述フヘシ

糸織御召類

ノノ主ナル出品區域ハ東京、山形、栃木、群馬、新潟縣ニシテ山形縣ノ二六七點ヲ最トシ新潟縣最モ

少ナク五六點ナリ外ニ神奈川及ヒ山梨ノ兩縣ヨリ少數ノ出品アリシト雖トモ其産額亦多カラス未ダ幼稚ノ域ヲ脱セサルナリ

東京府

絲織ハ八王子ヲ中心トシ附近ニ産出セラル、モノニシテ東京府及ヒ關東方面ヲ主ナル需要地トス本府ノ出品ハ他府縣ノ糸織ニ比シ確ニ一頭角ヲ拔ケルモノト云フヘク其ノ組織ノ如キモ單純ナル平織ヲナセルモノ、如キハ殆ント其跡ヲ斷チ高貴綾其他ノ組織ヲ巧ニ應用シ地色、柄合等亦時流ニ先ンジ年ト共ニ進歩ノ跡歴然タリト雖トモ尙ホ其ノ製造法、製作機械等ニ至リテハ舊套ヲ脱セサルノ嫌ヒアリ之レカ爲メニ起ルトコロノ缺點亦尠ナカラス組織染色等ト相待チテ其研究ヲ怠ラサランコトヲ望ム
御召類ノ産額ハ糸織、袴地等ニ比スレハ未タ多カラスト雖トモ製織仕上等ニ於ケル苦心ノ跡ハ明カニ出品物ノ上ニ表ハレ見ルヘキ者尠カラズ然レトモ往々劣等品ヲ混セルモノアリ大體ニ於テソノ品位、産額等桐生ノ製品ニハ一步ヲ譲ラサル可カラサルハ明ナリ更ラニ苦心經營歩調ヲ整ヘ現状ヲ打破スルノ覺悟ナカル可カラス

山形縣

米澤ノ糸織ハ八王子糸織ト對向シテ關西ニ大ナル需要ヲ有シ時ニヨリ盛衰アリシト雖トモ組合ノ監督當業者ノ苦心ハ能ク現時ノ健全ナル發展ヲ見ルニ至レリ本品モ趣好ノ變遷ニ伴ヒ平織物ハ漸次減少シ

テ組織ノ變化ヲ利用セルモノ多ク且ツ近來御召ノ流行ニ伴ヒ婦人向トシテノ需要ヲ減セシタメ主トシテ筋物ノ産出ヲ見ルニ至レリ而シテ其ノ地色配色等ハ之ヲ八王子物ニ比スレハ概シテ滋味ナルモノ多シ蓋シ仕向地ヲ異ニスルニ依ルナランモ染色其ノ他ノ工程ニ於テ糸ノ光澤ヲ害スルコト多キニ原因スルコト尠ナカラサラン染色ハ昔時ノ如ク甚シク増量セルモノヲ認メスト雖トモ出品中尙ホ二三ノ不良品ナキニアラス此等ハ組合等ノ機關ヲ利用シテ取締ヲ嚴重ニシ益々需要地ノ信用ヲ博スルニ勤メサル可カラサルナリ

御召ハ産額微々タルモノニシテ其ノ出品モ亦多カラス且ツソノ糸扱、風合等未タ充分ナラスト雖トモ研磨怠ルナクハ前途ノ光明ヲ見ルコト遠カラサルヘシ

新潟縣

糸織、近年柄合、組織等大ニ進歩セリト雖トモ其品位米澤、八王子、伊勢崎ノ間ニ介在シテ大ニ發展セントスル氣勢乏シキノ感アルヲ惜ム且ツ商品トシテノ統一ヲ缺ケルノ傾キアルヲ以テ製織法、染色仕上等ニ充分ナル研究ヲ重ネ他日ノ發展ヲ期ス可キナリ

透綾、壁糸織及ヒ紹紵等ハ十日町附近ノ特産ニシテ全ク獨占ノ現状ニアリ一時需要ノ衰退ト共ニ甚タ振ハサリシモ其ノ組織意匠等ニ苦心セルノ結果今ヤ又流行界ノ注目ヲ引キ漸次需要ヲ増加シ年額約百萬圓ヲ産スルニ至レリ出品中糸扱、組織、配色等共ニ見ル可キモノ尠カラスト雖トモ疊皺及ヒ折皺ノ

生シ易キ通弊アルヲ免レサルカ故ニ撚糸其ノ他ニ改良ヲ加ヘ之レヲ除去スルコトヲ得ハ紹縮緬、紗縮緬等ノ流行セル夏織物界ニ其ノ驥足ヲ伸フルハ決シテ難事ナラサラント信ス

栃木縣

本縣ノ糸織及ヒ御召類ハ純絹織物ヨリハ寧ロ絹綿交織ニ於テ其ノ獨得ノ技能ヲ有シ又成功セルモノニシテ本類ニ屬スルモノハ之ヲ他ノ地方ニ産出スル相等品ニ比シ特出セル出品ヲ見ルコト能ハサリシモ只一點羽二重ニモアラス御召ニモアラス即チ一見羽二重ノ如クナルモ其風合御召或ハ縮緬ノ如ク而カモ此等ノ如キ縮緬ヲ存セサルモノ、出品セラレシハ大ニ注目ヲ引ケルモノ、如シ今ヤ男物トシテ羽二重及ヒ婦人用トシテノ御召或ハ縮緬類ノ流行ハ殆ント極點ニ達シ如何ナル山間僻地ニ至ルモ之レカ流行ヲ見サルナシ從テ奇ヲ好ム上流社會或ハ都人士間ニ於テハ漸ク羽二重或ハ御召、縮緬類ニ厭キ今ヤ新奇ナル代用品ヲ求メツ、アルノ際ナレハ或ハ此ノ如キモノ、新流行ヲ見ルナキヲ保シ難シ要スルニ今日ノ如ク趣好ノ變遷頻繁ナル時代ニアリテハ須カラク眼界ヲ廣クシ以テ世ノ推移ヲ考ヘ之レニヨリテ意匠ヲ凝シ考案ヲメグラスニアラスンハ到底何等ノ得ルトコロナクシテ了ラン

群馬縣

本縣ノ御召ハ近年著シキ進歩ヲ遂ケ需要ノ増加ニ伴ヒ其ノ産額亦逐年増加シテ栃木縣ノ絹綿交織御召

ト共ニ最モ將來ニ嚮望シ得可キモノ、一ナリ出品中組織配色意匠等殆ント京御召ノ壘ヲ摩スルニ足ル可キモノ少ナカラサリシト雖トモ市場ニ於ケル本縣ノ製品ハ尙ホ未タ西陣品ニ比シ一步ヲ讓ルノ要ナキカ糸扱、撚糸或ハ仕上等ノ技術ニ於テ果シテ之ニ對向シ得ルノ地位ニアルヘキカ疑ナキ能ハサルナリ云フ迄モナク本品ノ生命ハ全ク意匠、撚糸及ヒ仕上ノ巧拙ニ存スルモノナレハ銳意技術ノ改善ヲ期スルト共ニ意匠ニ重キヲ置キ絶エス時目ヲ新タニシテ益々本品ノ聲價ヲ擧クルニ勤ム可キナリ平糸織及ヒ紹其他ノ出品ハ御召及ヒ帶側地等ノ著シキ進歩ニ壓セラレ注目ヲ引キ難キモノ、如シト雖トモ男子用トシテハ常ニ其ノ需要ノ大ナルモノニシテ發展ノ餘地充分ニ存スルヲ以テ此ノ方面ニ對スル研究モ忽ニセサランコトヲ勸ムルモノナリ

袴地

本品ハ八王子、米澤、仙臺、五泉、山邊里等ニヨリテ各其ノ特質ヲ發揮ス由來八王子ハ一等品及ヒ三等品ノ産出地ニシテ中間ニ位スル二等品ニ相當ス可キモノナカリシカ近來三等品ヲ廢シテ二等品ヲ獎勵セシ結果漸次下等品ノ産出ヲ減スルニ至レリ且ツ八王子ハ今日全國ヲ通シテ一等品ノ産出最モ多シ米澤ハ三等品ノ産額最モ多ク約ソノ六分ヲ占メ二等品三分一等品一分ノ割合トス仙臺ハ主トシテ二等品ヲ産シ五泉モ亦タ二等品八分一等品及ヒ三等品ハ各一分ニ相當ス又此等各地ノ販路ノ狀況ヲ見ルニ八王子及ヒ五泉ハ東京ヲ主トシ山形ハ五分仙臺ハ殆ント全部ヲ關西ニ向ケ山邊里ハ其販路ヤ、半ハス

更ラニソノ産出額ヲ比スレハ八王子及ヒ米澤ノ各約百萬圓最モ多ク其他ニ至リテハ其ノ名ノ喧傳セラ
 ル、割合ニ産額案外尠クシテ仙臺十五六萬圓五泉山邊里合シテ十四五萬圓ニ過キサルヘキカ
 出品ヲ見ルニ八王子及ヒ米澤ニハ柄合ノ新奇ナルモノ及ヒ組織ノ異ナルモノヲ認メシト雖トモ其他
 ノ出品ニ至リテハ何等新奇ノ考案ヲ施セルモノ少ナク尙ホ経班、織反、増量ノ程度等ハ漸次ニ改善セ
 ラレ往時ノ如ク甚タシキモノヲ見スト雖トモ概シテ其ノ製造法ニ於テモ或ハ其ノ品質ニ於テモ殆ント
 千篇一律著シキ進境ヲ見ル能ハサリシハ甚タ遺憾トスルトコロナリ勿論其ノ用途或ハ社會慣習ノ餘義
 ナクスルモノナキニアラスト雖トモ他ノ織物類ノ著シキ發展ニ比シ遜色ナキ能ハス切ニ當業者ノ奮勵
 ヲ望ム

帶地、胴裏地類

本品ニ屬スル帶地ハ山形、茨城、東京、長野、栃木、新潟、群馬ノ各縣ヨリ出品セラレシモ八王子、
 米澤、桐生ノ出品ヲ除キテハ其ノ品質ニ於テモ出品數將タ又産額ニ於テモ尙ホ極メテ幼稚ニシテ未タ
 物産トシテ見ルニ違セサルモノト認ム
 八王子及ヒ米澤ハ男子用博多帶ヲ主トシソノ産額亦尠ナカラス出品中甚タシキ粗製品少ナク概シテ
 組織、柄合、風合等苦心ノ跡ヲ認ムルニ難カラス然レトモ近來柄物ノ流行ニ伴ヒ無地物ニ比シ瑕瑾ヲ
 蔽フニ便ナルヨリ自然原料ノ選擇、製織工程ヲ輕ンヌルナキヤト思考セラレモノ少ナカラス又下等品

ニ於テハ専ラ染色或ハ糊ニヨリ一時的風合ヲ保タシメントシ爲ニ其光澤ヲ失シ實質ヲ害スルハ勿論此
 ノ如キハ需要者ノ信用ヲ失墜セル恐レアルヲ以テ深ク注意セラレンコトヲ望ム尙ホ米澤ト八王子トヲ
 對照スルニ於テ獨リ帶地トイハス本會ノ出品ノ總テニ渡リ其ノ柄合、意匠等常ニ八王子ニ一步ヲ讓ラ
 サル可カラサルノ感アルヲ免レス東北ノ機業ヲ代表スヘキ位置ニアル米澤當業者ノ堅忍不拔大ニ將來
 ノタメニ畫策セラレンコトヲ勸ム

桐生ノ女帶地ハ近來長足ノ進歩ヲナセルモノ、一ニシテ琥珀、今春式或ハ「リツブル」織等ノ撚草物共
 ニ其ノ意匠組織ノ斬新ナルモノ多ク製織ノ技術又巧ニシテ優ニ關東機業界ヲ代表シテ西陣ニ對抗スル
 モノハ蓋シ此ノ地ヲ措テ他ニ需ムルコト能ハサラン出品ノ總テヲ通シテ新進氣鋭ノ氣ニ溢ル、モノア
 ルハ誠ニ喜フ可シト雖トモソノ半面ニ於テ柄合、意匠等之レヲ西陣ニ比シ奥床シキ品位ヲ缺クノ嫌ナ
 キ能ハス之レ西陣ヲシテ今尙ホ市場ノ覇ヲ握ラシムルノ已ムヲ得サル所以ナランカ須ラク更ラニ學理
 ノ研究、意匠ノ考案ニ力ヲ盡シ關東機業界ノタメニ大ニ氣ヲハクノ期アラントヲ望ム

栃木縣ノ帶地ハ桐生組合地區内ノ産出ニカ、ルモノ多カル可キヲ以テ更メテ評スルノ要ナシ
 桐生及ヒ栃木ノ胴裏地ハ其ニ出品點數少ナク且ツ品質ニ於テモ尙ホ充分研究ノ餘地アルモノト信ス

紬及太織類

本品ノ出品區域ハ一府十一縣ニ渡リ全ク出品ヲ見サルハ僅カニ福島、岩手、宮城ノ三縣ニ過キスソノ

點數ニ於テモ總テ二、〇九二點約本類ノ三分ノ一ヲ占ム就中群馬、新潟、山形、埼玉ノ諸縣ハ各々伊勢崎、栃尾、長井、秩父等ノ主要産地ヲ控ヘ何レモ二百點以上ノ出品ニシテ甚々盛ナリト云フ可シ

東京府

節糸織ハ漸次其ノ品質ノ改良ニ勉メツ、アルモノ、如シト雖トモ未タ之レヲ隣縣埼玉縣ノ夫レニ比シ對等ノ位置ニ置キ難キモノアリ實質ノ堅牢ヲ主トシテ其ノ改良ヲ計ランコトヲ望ム

長野縣

古來上田織ト稱シ相當ノ地位ヲ占メシモノナルニカ、ハラス近來其ノ進歩ノ速々トシテ甚々振ハサルヲ遺憾トス出品中稍々見ル可キモノナキニアラスト雖トモ新銳ナル他ノ機業地ノ製品ニ比スヘクモアラヌ當業者タルモノ宜シク時勢ニ鑑ミ施設スルトコロナクシテ可ナランヤ

新潟縣

節糸織ハ栃尾及ヒ其ノ附近ニ産出セラル、所謂栃尾紬ナルモノニシテ本品モ亦糸織ト同シク近來面目ヲ一新シ來レルモノ、如シト雖トモ其ノ柄合、組織等尙ホ常ニ時流ニ後レ勝チナルノ缺點ナキニアラス利用ス可キ獎勵機關ナキニアラス加フルニ労働者ノ如キモ他地方ニ比シ豐富ナルノ便利ヲ有スルノ地ナレハ當業者ノ經營如何ニヨリテハ將來大ニ有望ナラント信ス
茨城縣(栃木縣ノ一部ヲ含ム)

其ノ名聲ノ古ク且ツ高クシテ然カモ實質ノ殆ント見ル可キモノナキ結城紬ノ如ク甚々シキモノアランヤ其ノ製糸法、染色法、製織法等總テ徒ラニ舊法ヲ墨守スルニ止マリ時勢ニ伴ヒ何等ノ改善ヲナスコトナシ其ノ製造法ヲ視其ノ現品ニ接スル毎ニ殆ント前時代ノ染織業ヲ見ルカ如キ感ナキ能ハサルナリ以上ノ如キ警告ハ利用シ得可キ總テノ機會ニ於テ繰返サル、ニ係ハラス更ラニ其ノ反響ナキハ抑モ施スニ策ナキニヨルカ或ハ施ササルヨルカ其ノ何レニアリトセヨ本業ニ對スル熱心ノ缺ケルモノアルハ言フ俟タサルトコロナルヲ以テ當業者ハ勿論勸業ノ任ニ當タルモノモ共ニ精細ニ由以テ考究シテ歴史アル此ノ機業地ノ名ヲ永ク忘レシメサラシコトニ勤メンコトヲ切望ス

埼玉縣

本縣ノ太織ハ一般ニ秩父織トシテ知ラル、モ其實際ニ於テハ本場秩父織、反能秩父ノ二種アリテ前者ハ秩父郡一圓ニ産シ全産額ノ大部ヲ占メ二百萬圓以上ニ達シ染色及ヒ地合ノ堅牢ナルヲ以テ其ノ特色トシ後者ハ入間郡ニ産出セラレ其ノ産額前者ノ如ク多カラス又品質ノ着實ナル點ニ於テ劣ルトコロアリト雖トモ其ノ價格ノ廉ナルト柄合ノ輕妙ナルトニヨリテ知ラル
出品物ノ多クハ其ノ組織、染色、柄合等見ル可キモノ少ナカラス特ニ染色及ヒ柄合ニ於テハ近來大ニ其ノ面目ヲ一新シ來レルカ如シト雖トモ往々其ノ組織ニ伴ハサル染色或ハ柄合ノ常規ヲ逸セルモノ乃至ハ甚々シク時流ニ後レタルカ如キモノ少ナカラス元來秩父織ナルモノハ中流ノ家庭ニ於ケル常着ト

シテ使用セラル、モノ多キニヨリ其ノ組織及ヒ染色ノ堅牢ヲ主眼トセサル可カラサルハ言フ迄モナク其染色柄合ノ如キモ餘リニ突飛ナルモノハ避ケサル可カラサルナリ然リトテ結城紬ノ如ク時流ヲ無視シタル丈夫一點張ノ主義モ亦好マシカラサルハ論ナキナリ須カラク其ノ需要ノ範圍用途ノ如何ヲ顧ミ之レニ適度スヘキ改善ヲ施シ時流ニ後レサランコトヲ期セサル可カラス尙一言セサル可カラサルモノハ其ノ取引法ノ改善ニアリ蓋シ秩父綿ハ今尙ホ舊來ノ慣習ヲ墨守シ織落シノマ、何等ノ工程ヲ施サスシテ取引セラル、ヲ以テ自然織落シノ拜見ニ重キヲ置カサル可カラサルカタメニ甚タ迂遠ナル製織法ニ依ラサル可カラサルノ弊アリ、若シ之レヲ改善シテ一度糊抜キヲナシ仕上ケシタルモノヲ取引スルコト、ナサハ製造者ハ單ニ工程上ノ利便ヲ得ルノミナラス又製産費ニ於テモ輕減シ得ヘキモノ少ナカラサルナリ加フルニ組合等ノ品位検査モ製産地ニ於テ糊抜キヲナスニ至ラハ一層確實ナル成績ヲ舉クルヲ得ヘシ此ノ如ク取引上ノ改善ハ各方面ノ受クル利益甚タ多キモノナレハ多少ノ犠牲ヲ供スルトモ是非其ノ改善ヲ期センコトヲ切ニ勸告スルモノナリ

山形縣

長井紬ハ西龜陽郡一圓及ヒ東置賜ノ一部ニ產出セラル、モノニシテ其ノ産額甚タ多カラスト雖トモ約五十萬圓ニ達シ本縣ノ重要物産タリ本會ノ出品ハ五二三點ニシテ群馬縣ニ次キ緋紬其ノ大部ヲ占ム本品ハ最近著シキ發展ヲナセルモノ、一ニシテヨク時代ノ要求ニ迎合シ出品中其ノ風合、意匠等優ニ先

進機業地ニ對抗シ得可キ良品尠ナカラス然レトモ往々染色ノ稍々耐久力ニ乏シク甚タシク其ノ品位ヲ變スルニ至ルカ如キモノ又風合ノ不良ナルモノ少ナカラサルハ折角勝チ得タル名聲ヲ墜スノ恐レナルヲ以テ更ラニ一層ノ研究ヲ要シ併セテ組合等ノ嚴重ナル制裁ヲ望ム且ツ其製造法ニ於テモ出來得ル限リ學理ノ應用機械ノ考案等ニヨリテ製産費ノ輕減ヲ計リ益々販路ノ擴張ニ勤メラレンコトヲ勸ム

群馬縣

伊勢崎綿ハ其ノ染色、意匠共ニ見ル可キモノ多ク特ニ大緋物ノ技術ニ至リテハ最近著シキ進歩ヲ遂ゲ殆ント他ニ比類スヘキモノヲ見ス且ツ伊勢崎トイヘハ直ニ居機ヲ連想セシメタル此機業地カ奮ツテ其ノ製織機具及ヒ製造法等ニ一大改善ヲ施スニ至リタルハ誠ニ喜フ可キ現象ニシテ本機業地ノ將來ヲトスルニ難カラス然レトモ絹絲紡績ノ使用ヲ以テ其ノ特技トシ之レニヨリテ成功セル半面ニ於テハ近來其ノ濫用又ハ使用上ノ不注意ヨリ製品ノ光澤堅牢等ニ及ホストコロノ惡影響尠ナカラス爲メニ需要者ノ一部ニ於テハ本品ノ不評ヲ耳ニスルコト屢々ナルヲ以テ之ニ對スル當業者ノ研究ヲ忽カセニセサルコトヲ望ム

内地向白絹類

本品ノ出品モ十一縣ニ跨リ其ノ點數亦多シト雖トモ就中主要ナルモノハ新潟縣ノ羽二重及ヒ絹、八ッ橋、埼玉縣ノ生絹及白斜子、長野縣ノ斜子及ヒ縮緬、群馬縣ノ絹、羽二重、生絹、縮緬等ニシテ其ノ

他福島縣ノ節絹、山形縣ノ白紬、宮城縣ノ縮緬等アレトモ其ノ品質、産額共ニ尙ホ未タ幼稚ナリト云ハサル可カラス

四百六十六

紹及ヒ羽二重ハ新潟縣及ヒ群馬縣ノ出品ニカカリ前者ハ此等ノ産地トシテハ未タ古カラサルニカカハラス已ニ全國有數ノ製産地トナリ且ツ其ノ出品ニ於テモ優良ナルモノ多ク當業者ノ熱心ノ程度ヲ察スルニ難カラス後者ハ其ノ製造ノ歴史モ永ク且ツ紹ノ如キハ附近ニ於テ特種ノ原料ヲ容易ニ得ラル、等ノ關係アリ自然ソノ出品ニモ本場品タルニ耻テサルモノ多シ然レトモ概シテ原料及ヒ工程ニ注意スルモノアルニ係ラス無地物トシテ最モ忌ム可キ縦縞、絲釣レ、織反等ノ存スルモノ少ナカラス此等ハ主トシテ使用機具ノ不完全ニ起因スルモノ多キヲ以テ整經機其ノ他ノ準備器具、織機及ヒ其ノ附屬品等ニ改善ヲ施シ勞少ナクシテ良品ヲ得ルノ策ヲ講センコトヲ勸ム

斜子 ハ殆ント埼玉縣及長野縣ノ獨占ナリト云フヲ得可ク前者ハ其ノ原料、組織、品質共ニ良好ナルモノ多ク長野縣ノ出品ハ之レニ次クモノトナサ、ル可カラス近年羽二重ノ流行ニ伴ヒ本品ノ販路ハ漸次狭少ニシテ振ハサルニ至リシ結果自然當業者及ヒ取扱業者ノ熱心ヲ缺クモノアリ其ノ製造法等ニ改善ヲ施コサレタルノ跡ヲ認ムル能ハサルヲ遺憾トス然レトモ此ノ如キハ益々自滅ヲ促スニ不過ヲ以テ品質ノ改良、製造法ノ研究ニ力ヲ盡シ他日ノ計ヲ立テンコトヲ望ム

生絹 其ノ出品ノ多數ナルハ喜フ可シト雖トモ又ソノ品質ノ雜多ニシテ多種多樣ナル實ニ驚クニ堪エ

タリソノ品質ノ異ナルハ勿論織幅、丈尺ノ如キ或ハ目付ノ如キ殆ント統一セルモノナシ此ノ如キハ取引上ノ不便ニ加フルニ本品ハ一ツノ原料品ニシテ之レニ染色ヲ施スニ當リ極メテ繁雜ナル手數ヲ要スルヲ免レサルカ故ニ組合其他ノ監督ヲ嚴ニシ且ツ機具、機械ノ改善ニヨリテ其ノ統一ヲ期スルハ蓋シ本品ノ最大急務ナランカ尙ホ糊付等ニ於テモ充分ノ制裁ヲ加フルヲ要ス

縮緬 ハ長野及ヒ桐生ノ出品ニシテ後者ハソノ品質稍ヤ可ナリト雖トモ出品點數多カラス前者ハ之レニ反シ多數ノ出品ヲ有スルニカ、ハラス優良ナルモノニ乏シク往々ソノ縮緬ノ殆ント體ヲナサ、ルカ如キモノ少ナカラス加フルニ其ノ品質不同ニシテ商品トシテノ價值ヲ損スルコト大ナリ經緯ノ均衡、撚絲、精練等ノ研究ニ意ヲ用ヒ大ニ改善ヲ期セサル可カラス

輸出向白絹

輸出羽二重ノ生産地ハ福島、宮城、山形ノ三縣ヲ主トシ三縣ヲ通シテ少ナクモ五百萬圓ヲ下ラサル生産額ヲ有シ重要貿易品トシテ注目ニ値ス可キモノアルニ係ラス今回ノ出品ハ意外ノ少數ニシテ福島ニ於ケル三十有六點宮城ニ於ケル十點山形ニ於ケル十餘點合計五拾餘點ニ過キサルハ畢竟共進會ナルモノヲ一ツノ單純ナル廣告場ナリト誤解シ輸出品ナルカ故ニ之レヲ出品スルモ何等ノ効ナカラントノ考ニ外ナラサルヘキモ然カモ共進會ノ目的ヨリ考ヘ遺憾ナルハ勿論又審査上何トナク物足ラサルノ感ナキ能ハス勸業獎勵上各縣當局者ノ一考ヲ煩ハサ、ルヲ得サルナリ

福島縣ニ於ケル輸出羽二重ハ輕目物トシテ特ニ薄地ニ製織セシモノニ係ハラス出品方法其ノ當ヲ得ス
 羽二重ヲ陳列スルニ木板ニ洋紙ヲ糊張シ之レニ疋疊ノ儘綴付ケタルノミニシテ硝子箱等ニ入レ置クノ
 注意ヲ缺キ而モ陳列棚中ニ何等濕氣防禦ノ設備ヲ施サ、リシ爲メ頗ル水分ヲ吸收シ其ノ結果ハ木板ニ
 接セシ布面ニ何レモ多少汚染ヲ生セサルナク甚タシキハ板餘幅ノ大汚染サヘ生シ又表面ニ曝露セシ部
 分ハ著シク襞ヲ生シ品位ヲ害スル甚大ナルハ當局始メ出品者ノ注意ヲ乞ハサルヘカラサル事ナリトス
 原料 出品中或ハ經絲ニ少シク縞ヲ帶フルモノモアリシト雖トモ概シテ良好ニシテ輕目物製織ニ適當
 ナルモノヲ用ユ緯絲モ亦タ概シテ良好ニシテ用絲ノ方法頗ル進歩ヲ認ム

組織 出品ハ何レモ目下川俣羽二重トシテ市場ニ現ハル、三匁乃至三匁七分五厘付ノモノニ比スレハ
 概シテ稍目重モノ多ク從テ其經ノ密度及ヒ緯ノ織込頗ル緻密ニシテ品位良好加フルニ川俣羽二重ノ缺
 點トシテ擧ケラル、織段ノ少ナカリシハ技術上ノ一進歩ト見ルヲ得ヘシ然レトモ力織機製品ハ其ノ味
 ニ於テ同一ナル密度及ヒ織込ニ於テ手織機品ニ劣ルアルヲ認ムルハ力織機業者ノ留意セサルヘカラサ
 ル點ナリトス更ラニ偶然ノ故障ニシテ水分ノ吸收ニ於テ其ノ布面ニ縮襞ヲ生セシコト前者ノ後者ヨリ
 比較的多カリシコトヲ見出セリ之レ力織機工場ニ於ケル整經桿數多數ナル爲メ小桿中再線方法ノ稍不
 完全ナルモノアルモ願ルノ追ナカリシト手織機工場ニ於テハ之レニ反シ小桿ノ立數少ナク從テ充分ナ
 ル注意ヲ拂ヒ得タリシニ因ルモノト認ム是又力織機業者ノ注意ヲ乞ハサルヲ得サル點ナリトス

精練及ヒ整理 精練ハ概シテ良好ナリト雖トモ蜂印整練品中仕上工程ニ用ユル「ゼラチン」ノ用量稍多
 キニ過クルモノアリ爲メニ腰強キニ失シ手觸リ惡シク品位ヲ損シタルノ傾キアリ是又注意ヲ要ス可キ
 コト、ス

之レヲ要スルニ手織機ニ於テハ製織技術何レモ熟達シ他ニ輕目羽二重トシテ之レニ比肩スルモノナシ
 ト雖トモ此ノ如キハ蓋シテ特別ノ製品ニシテ普通商品トシテ品位ヲ一定スル能ハサル感ナキ能ハス又力
 織機品ニ於テハ其ノ製織術ニ於テ前途尙ホ研究ノ餘地ヲ有ス可キモノト認ム

宮城縣ニ於ケル羽二重ハ三縣中産額最少ニシテ力織機使用者等モ亦從テ僅少ナリ出品點數ハ十點ニシ
 テ撰拔セシモノ六點ニ過キス本縣ニ於テハ産額少量ナルニ係ラス北部地方ト南部地方トニ於テハ製品
 位ヲ異ニスルヲ認ム之レ取引上本縣羽二重ノ獨立ヲ期スルニ於テ最モ遺憾ナリト言ハサル可カラス即
 チ南部地方ニ於テハ常ニ川俣市場ニ販賣スル目的ニシテ輕目物ヲ製織シ北部地方タル登米、古川、岩
 手山方面ニ於テハ主ニ北陸物タル重目ヲ製織スルノ傾キアリ從テ出品中ニ於テモ重キハ八匁附キニシ
 テ輕キハ四匁附キニ過キサナルナリキ本縣ハ原料ノ供給豐富ナル地方トテ品質精良ニシテ用法其ノ度ヲ
 得組織又適當ナリ撰拔品中ニハ其ノ組織其ノ味川俣物ニ彷彿シ新進地トシテ其ノ技ノ熟達ヲ認ムルニ
 足ルモノアリ憾ムラクハ精練ノ技術ニ於テ稍々劣ルトコロアルヲ

山形縣ニ於ケル羽二重ハ力織機七百餘臺ヲ運轉シ手織機全滅ノ聲サヘアルノ今日ナルヲ以テ出品全部

力織機製品ニシテ内ニ縞子組織ヲナシ所謂縞子羽二重ト稱セラル、モノアリ本品ハ近來海外ノ需要漸次増加シ山形縣ニ於ケル輸出織物中重要ナル地位ヲ占ムルニ至リタリ

本縣ノ出品ハ何レモ精良ナラス原料ハ概シテ良好ナリシモ其ノ製織術ニ於テ未タ熟達ノ域ニ達セス經絲ニ比シ緯ノ織込比較の少ナキノ傾キアリ爲メニ地合ノ緊リ不充分ニシテ味ヲ害スルコト多シ縞子ハ其ノ製織技術ニ熟セサルト仕上方法ノ不完全ナルカタメニ縞子ノ特色タル光澤ト味トノ缺クル所アルハ今後ノ研究ヲ要スヘキ點ナリトス尙ホ兩品ヲ通シテ精練ハ一層ノ進歩ヲ要スヘキモノト認ム

以上三縣ヲ通シテ原料、組織、精練、整理等之レヲ前回ニ比シ格段ナル進歩ヲ認メ難キハ甚タ遺憾ニシテ當業者ノ大ニ熟慮センコトヲ望ム

群馬縣

兩毛整織會社ノ出品ニカカル輕目縮緬及ヒ無地壁織ハ創業日尙ホ淺ク其產額未タ多カラサルモノ、如シト雖トモ品質稍々良好ナリ然レトモ無地壁織ニ於テハ縮皺不同ニシテ布面ノ整一ヲ缺ケルトコロ少ナカラス要スルニ本品ノ如キハ撚絲及ヒ精練ノ品位ニ影響スルコト大ナルモノナルヲ以テ之レカ研究ニ力ヲ致サレンコトヲ望ム

輸出物類

本品ノ大部ハ紋琥珀及ヒ薄琥珀其ノ大部ヲ占メ外ニ少數ノ服地用紋織物ヲ加ヘ栃木縣及ヒ群馬縣ノ出

品ナリ概シテ原料ノ撰擇、染色、組織共ニ不可ナシト雖トモ又著シキ進歩ヲ認メ難ク且ツ其ノ產額ノ遲々トシテ増加セサルモノハ如何ナル理由ニヨルカ需要地ニ於ケル市況或ハ取引上ノ不便ニモヨルトコロアル可シト雖トモ當業者ノ苦心ノ足ラサルモノアルハ勿論ナリ宜シク學理ノ應用機械ノ利用ヲ講シ併セテ海外ニ於ケル趣好ノ變遷ニ留意シ以テ品質ヲ改善シ大ニ海外市場ノ需要ヲ喚起セラレンコトヲ望ム獨リ羽二重ヲシテ永ク其ノ名ヲ專ラニセシムルカ如キハ邦家ノタメ決シテ喜ブ可キ現象ニアラサルナリ

傘地、服裏地及ヒ甲斐絹類

傘地 ハ東京府及ヒ山梨縣ノ出品ニシテ前者ハ豐玉絹トシテ知ラル、モノ出品點數僅カニ十二點ニ不過ヲ以テ其ノ全般ヲ伺フコト能ハスト雖トモ概シテ其ノ染色、組織共ニ用途ニ適當セルモノト云フヲ得可シ山梨縣ノ傘地ハ出品數少ナカラス且ツ品質ニ於テモ優良ナルモノ少ナカラスト雖トモ尙ホ其ノ製織法、仕上法ニ於テ當ヲ得サルモノ多ク且ツ染色ノ如キモ未タ完全ナリト稱シ難キモノ少ナカラス要スルニ本品ノ如キハ我國在來ノ織物ノ如ク單ニ手工ニノミ依頼シ得ヘキモノニアラサルカ故ニ原料ノ適否、使用機械ノ撰擇、仕上等ニ留意シ益々品質ノ改善ヲ期セラレンコトヲ望ム

要スルニ本品ハ兩地ノ出品ヲ通シテ格段ナル進歩ヲ認メ難キヲ遺憾トス

袖裏地 山邊里及ヒ山梨ノ出品ニシテ之レ又漸次ソノ進歩ヲ認ムト雖トモ更ラニ一段ノ研究ヲ要ス

甲斐絹及ヒ(津久井絹)

本品ハ山梨縣及ヒ神奈川縣ノ出品ニシテ點數産額共ニ少ナカラス其ノ品質ニ於テモ染色、意匠、製織法等良好ナルモノ少ナカラス且ツ從來甲斐絹ノ最モ缺點タリシ染色ハ世上ノ批難及ヒ警告ノ効表ハレ漸次ニ改善セラレ往時ノ如キ甚タシキモノヲ見サルニ至リシハ喜フ可キ傾向ナリトイフ可シ然レトモ出品中原料ノ甚タ粗悪ナルモノ組織ノ均衡ヲ得サルモノ或ハ製織技術ノ不完全ナル等ノ爲メ殆ント其ノ本來ノ味ヲ失シタルカ如キモノ少ナカラス繪甲斐絹ニ於ケル意匠モ苦心ノ跡ヲ認ムルニ足ル可キモノ多シト雖トモ尙ホ之レヲ他ノ機業地ニ於ケル染色技術ノ一般ノ進歩ニ比スレハ未タ意ヲ安スルニ足ラサルナリ要スルニ本品ノ現状ハ寧ロ消極的改善ニ屬シ進シテ發展ノ機運ニアルモノト認メ難キヲ惜ム

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	三二四	九六	四	一八	一〇	一六	三八	〇、三九
神奈川縣	一二九	八九	一	一	三	二	二五	〇、二八
新潟縣	五七六	一六八	三	〇	二	五	五〇	〇、三〇
埼玉縣	七〇八	三五五	二	八	一七	五四	八一	〇、二三

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
茨城縣	三九一	一一一	一	二	二	一	五	〇、四一
栃木縣	一四二	五一	二	三	〇	一	六	〇、三一
山梨縣	二六六	二三五	二	一	五	三	一六	〇、二三
長野縣	二八〇	一八〇	一	一	七	三	一六	〇、二二
宮城縣	八八	二二	一	一	四	二	一〇	〇、五二
福島縣	六一	四一	二	一	四	六	一七	〇、四〇
岩手縣	九	四	一	一	一	二	五	〇、五〇
青森縣	七	三	一	一	一	一	五	〇、三〇
山形縣	九六五	三一四	五	二	二	一	一〇	〇、二八
群馬縣	一、四六六	五三八	七	一	二	一	一〇	〇、二八
計	五、〇五一	二、一一一	二八	七〇	一二二	三七〇	五九〇	〇、二八

第四十類 綿織物

本類ハ各種織物中最モ需用多キ日用品ニシテ其全出品點數四千七百七十二點人員一千四百三十六人ニ達セリ而シテ各府縣其出品ヲ見サルナク其點數最モ多キハ埼玉縣ノ一千四百九十八點最モ少キハ山梨縣ノ一點トス斯ノ如ク出品セリト雖斯業ノ發達セル府縣ハ其半ニ達セス過半ハ前途尙發展ノ餘地ヲ存ス

群馬縣主産一府十四縣聯合共進會染織工業

今回出品ノ綿織物中主要ナル品種ヲ記スレハ縞木綿、青縞緋木綿、木綿縮、白木綿及ヒ雜織物トス左ニ各品種ニ付順次批評ヲ加ヘントス

縞木綿

縞木綿ハ神奈川及ヒ山梨ノ二縣ヲ除ク外各府縣ヨリ出品セリ

東京府 本府ノ出品ハ青梅地方ノ夜具地座蒲團地等ヲ主トシテ其他東京市ノ各種縞織物ヲ見タリ

青梅地方ノ夜具地類ハ品質統一シ合羽地ノ如キハ巧ニ星糸ヲ應用シテ意匠又進歩セリ青梅織物同業組合ニ於テハ品質ノ改良ニ全力ヲ注キ概シテ其功ヲ奏シタリト雖出品中往々織込ノ粗雜ニシテ染色ノ不堅牢ナルモノヲ見タルハ遺憾ナリ其他ノ縞織物ハ出品比較的少數ニシテ全般ヲ知ルコト難シト雖モ要スルニ東京織物問屋同業組合員ノ出品ハ各產地ノ製品ニシテ評スルノ要ナク東京織物製造同業組合員ノ瓦斯織類ハ逐次進歩ノ途ニアルヲ見タリ本組合ノ製品ハ需要地ノ狀況ノ然ラシムル爲カ其種類雜多ニシテ之カ獎勵ヲ計ルコト難カルヘシト雖組合ニ於テハ主トシテ品質ノ改良ヲ企テ各其特點ヲ發揮セシメ以テ其産額ヲ増大ナラシムルニ勤メンコトヲ望ム

新潟縣 本縣ノ綿織物ハ其製産區域廣クシテ即チ見附、長岡、龜田、加茂、小須戸、高田、葛塚等ニ渡レリ而シテ概ネ逐次進歩ヲ認ム殊ニ見附地方ノ綿織物ハ益々發展ノ域ニ進メリ同地及ヒ長岡地方ノ結城織ハ前回ニ於テ染色着實組織好ク外感觸感共ニ其本場ナルヤヲ疑ハシムトノ評アリシ如ク本回ニ於テモ能ク其眞價ヲ認ムルヲ得タリ且柄行ノ範圍ヲ擴メタルヲ以テ將來其販路ヲ擴張スル事ヲ得ヘシ其他龜田、小須戸、加茂等モ漸次發展セルヲ認ム即チ各產地特色ヲ有シ其地方毎ニ製品統一セリ之レ共同染工場ニ於テ染色ヲナセルト踏織機ヲ應用セシモノ多キ等其原因ナルヘシ然レトモ試験ノ結果ニ依レハ意外ニモ染色ノ堅牢ナラサルモノアルヲ見タリ之レ特ニ注意シテ改善ヲ施スヘキ點ナリトス又整理ニ於テモ尙一層發達ヲ計ルヘキ餘地ノ存スルアリ

埼玉縣 本縣下ノ縞木綿ハ埼玉木綿同業組合埼玉織物同業組合武藏織物同業組合等ヨリ出品シ其點數聯合府縣中最モ多ク産額亦最大ナリ製品ハ意匠斬新ニシテ巧ニ緋ヲ應用シ品質精緻ナルモノ多ク殊ニ「シルケット」ノ應用ニ妙ヲ得綿織物ニシテ絹綿交織ニアラサルヲ疑ハシムルモノアリ又瓦斯甲斐絹ノ如キ意匠清酒ニシテ組織良好ナルモノ多シ之レ主トシテ各同業組合ノ指導獎勵ト當業者ノ奮勵トニ依ルヘシト雖一ハ埼玉織物同業組合ト東京織物問屋同業組合ト聯合ヨリ成ル東京埼玉織物同業組合聯合會ノ如キ問屋ト製造業者トノ聯絡ヲ通スルコト亦製品ノ進歩ヲ促進スルニ其功少カラサルヲ信ス然レトモ試ニ其缺點ヲ指摘スレハ新潟縣ト同シク染色不堅牢ノモノアリシコト及ヒ整理ノ點ニ於テ尙不完全ナルモノアリシコト等ナリ次ニ本縣織工場ニ就テ一言ヲ加フレハ斯ル盛大ナル機業地ニ於テ縞物ニ踏織機又ハ力織機ノ應用稀ナルコトハ時勢ニ後ル、ノ感ナキ能ハス

千葉縣 稍可ナルモノ數點其他舉クルニ足ルヘキ出品ヲ認ムル能ハサリシハ遺憾ナリ

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工

茨城縣 本縣ノ縞木綿ハ結城木綿及ヒ石下木綿ニシテ何レモ着シキ進步ヲ認ムル能ハス唯染色ハ稍堅牢ノ度ヲ高メタリ而シテ本場結城ノ如キハ他地方製品ノ爲ニ大ニ壓迫ヲ蒙レルノ傾アリ本縣ニハ工業試驗場ノアルアリ當業者依リテ以テ染色ニ意匠ニ組織ニ各其發達ヲ計ルニ努メラレタシ

栃木縣 本縣ニハ木綿縮及絹縮交織ノ出品多ク縞木綿ノ出品甚タ少シ然レトモ其柄行ハ比較的巧妙ナルヲ見タリ

長野縣 出品少數ニシテ未タ幼稚ノ域ニアリ

宮城縣、福島縣、岩手縣 以上三縣ノ出品中數點ノ佳良ナルモノアリ染色ノ如キハ稍進步セリト雖柄行及ヒ組織等ニ於テ研究スヘキ點少カラズ或人ノ説ク所ニ依レハ斯クノ如キ縞柄斯ノ如キ太手ノ糸使ノ組織ハ右製品カ主トシテ該地方ノ需用ニ應スルモノナルカ故ニ地方ニ適當セル製品ナリト或ハ然ラシ然リト雖モ世上需要者ノ嗜好ノ程度ハ漸次向上スルモノナルカ故ニ今ニシテ歩ヲ進メサレハ遂ニ時勢ニ後ル、ニ至ラン茲ニ於テカ各府縣共ニ或ハ學校或ハ講習所等ノ獎勵機關ヲ設ケ各其發達ヲ講シツ

ツアリ當業者宜シク之ニ據リテ以テ完全ナル發展ヲ促サントヲ望ム

右三縣中岩手縣ハ出品最モ多ク品質モ稍佳ナルヲ見タリ而シテ同縣ニハ力織機應用ノ縞織工場アリテ盛ニ縞木綿ヲ製織ス以テ該地方ノ模範トナスニ足ルヘシ

青森縣 出品少數ニシテ技術亦幼稚ナリ

山形縣 本縣ハ絹織物ノ產地トシテ東北ニ名アルノミナラス綿織物ノ産出亦少カラズ其產地ハ山形市東村山郡及西田川郡地方トス而シテ山形市及ヒ東村山郡ノ出品ハ意匠品質等見ルヘキモノアリ同地ニ於テハ未タ瓦斯縞ノ如キ細手織物ノ産出多カラズト雖東北ニ於テモ漸次細物ノ需用ヲ増加シツ、アルカ故ニ該地方ノ先進地タル本縣ニ於テハ細手織物ヲモ製造スルノ必要ナルヲ認ム西田川郡庄内地方ノ出品ハ柄行組織共ニ未タ幼稚ニシテ前途發達ヲ促スヘキ餘地存セリ殊ニ縞柄ノ配色ニ於テ缺クル所アルヲ見タリ

青 縞

青縞ハ埼玉縣ノ特産ニシテ出品ノ大部分ヲ占メ之レニ次クハ新潟縣ニシテ其他千葉、長野、山形、岩手ノ諸縣ヨリ少數ノ出品アリ

埼玉縣 本縣ノ青縞ハ兩三年前少シク衰運ニ傾キ産額減少セリト雖近時縣ノ獎勵宜シキヲ得其產地タル埼玉織物産盛組合ニハ技術者ヲ置キ染色講習所ヲ設ケテ指導ヲナス等改善ノ道ヲ講セシヲ以テ漸ク面目ヲ一新シ組織染色共ニ改マルニ至レリ聞ク所ニヨレハ今夏行田地方ニ於テ大出水ノ際製造着手中ノ多數ノ紺足袋ニ浸水セシモ同縣産ノ青縞ヲ用ヒタルモノハ更ニ其裏面ノ白布ヲ汚染セサリシト瓦斯縞ノ如キモ優良品ヲ製出スルニ至レリ同品ハ晴着用ノ足袋トシテ着衣ノ裏ヲ摩損スルコト極メテ少キヲ以テ其需要ヲ増加セリト云フ然レトモ試驗ノ結果ニヨレハ概シテ人造藍使用ノ最多キカ爲メカ摩

擦ニ對スル堅牢度稍低キヲ認メタリ

新潟縣 本縣ノ青縞ハ埼玉縣ニ倣ヒテ開始シタルモノナリト聞クモ逐次其改良ニ努メタル結果品質佳良ナリ染色ノ如キモ共同染工場ニ於テ行フモノ多キヲ以テ製品概シテ統一セリ爾後其改良ヲ怠ラスンハ前途益有望ナラン

千葉縣、長野縣、山形縣、岩手縣 以上各縣ノ青縞ハ概シテ普通ノ製品ナリ而シテ産額亦未タ多キニ達セス元來此種ノ織物ハ各地至ル所ニ需用アルヲ以テ益々染色及ヒ品質ヲ改良シ地方ノ狀況ニヨリ可成機械力ヲ利用シ其製織ヲ盛ナラシメンコトヲ望ム

紺木綿

紺木綿中紺緋ハ殆ント全部武藤飛白同業組合員ノ出品ニシテ同組合ハ其地區東京府及ヒ埼玉縣ニ跨ルカ故ニ兩府縣ノ紺緋ハ概括シテ之ヲ評セン
此種ノ紺ハ其始メ所澤緋又ハ村山紺ト稱シ取引セラレタルモノニシテ明治三十五年頃ヨリ名稱ヲ一定シテ武藤飛白ト改稱スルニ至レリ一時一ケ年ノ産額百五十萬圓以上ニ達シタリシモ近年各地ニ於テ染緋ナルモノヲ製出シ價格比較的低廉ニシテ品質モ漸次精巧トナリシ爲其壓迫ヲ蒙リ漸々販路ヲ減退スルニ至レリト云フ之レ當業ノ注意スヘキ點ナリトス
本會ノ出品ヲ通覽スルニ一見進歩シタルカ如キモ意匠斬新ニシテ品質佳良ナルモノハ約三分ノ一二ニ達

セス其他ハ殆ント舊來ト異ナル點ヲ見ス染色ニ於テハ硫化色素染又ハ硫化色素ト藍染混用或ハ正藍ニ人造藍ヲ多量ニ混用セルカ爲摩擦ニ弱キカ如キ雜然トシテ統一ヲ缺キ概シテ其進歩ヲ認ムル能ハス要スルニ武藤飛白ノ改良ヲ期セント欲セハ技術ノ研究ヲ怠ラス染色ノ如キ最モ適當ナル方法ヲ撰ヒテ之ヲ一定シ尙原絲ヲ精選シ組織ヲ一層密ナラシメ柄行ノ範圍ヲ廣メ以テ需用者ノ嗜好ニ投シ且實用ニ適セシムルコトヲ努メサル可カラス

白緋ハ主トシテ群馬縣邑樂郡地方ノ出品ニシテ近來硫化色素ヲ使用スルノ結果緋ノ上リ良ク即チ手足ヲ引キタルモノ少シ瓦斯白緋モ亦風相並ニ仕上ケ佳良ナリ同地方ハ近來絹綿大島緋ノ製織ニ全力ヲ注キ紺緋ノ如キハ殆ント製織セス白緋モ亦其産額大ニ減少スルニ至レリト云フ

其他ノ白緋ハ新潟縣、栃木縣、山梨縣、山形縣等ヨリ僅カニ數點ノ出品アリシノミニシテ評スルニ足ラス

木綿縮

木綿縮ノ出品ハ栃木縣ヲ主トシ群馬縣之ニ次キ尙千葉縣ヨリ少數ノ縮緋ヲ出品セリ

栃木縣 本縣ノ木綿縮ハ佐野及ヒ足利地方ノ特産ニシテ概シテ進歩ノ形跡アリ殊ニ瓦斯縮ニ於テハ品質卓越セルモノアリ又緯糸撚機械ヲ應用セル製品ノ出品アリシカ能ク機械ノ効力ヲ發揮シ品質精緻ナルヲ見タリ縮子入縮、竹縮ノ如キモ技術進ミ世ノ嗜好ニ適セリ無伸縮ハ新製品ナリト雖モ從來ノ縮ノ

缺點ヲ補フニ努メタル跡ヲ認ム

元來當地方ハ縮ノ產地トシテ其名顯著ナリト雖機械ノ應用進マサルカ故ニ其産額ノ増加ハ甚遲緩ナリ
現今各地ニ於テ機械應用ノ縮織工場ヲ設立シ以テ海内及ヒ海外ノ需用ニ應シツ、アルノ時期ニ際シ先
進地タル本縣ノ當業者ノ如キ大ニ覺醒スル所ナカルヘカラス

群馬縣 本縣ノ木綿縮ハ出品少數ニシテ優良ノモノヲ認ムル能ハス將來大ニ輸出縮ノ製造ヲ獎勵シ其
産額ヲ増加セシメントヲ希望ス

千葉縣 銚子縮ハ品質稍堅牢ニシテ實用ニ適スレトモ其産額僅少ニシテ僅カニ從前ノ俾ヲ存スルノミ
當業者益奮起セサレハ自ラ其特産ヲ失フニ至ラン

白木綿

主トシテ埼玉縣ノ出品ニシテ其他新潟、茨城、栃木、長野、宮城等ノ各縣ヨリ少數ノ出品アリ
埼玉縣 本縣ハ各種ノ綿織物ニ於テ關東地方ニ覇タルカ如ク白木綿又其例ニ漏レス出品ハ概シテ品質
組織共ニ佳良ナリ而シテ力織機ノ應用發達セルカ故ニ其産額近來大ニ増加セリ
新潟縣 本縣ノ白木綿ハ縣下ノ染生地用トシテ使用セラル、モノニシテ近來進歩ノ途ニアリ然レトモ
未タ縣下ノ需用スラ充タヌニ足ラスト聞ク當業者一層奮勵スヘシ
栃木縣 本縣ノ白木綿ニハ稍品質ノ佳ナルモノアリ

埼玉縣及茨城縣ヨリ出品セル足袋底地ハ稍見ルヘキモノアリ殊ニ力織機ヲ應用シテ此種ノ織物ヲ製織
スルハ大ニ喜フヘキ現象ナリ其他ノ府縣ハ白木綿類ノ出品甚タ少數ナルカ故ニ之ヲ評セス
終リニ當リテ一言ヲ附加セントス即チ清國及ヒ臺灣等ニ於テ特種白木綿ノ需用頗ル多キニ拘ラス本回
ニハ殆ント其出品ヲ見サリシハ遺憾トス當業者ノ大ニ着目セントヲ望ム又本回ノ出品物ヲ見ルニ染
色ニ於テハ硫化色素ノ應用甚タ盛ナルニ至リシト雖モ近時學者間ニ此色素ハ纖維ヲ傷害ストノ説ヲ唱
フルモノアリ兎ニ角不完全ナル方法ニ依リテ染メタルモノハ纖維ヲ損スルコト明ナレハ染色ノ際ハ深
キ注意ヲ拂ハンコトヲ要ス

前回ニ於テハ青縞等ノ原絲ヲ染ムルニ湯煮又ハ精練ヲ行ハサルモノアリシカ如キモ今回ハ斯ノ如キ出
品極メテ稀ナルニ至レルハ大ニ喜フヘキコトトス
左ニ本類ノ出品點數人員及ヒ擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府 縣 名	出 品		擬 賞 等 級				計	出品人員ニ 對スル擬賞 割合
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等		
東 京 府	四一〇	一八六					四三	〇、二三
神 奈 川 縣	三	一					一	〇、〇〇
新 潟 縣	七六九	一七三					五二	〇、三〇
埼 玉 縣	一、四九八	六一九	二	一〇	一八	一〇六	一三六	〇、二二

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

千	茨	山	山	宮	福	岩	青	山	群	計
葉	城	木	梨	野	島	手	森	形	馬	
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	
一 一七	二 八四	二 八七	一 八七	一 〇九	五 〇六	三 一	五 九九	一 四八	四 七七二	
四 三	三 一	八 七	一 一	一 六	三 三	三 三	三 三	一 四	一 四三六	
										五
										二 五
										六 〇
										二 四 六
										三 三 六
										〇 、 二 三
										〇 、 一 一
										〇 、 二 八
										〇 、 三 三
										〇 、 二 〇
										〇 、 二 二
										〇 、 一 九
										〇 、 二 六
										〇 、 一 九
										〇 、 二 八

四百八十二

第四十一類 麻織物及其交織物

麻織物及其交織物ノ出品ハ點數百三十四點人員七十六名ナリ其重ナル出品ハ上布、縮布、蚊帳地、網地、生麻布等ニシテ就中新潟縣ノ出品ヲ最トシ長野、岩手、福島、宮城、群馬、青森ノ諸縣之レニ次ク而シテ前記以外ノ聯合府縣中ニモ比較的本類ノ生産額多キ栃木縣等アルニ拘ラス一點ノ出品ヲモ爲サ、リシハ物足ラス感アリ然シテ本類全斑ニ就テ之レヲ見ルニ進歩ノ形跡ヲ認ムルモノ乏シク概シテ

舊態ヲ改メサルハ遺憾トス左ニ各縣ノ出品ニ就テ批評ヲ試ミン
 新潟縣 本縣ノ出品ハ上布並ニ縮布ニシテ分チテ白地緋、紺及納戸地緋、縞物、縞織、晒布等トス原糸ハ舊來ノ方法ニヨリ本縣及福島、山形、兩縣下產出ノ苧麻ヲ爪ヲ以テ學キ手引キニヨリテ績キタルモノヲ使用ス紡績麻糸ヲ使用スルハ一部ノ下等品ニ限レリ染色用ノ染料ニハ主トシテ天然藍ヲ使用スルカ故ニ色相ニハ制限アレトモ堅牢ナリ製織ニ於テハ緻密ナル緋模様ノ如キモ少シノ崩ナク頗ル精確巧妙ニ織リ上ケタルモノアリ緋柄、縞割等ニ新意匠ノモノ乏シク改良進歩ノ點ハ認メ難キモ技術ノ優秀ナルハ賞讃ニ値ス白縮布ハ冬期積雪ノ上ニ敷キテ漂白スルモノニシテ能ク純白ニ晒シ上ケラレテ少シモ布地ノ傷害セラル、虞ナキハ特點トス而レトモ其方法タルヤ今日ノ時勢ニ於テハ迂遠ノ誹リヲ免レンス然シテ漂白粉ヲ使用シテ晒シ上ケタルモノハ保存中往々褐色ヲ呈スルモノアリテ未タ充分ナル成績ヲ得ルニ至ラスト云フ之レハ漂白粉使用ノ不熟練ナル爲メカ或ハ水洗等ノ操作ニ缺クルトコロアルニ據ルカ宜シク其原因ヲ講究シテ天然晒ノ如キ長時日ヲ要スル舊法ニ換ユル策ヲ講スヘシ本縣下ニハ大規模ノ工場ヲ所有シテ之レカ製織ニ從事スルモノナク冬期農閑ノ時期ニ於テ婦女子カ副業的ニ製織スルモノニシテ生産額ノ多寡ニ重キヲ置カス唯精巧ニシテ價格ノ貴キ上布ヲ製造スルヲ目的トシ名譽トスル如キ傾向ヲ有シ織リ上ケニ就テハ周到ナル注意ト熟練トヲ以テ熱心ニ從事スルカ故ニ緻密優良ナル品質ノモノヲ得レトモ其產出額ハ多カラサルナリ熟ラ本業ノ狀況ヲ觀察スルニ製造方法ハ單ニ舊

套ヲ追フニ止マリ進歩的ノ觀念乏シク製品ハ精巧優美ナレトモ價值高貴ニシテ中流以下ノ需用ニ適セ
 ス上流若シクハ好事者ノ嗜好物タル如キ有様ナルカ故ニ今日ノ狀態ヲ以テ推移スルトキハ需用ノ増加
 事業ノ發展ハ到底望ミナキコトナルヘシ宜シク石川、奈良等ノ諸縣ニ於ケル麻織物製造ノ狀況ヲ視察
 シテ改良ノ方法ヲ講究スヘシ而シテ國粹保存の觀念ヨリ云ヘハ美術的ナル越後上布類產出ノ繼續ヲ望
 ムト云ヘトモ大局ヨリ打算スルトキハ此製造ニ費ス技能ト時間トヲ以テ需用ノ多キ他種織物ノ製造ヲ
 計畫スルノ優レルニ若カス

長野縣 本縣ノ出品ハ蚊帳地、網地、細美類ナリ概シテ農閑ノ副業ニ依リ上水内郡ヲ主要ナル産地ト
 ス原料ハ多ク大麻ニシテ婦女子ノ手ニテ分割シテ績キ糸トナセルモノヲ使用シ手織機ニテ製織スルナ
 リ其産額多カラズ品質モ雜多ニシテ統一セル商品トシテ市場ニ於テ輸麻ヲ決スルニ足ラス全體ニ於テ
 本業ノ狀態ハ幼稚ナルヲ認ム然シ當業者カ原糸ノ撰擇ト織上ケテ整正ナラシムルコトニ就テ苦心セル
 跡アルハ賞スヘシ要スルニ本縣下ニアリテハ各郡ニ產出スル麻類ヲ適當ニ使用スル手段トシテ製織ス
 ル有様ナレハ今後ノ發展ヲ望ミ少ナケレトモ好個ノ副業ト云フヘシ

岩手縣 本縣ノ出品ハ衣服用生麻布及蠶絲布等ニシテ漂白染色等ノ工程ヲ經タルモノナク頗ル單調ナ
 ルモノナリ此原料ニハ本縣ニ於テ產出スル大麻ヲ使用シ冬期農閑ノ期節ニ婦女子カ副業トシテ從事ス
 ルモノナリ生産額亦多カラズシテ特記スヘキコトナシ

宮城縣 本縣出品ノ蚊帳地ハ若柳蚊帳ト云ヒ東北地方ニテハ有名ナルモノニシテ經糸ヲ二本宛揃ヘタ
 ル點ニ於テ普通品ト異ナレリ然レトモ之レハ賞揚スヘキ特徴ト思考スルニ足ラス當業者カ本品々質ノ
 粗惡ニ流ル、ヲ愛ヒ之レカ改良ヲ加ヘタルタメ漸ク其名聲ヲ維持スルニ止マリ原料モ漸次缺乏ヲ告ケ
 ツ、アリト云ヘハ今後ノ發展ハ困難ナラン

右ノ外福島縣ノ五郎丸及蚊帳地青森縣ノ生麻布群馬縣ノ麻交織物等ハ産額出品共ニ僅少ナルカ故ニ茲
 ニ之レカ批評ヲ略ス

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
新 潟 縣	四三	一〇		二	三	一	六	〇、六〇
長 野 縣	二四	二四				四	一	〇、二〇
宮 城 縣	一一	二				一	一	〇、五〇
福 島 縣	九	七				二	一	〇、二八
岩 手 縣	三八	二八			一	五	二	〇、二一
青 森 縣	二	一				一	一	〇、五〇
群 馬 縣	八	二				一	一	〇、五〇
計	一三五	七四		二	五	一四	二一	〇、二八

第四十二類 毛織物及其交織物

本類ノ出品點數ハ僅カニ百一點ニシテ人員十七名ノ小數ナリ而シテ其出品ヲナセル府縣ハ東京、神奈川、新潟、栃木、群馬ノ一府四縣ニ過キス

斯ル小數ノ出品ヲ以テ其全般ヲ律スルコト難シト雖モ概シテ本業ハ幼稚ナリト云ハサルヲ得ス抑々本邦ニ於テ洋服ハ勿論和服ノ材料トシテモ毛織物ヲ用ユルコト年々増加シ其輸入額モ近年激増セルヲ以テ見ルモ本業ハ甚タ有望ナル事業ナルニ拘ラス斯ノ如ク發達ノ速カナラサルハ頗ル遺憾トスル所ナリ左ニ各府縣ノ主ナル出品ニツキ批評ヲ試ミントス

東京府 本類ノ過半ハ本府ノ出品ニシテ就中東京製絨株式會社ノ「セル」地毛布等ハ其主要ナルモノナリ當社ハ其創立明治二十年ニシテ技術熟練機械モ略完備セルカ故ニ「セル」地ノ如キ優良ノ製品ヲ出セリ尙少シク價格ヲ廉ニシ益々販路ヲ擴張シテ外國品ノ輸入防遏ニ一層努力アラントヲ望ム

栗原某ノ「セル」地ハ品質組織共ニ可ナルヲ見タリ

「ウール」羅紗株式會社ノ「ウール」羅紗ハ近年其業ヲ創メタルモノナレトモ價廉ニシテ用途ニ依リテハ羅紗ノ代用トナスニ適セリ

神奈川縣 新潟縣ノ「セル」ハ出品少數ナレトモ稍可良ナルモノヲ出セリ其產額ノ僅少ナルヲ遺憾トス

群馬縣 本縣下ヨリ出品ノ馬糞織ハ稍見ルニ足レリ洋服ノ需用ニ伴ヒテ其需用ヲ増加スヘシ

要スルニ本類ハ少數ノ出品ヲ除クノ外原料ノ選擇不適當ニシテ又染色組織及整理ニ於テモ大ニ改良ヲ要スヘキ點アリ營業者益々奮勵シテ有望ナル本業ノ發展ヲ企圖センコト切望ニ堪ヘス

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等		
東京府	六八	一〇	—	—	四	〇、四〇
神奈川縣	七	—	—	—	—	〇、〇〇
新潟縣	三	—	—	—	—	〇、〇〇
栃木縣	三	—	—	—	—	〇、〇〇
群馬縣	二〇	—	—	—	—	〇、六六
計	一〇一	一七	—	—	八	〇、四七

第四十三類 絹綿交織

絹綿交織ニ關スル評論 青梅縞 新潟物 埼玉物 結城物 足利物 佐野物 長野物

岩手物 青森物 山形物 桐生物 伊勢崎物 邑樂物

本類ハ前回ニ於テモ已ニ交織物トシテ一類ヲ設ケラレタルモ其ノ織物中交織セル絹糸ノ少量ナルモノハ是レヲ綿織物ト見做シタリシモ今回ハ少量タリトモ絹糸ヲ交織セル綿織物ハ是レヲ絹綿交織トシテ

群馬縣共催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

審査セリ是レニ依リ四十類ヨリ本類ニ編入セラレタルモノ尠ナカラス故ニ本類ハ豫定數ヨリ多少増加セリ

本類ハ山梨、宮城ヲ除クノ外聯合府縣中何レモ多少ノ出品アラサルナシ就中多數ノ出品ヲナセルモノハ群馬、栃木、埼玉、新潟ノ四縣ニシテ東京、山形、青森ノ三縣是レニ次キ茨城、岩手、神奈川、長野、千葉、福島ノ六縣ハ出品至テ少數ニシテ其總出品點數ハ三千六百五十七人員ハ八百九十六ナリ次ニ其ノ出品中ノ主要ナルモノヲ舉ケレハ栃木縣ノ絹綿御召、群馬縣ノ帶地、タンタンビース、大島紬、埼玉縣ノ絹綿縞物、新潟縣ノ交織結城、東京府ノ青梅縞等ニシテ各其特色ヲ發揮シ改良進步ノ跡見ルヘキモノ尠ナカラス殊ニ一頭地ヲ拔ケルハ栃木縣ノ足利物ナリトス

東京府

本府ノ出品ハ點數百二十四人員八十四ニシテ其ノ大部分ハ青梅織物同業組合地區内ノ製産ニシテ其織物ノ主ナル種類ハ夜具地、座布圍地、合羽地ニシテ柄行配色共ニ前回ニ比シテ改良セラレタルヲ見ル染色モ一般ニ改善ニ留意セル點尠ナカラサルモ未タ以テ充分ナリト云フヲ得ス當業者一致以テ改善ニ勉メハ發展期スヘキナリ

神奈川縣

本縣ノ出品點數ハ二十五人員六ニシテ其種類ハ夜具地ノ岸縞ナリ意匠染色等別ニ改良ノ點ヲ認メス當

業者此際奮發スルニアラサレハ次第ニ減退スルヲ免レサルヘシ

新潟縣

本縣ノ出品ハ點數二百五十八人員六十八ナリ其出品ノ主ナルモノハ袴地、絹綿結城、同節系織等ニシテ其ノ主産地ハ南蒲原郡見附町ナリ村松、龜田、長岡是レニ次ク而シテ袴地ハ前回ニ比シテ稍面目ヲ改メタルハ喜フヘキ事ナリ絹綿着尺類ハ概シテ製織技術上精巧ナルモノ尠ナカラス然レトモ染色及整理ノ點ニ於テ不完全ナルモノアルハ遺憾ナリ將來此點ニ注意セハ一物産トシテ發展ノ望有リ

埼玉縣

本縣ノ絹綿交織物ハ主トシテ武藏織物同業組合及埼玉織物同業組合ノ地區内タル入間、北足立ノ二郡ノ製産ニ係リ今回ノ出品點數五百五十五人員九十五ニシテ其ノ種類ハ絹綿交織縞物、同緝入等ニシテ一般ニ染織技術ノ進歩顯著ナルヲ認ム然ルニ織物整理ノ方法完全ナラス是レカ爲メ其眞價ヲ充分ニ發揮セサルヤノ感アリ尚柄行ニ於テ男子向多キハ製織ノ點ニ於テ容易ナルヘキモ販路擴張上策ノ得タルモノアラス將來意匠配色ノ改善ヲ計リ婦人向ノ柄物ヲ多ク製織セハ一層ノ發展ヲ見ルヘシ當業者此點ニ留意セラレン事ヲ要ス

茨城縣

本縣ノ出品ハ點數五十八人員十三ニシテ其ノ種類ハ皆交織結城縞ナリ概シテ優等品多キモ専ラ手工ヲ要

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會染織工業調査報告

スルコト多キヲ以テ價格不廉ノ爲メ他地方ノ廉價品ト競争スルノ餘地ナク自然ニ販路ヲ蠶食セラル、
ヲ免レス當業者此點ニ注意シ大ニ發展ノ途ヲ講セサルヘカラス

栃木縣

本縣ノ出品點數ハ千五百五十四人員二百四十八ニシテ其ノ大部分ハ足利織物同業組合地區内ノ製産ニ係
リ其ノ他ハ佐野織物同業組合及ヒ桐生織物同業組合ニ屬スル地區内ノ製産ニシテ其出品ノ主ナルモノ
ハ絹綿御召、同紬、節絲織類ニシテ就中御召類ハ約半數ヲ占メ隨テ配色意匠ノ巧妙ニシテ變化ニ富ミ
且ツ其ノ技術ノ優秀ナルト相待ツテ其ノ優等品ニアリテハ純絹織物ト異ナラサルモノ尠ナシトセス實
ニ此ノ絹綿御召カ足利ノ特有物産トシテ世上ニ歡迎セラル、モ亦故ナキニアラス即チ山口保三郎、川
島藤左衛門、初山唯四郎三氏ノ出品ニ於テ其ノ然ルヲ見ル然ルニ嶄新ヲ是レ競フノ結果實用ニ適セサ
ルモノ及ヒ染色不堅牢ノモノ並ニ經緯ノ割合適當ナラサルモノアリ須ラク一考ヲ要ス
紬、節絲織等ハ製織技術ニ於テハ進步セルモノ尠ナカラサルモ御召類ニ比シテハ及ハサルコト遠シ然
ルニ近時漸ク整理ノ効果ヲ認メ各種ノ整理機械ハ設備シ之レカ操業モ大ニ熟達セシ結果外觀及ヒ地風
ノ上ニ於テ一段ノ進步ヲ認ム

岩手縣

本縣ノ絹綿交織ハ至テ少數ニシテ點數二十四人員十三ナリ其ノ種類ハ主トシテ筋物ニシテ柄行配色等

至テ幼稚ニシテ改良スヘキ點少ナカラス

青森縣

本縣ノ出品ハ點數百〇六人員十ナリ而シテ其出品ハ概シテ地方ノ需要ヲ充ス爲メニ製織セラレタルモ
ノ多ク隨テ柄行組織共ニ流行ニ後レタルヲ見ル當業者ノ奮發ヲ望ム

山形縣

本縣ノ絹綿交織物ハ點數百二十六人員二十九ナリ其ノ出品ノ主ナルモノハ交織縞物ニシテ就中西田川
郡ノ出品ニ係ルモノハ製織技術ノ點ニ於テ精巧ナルモノ少ナカラス然レトモ柄行配色ニ至リテハ適當
ナリト云フヲ得ス當業者此ノ點ニ注意シ且ツ整理宜シキヲ得ハ優ニ一物産タルニ至ルヘシ

群馬縣

本縣ノ絹綿交織物ハ出品點數千二百二十四人員三百二十二ニ達シ點數人員共ニ本類ニ於テ聯合府縣中第
一位ニアリ是レ主催縣タルノ然ラシムル所ナルヘキモ當業者ノ奮發ニ依ルモノナルヘシ而シテ其產地
ハ桐生織物同業組合及ヒ邑樂織物同業組合並ニ伊勢崎織物同業組合ノ地區内ノ製産ニ係レリ
桐生織物同業組合ノ地區内ノ出品ハ絹綿帶地、絹綿御召同胴裏地並ニ輸出向タンタンビス等ニシテ
御召着尺類ハ優等品アリシモ足利産ノ其レニ比シテ第二流タルヲ免レス同帶地中ニハ意匠配色共ニ巧
妙ニシテ價格低廉ニ流行ニ適セルモノ尠ナカラス絹綿縞子帶地中黒觀光ハ優等品尠ナカラサルモ別ニ

著シキ進歩ヲ認メス同色縹子ニハ斬新ナルモノアリ同胴裏等ハ大ナル改良ノ點ナシ同縹珍帶地ニハ組織ニ改良ノ點アルハ一進歩ナリ「タンタンビース」ハ品位トシテハ優秀ノ域ニ達セリト云フヲ得サレトモ品質ノ一定セルハ輸出品トシテ資格ヲ備ヘリ是レ主トシテ動力織機ニヨリ製織セラレ、ト染色整理ノ發達セルニ依ル要スルニ清國輸出トシテハ最モ適當ナル程度ノモノナルヘシ何トナレハ優等品ニアリテハ外國品ノ爲メニ遺憾ナカラ一歩ヲ讓ラサルヲ得ス依テ原料ノ豐富ナル本縣トシテハ寧ロ此際普通品ヲ以テ勝ヲ制スルコソ策ノ得タルモノナルヘシ

伊勢崎絹綿交織ノ出品ハ縹物及ヒ緋物ニシテ純絹物ニ讓ラサル優等品ナキニアラス特ニ緋ノ應用ニ至リテハ頗ル巧妙ナルモノアリ然レトモ絹綿ノ割合及織度ノ比宜シキヲ得ス隨テ耐久力ニ乏シキ感アリ且ツ整理モ亦不充分ナルモノ尠ナカラス當業者ノ一考ヲ煩ハス

邑藥物ハ主トシテ擬大島緋ニシテ其ノ價格ニ比シ製品ノ優等ナルヲ以テ是レカ販路ノ益々擴張セラレ、モ亦宜ナリ時ニ緋ノ應用ニ熟達セルハ喜フヘシ即チ高澤喜太郎ノ出品ノ如キ是レナリ而シテ今回ノ出品ハ概シテ品位ノ整一ナリシハ賞揚スヘキモ染色ニ於テ尙未タ完全ノ域ニ達セス當業者此點ニ留意シ一段ノ改良ヲ望ム

長野縣、千葉縣、福島縣

右三縣ノ出品數ハ極メテ少數ニシテ且ツ其ノ出品モ亦各自地方ノ需要ヲ充タス爲メニ製織セルモノ

ニシテ何レモ意匠配色等流行ニ後レタルモノニシテ別ニ評スル程ノコトナシ

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	一二四	八四		二	五	一二	一九	〇、二二
神奈川縣	二五	六					二	〇、三三
新潟縣	二五八	六八		二	四	九	一五	〇、二二
埼玉縣	五五	九五	一	四	六	一一	二二	〇、二三
千葉縣	二	二					二	〇、二三
茨城縣	五〇	一三			一	二	三	〇、二三
栃木縣	一、一五四	二四八	三	八	二	四二	六五	〇、二六
長野縣	八	七				二	二	〇、二八
福島縣	一	一						
岩手縣	二四	一三				三	三	〇、二三
青森縣	一〇六	一〇				三	三	〇、二三
山形縣	一二六	二九		一	二	四	七	〇、二四
群馬縣	一、二二四	三二〇	二	一〇	一六	五六	八四	〇、二六
計	三、六五七	八九六	六	二七	四六	一四六	二二五	〇、二五

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業審査報告

染物ハ今回ノ聯合府縣タル一府十四縣中其出品ノ絶無ナリシハ唯神奈川ノ一縣ノミニシテ他ハ群馬栃木新潟東京ヲ初メトシ奥羽各縣共何レモ多少ノ出品ヲ見サルハナシ而シテ出品點數ノ多寡ニ於テハ今回ノ主催縣タル群馬第一位ヲ占メ栃木新潟長野山形東京ノ各府縣順次之ニ亞キ宮城福島埼玉山梨青森茨城千葉ノ諸縣ハ遙カニ前記數縣ニ及ハス然レトモ出品人員ヲ以テ算スルトキハ長野縣最モ多ク群馬栃木新潟山形福島東京岩手宮城山梨茨城埼玉青森千葉ノ順次ヲナセリ

本類ノ出品中東京府ノ毛斯倫友禪ハ例ニヨリテ精巧蓋シ出品中ノ最タルモノナリ群馬縣高崎ノ紅絹太織友禪類桐生地方ノ染帶地新潟縣ノ中形染緋友禪長野縣ノ模様染栃木縣ノ觀光友禪類之ニ次キテ光彩ヲ放テリ就中高崎ノ紅絹長野縣ノ模様染友禪ノ如キハ前回長野ニ開催セル關東一府十縣聯合共進會ノ出品ニ比シ著シキ進歩ヲ認ム然レトモ以上列記セル外一二種ヲ除キテハ概シテ地方ノ需用ニ應スル受托染ノミニシテ商品トシテ廣ク地方ニ輸贏ヲ爭フニ足ルモノナク前回タル長野縣及ヒ福島縣開催ノ二共進會ニ比シ進歩ノ跡ヲ認ムルモノ少シ

以下順次各府縣ノ出品狀況並ニ之ニ關スル批評ヲ加ヘンニ左ノ如シ

東京府 本府ノ出品ハ點數一百十六人員二十一ニシテ其出品ヲ種類ニヨリテ分類スレハ即チ毛斯倫友禪總點數ノ約五分ノ二木綿更紗約五分ノ一ヲ占メ其他ハ木綿染合羽地瓦斯裏地絹布友禪及ヒ手拭染等

ニシテ木綿中形ノ出品ナカリシハ奇ト云フヘキモ之レ蓋シ共進會開會時期ノ關係ニヨルモノナランカ毛斯倫友禪ハ聯合各府縣中之ヲ産スルハ唯本府ノミニシテ從テ他ト比較論評スルニ苦ムモ意匠斬新配色又其ノ宜シキヲ得タルモノ少カラズ優ニ一方ノ重鎮タルヲ失ハス然レトモ製産地タル東京府下カ水害ノ餘響ヲ蒙リタル爲メカ本府トシテハ出品比較の少ク平素ノ業況ヲ充分ニ發揮セサルノ憾アリ阿部福治郎ノ出品ニ係ル紺染「キヤラコ」足袋地ハ色相佳良染色堅牢賞揚スヘシ此他ニハ裏地類ニ佳良ナルモノアルモ舉ケテ評スルヲ要セス

新潟縣 本縣ノ出品ハ點數一百三十五人員三十三例ニヨリテ三條町ノ染緋第一位ヲ占メ中形之ニ亞キ此他ニハ高田町ノ友禪白根町ノ木綿絞リ染及ヒ裏地等ノ出品アリタリ

染緋ハ從來ノ出品ニ比シ一段ノ工夫ヲ凝シタルモノアルモ本品ノ需用額ハ蓋シ現時其極ニ達シタルカ如キヲ以テ將來其意匠ニ染色ニ益々改良ヲ加ヘ販路ヲ擴張スルコトヲ計ルヘシ在來三條染緋ト云ヘハ概シテ紺地及ヒ黒地ノモノノミナリシカ今回ノ出品ニ就テ見レハ茶地紺ノ出品稍多キヲ見ルノミナラス其染色亦比較的堅牢ニシテ賞讚ノ價值アリ之レ一面嗜好ノ變遷ニ由ルモノナルヘシト雖又本品改良上ニ於ケル當業者ノ苦心ヲ知ルニ足ル聞クカ如ク本本品ハ漸ク昨年ヨリ其製産ヲ見ルモノナルカ如キモ染料ノ選擇其宜シキヲ得變色褪色ノ憂ナカラシムルニ於テハ價格ノ點ニ於テ織緋ト拮抗シ得ヘキコト在來ノ紺緋ノ如クナルヘキヲ以テ尙益其改良ニ心ヲ致サレンコトヲ希望ス染緋中ニ「インダンス

レン」族染料ヲ應用シタルモノアリタリ是等ハ儘カニ一ノ進歩ト認メラル

中形ハ今回其出品ヲ見タルハ本縣及ヒ栃木縣ノ二縣ヲ主トシ他ハ極メテ僅少ニシテ比較ノ價值ナシ本縣ノ中形ハ多ク二色捺染ノモノニシテ意匠ニ於テ遙カニ栃木縣産ノ上ニ位ス然レトモ出品中染色ノ不堅牢ナルモノアリシハ甚タ遺憾トスル所ニシテ特ニ本品ノ如キハ他ノ高等染物ト異リ夏期ノ常用トシテ常ニ洗濯ヲ要スルコト勿論ナルカ故ニ其改良ヲ切望ス

以上ノ外白根絞リ染ハ逐年退歩ノ傾向アルハ頗ル遺憾トス大ニ産額ノ増加ニ意ヲ用ユレハ將來發展ノ餘地ナキニアラサルカ故ニ當業者ノ奮勵ヲ望ムト共ニ其缺點タル晒白ノ不完全ナルト意匠ノ陳腐ナルトヲ改ムルヲ要ス高田町ノ絹布裾模様染ハ意匠配色染色共ニ長足ノ進歩ヲナセルモノト云ヘシ然レトモ僅僅一二當業者ノ手ニ委シツツアルハ多少遺憾ナキ能ハサルモ今回ノ模様染出品中真ニ一二ヲ爭フモノトス

埼玉縣 本縣ノ出品ハ點數二十二人員三ニシテ纏リタル出品ナシ入間郡川越町附近ノ木綿紅染ノ如キハ相應ノ産額アルニ拘ラス僅カニ二三點ノ出品ヲ見ルニ過キスシテ進歩ノ狀ヲ認メ難シ

長野縣 本縣ノ出品ハ點數一百二十六人員六十四ニシテ絹布裾模様染最モ多ク小紋染黒紋付染之ニ次キ其他紺染足袋底類ノ出品アリ

裾模様染ハ出品點數多ク從テ意匠配色佳良ナルモノアルト共ニ又拙劣見ルニ堪ヘサルモノアリ而シテ

其優良ナルモノハ優ニ新潟縣ノ出品ニ對抗シ得ヘシ要スルニ一般ニ數年前ニ比シ多大ノ進歩ヲ見ルハ喜フヘシ蓋シ本品ハ技術ト共ニ意匠配色ヲ最モ骨子トナスモノニシテ本縣ノ如キハ同業者ノ數比較的多キヲ以テ爾今協力一致益々其發展ヲ計ランコトヲ

小紋染黒紋付染亦佳良ナル出品アリ特ニ黒紋付中ニハ染色堅牢ニシテ紋部純白色澤佳良賞揚スヘキモノアリ尙隨テ得テ蜀ヲ望ムヲ得ハ其整理ニ研究ヲ積マンコトヲ望ム

千葉縣 本縣ノ出品ハ點數六人員一所謂地細工物ノミノ出品ニシテ擧ケテ評スヘキモノナシ

茨城縣 本縣ノ出品ハ點數六人員四地細工物ノ外ニ本縣産物ノ一タル足袋底ノ紺染品アルモ特ニ稱揚スヘキモノヲ見サルハ遺憾トスルコトコナリ

栃木縣 本縣ノ出品點數ハ一百六十九人員三十八ニシテ出品ノ種類ハ足利織物同業組合員ノ出品ニ係ル觀光友禪絞リ染交織女帶地及ヒ兵兒帶類宇都宮及ヒ其附近ニ産スル中形染ヲ主トシ其他拔緋染緋更紗黒紋付染輸出捺染縮等アリ

觀光友禪ハ柄合配色其近來著シキ進歩ノ狀ヲ認ムルモ整理ノ不完全ナルト地色ノ時好ニ伴ハサルヲ遺憾トス是等ノ缺點ハ本品販路ノ關係上其改良ヲ忽諸ニ附スルノ傾キアルモノナルヘキモ此點ニ關シテハ當業者ノ一考ヲ促ス又染色ノ不堅牢ナルハ本品ノ如キ品種ニアリテハ強テ答ムヘキニ非ラサルモ染料ノ選擇染色方法ノ改良ハ又永遠ニ本品ノ産額増大ヲ關ル所以ナルヘシ

絞リ染帶地類ハ地色ノ染色ハ佳良ナルモ意匠ハ概シテ千篇一律ナルヲ遺憾トス

宇都宮市及ヒ其附近ハ古クヨリ木綿中形ノ産地トシテ名アルモ今回ノ出品ニ就テ見ルトキハ其實ノ名ニ添ハサルノ感ナクンハアラス出品ハ多ク二色寫シノ中形ナルモ意匠ノ斬新ナルモノ少ク特ニ最モ缺點トスヘキハ白地ノ上リ純白ナラサルニアリ木綿黒紋付染ハ概シテ佳良宇都宮市菊地元次郎出品ノ如キハ今回ノ木綿黒紋付染中優ニ第一位ヲ占ムルモノナリ

山梨縣 本縣ノ出品ハ點數十六人員六ニシテ羽二重黒紋付染外數種アリ出品中表染黒紋付染ハ紋部純白ナルモ染料ノ撰擇宜シキヲ得サル爲メカ黒色ノ趣味ニ乏シキノ缺點アリ尙一段ノ工夫ヲ要ス

宮城縣 本縣ノ出品ハ點數八十七人員十ニシテ其主要ナル出品ハ常盤紺形或ハ染紺等ノ名稱ノ下ニ出品ナレシ土糊ヲ防腐劑トシテ使用シタル染紺類ナリ本品ハ奥羽各縣及ヒ北海道方面ニ比較的多大ノ需用ヲ有スルモノナルモ品質ニ於テハ更ニ進歩ノ跡ヲ見ス若シ夫レ從來ノ着眼ヲ一變シ意匠整理ニ一大改善ヲ施シ汎ク内地向需用品トスルカ或ハ滿韓輸出品トシテ發展ノ途ヲ講スルニ於テハ優ニ一生涯ヲ開クニ至ランカ

出品點數前者ニ次クヲ絹布裾襦樣染紋付染及ヒ小紋染トスレトモ稍佳良ナルハ紋付染ノミニシテ特ニ評スルノ價値ナシ

福島縣 本縣ノ出品ハ點數八十一人員二十三ニシテ内出品點數ノ多キハ福島市ノ絹布小紋染及ヒ紋付

染白河地方ノ絹布黒紋付染及ヒ石城郡地方ノ木綿黒紋付染等トス

福島市淺井武平ノ出品ニ係ル紋練羽二重ハ特許第五一一九七號ノ應用ニ係ルモノニシテ即チ輕目羽二重ヲ生ノ儘ニテ適當ナル防染糊ヲ以テ適當ノ模様ヲ置キ之ヲ精練シテ練羽二重ニ生絹ノ模様ヲ現ハシタルモノニシテ適用其宜シキヲ得タルモノト云フヘシ

小紋染ハ一二佳良ノ出品ナキニアラサルモ概シテ意匠配色等舊套ヲ脱セス時好ニ適セサルハ遺憾ナリ黒紋付ノ品種ハ前回福島縣主催奥羽聯合共進會ニ於テハ白河須賀川地方ノ出品カ本縣中ノ上位ヲ占メシモ今回ハ反テ福島市ノ出品ニ壓セラレシ有様ヲ呈セリ然レトモ此等ヲ他縣産ノモノニ比スレハ尙多ク及ハサル所アリ當業者大ニ其改善ヲ計ルヘシ

此他木綿黒紋付ハ特ニ優良ナルモノナシ唯祝着染ニハ技術上稍見ルニ足ルモノアリ

岩手縣 本縣ノ出品ハ點數六十四人員二十ニシテ出品ノ種類ハ友禪染アリ黒紋付染アリ小紋染アリ染紺アリ其他形付類アリテ多種多様極メテ雜多ナリ

本縣ノ友禪ハ之ヲ前回ニ比較スルニ稍退歩ノ感アルハ誠ニ遺憾ノ事ニシテ此他ノ出品ニ於テモ概シテ技術幼稚拙劣見ルニ足ルモノナシ將來大ニ當業者ノ奮勵ヲ要ス

紫紺染ハ本縣ノ特産ニシテ古ク紅花染ト併セ稱セラレタルモノニシテ今尙其保存ニ意ヲ用ユルハ多トスヘシ然レトモ蓋シ本品ノ如キハ時代ノ進運ニ伴ハサルモノニシテ廣ク一般ノ需用ニ適スヘクモアラ

サルハ明ナル所ナリ而シテ之ヲ出品ニ就テ見ルニ何レモ木綿ニ應用シタルカ如キハ其適用ヲ誤レルモノト云フヘキカ寧ロ之ヲ絹布ニ應用シテ社會一部ノ需用ニ應スルノ方法ヲ講スルヲ以テ策ノ得タルモノト云フヘシ

青森縣 本縣ノ出品ハ點數十人員僅カニ二人ニシテ前回ト同様ニ各種類ニ互リ特ニ評スヘキモノナシ山形縣 本縣ノ出品ハ點數百二十八人員三十一ニシテ出品中主要ナルモノハ鶴岡ノ散染ト稱スル裾模様友禪山形市ノ朧月緋酒田附近ノ絹布黒紋付染紅絹等トス

就中本縣ノ朧月緋ハ新潟縣ヨリ出品セル同品ニ比スルニ流石ニ技術上一頭地ヲ拔ケルハ疑ヲ容レサル所ナリ然レトモ本品ハ製造上品質ノ統一ヲ圖ルニ困難ナルハ一大缺點トスル所ニシテ其産額ノ著シク増大セサルモ此點ニ職由スルモノナルカ如シ當業者ノ研究ヲ促ス

紅絹ハ色澤ニ於テ稍完全ニシテ産額ノ増進モ承認スルニ足ルト雖モ尙整理方法ノ遠ク高崎産ニ及ハサルハ大ニ研究ヲ要ス

鶴岡町ノ裾模様友禪類ハ所謂受托染ヲ離レ商品的ニ製産セラルルモノニシテ此點ニ就テハ今回本品種ノ出品アル長野新潟ノ二縣ニ比シ遙カニ數歩ノ上ニアリト云フヘシ然レトモ技術進歩ノ程度ハ之ニ添ハサルハ大ニ惜ムヘキコトニシテ當業者ノ奮勵ヲ望ム所以ナリ蓋當地方ハ從來ノ製産状態ヨリ見ルモ地利上ノ關係上ヨリ見ルモ與羽ノ京都ト稱スルモ敢テ過言ニアラス當業者タルモノ此意ヲ體シ益其發

展ヲ計ランコトヲ希望ス

次ニ本縣ノ木綿裏地類ハ染色極メテ不堅牢ニシテ殆ント用途ニ堪ヘサルカ如キモノアリ本種ノ如キハ一般ノ需用品ナルヲ以テ染色佳良ニシテ且製品潤澤ナルニ於テハ多額ノ需用アルヘキモノナルヲ以テ當業者タルモノ染料ノ撰擇染法ノ改善ニ注意シ産額ノ増大ヲ計ルヘシ

群馬縣 本縣ノ出品ハ點數二百二十四人員五十八ニシテ點數ニ於テハ各府縣ヲ通シテ第一位ニアリシハ本縣カ今回ノ主催縣タルニヨルヘシ本縣ノ出品中一般ノ注目ヲ惹キシハ高崎市ノ紅絹裏地及ヒ太織友禪類及桐生ノ交織帶地ノ絞リ染及ヒ捺染等ナルヘシ此他ノ出品ハ黒紋付染及更紗小紋染等ニシテ黒紋付染ヲ除キテハ出品寥寥タリ

紅絹及ヒ花色裏地類ハ近來技術ノ進歩著シク時ニ整理ニ於テ優良ナルモノ少カラス然レトモ出品中色相ノ相一致セサルモノアルハ未タ商品トシテ遺憾ノ點トス加之間々染色不堅牢ニシテ用途ニ堪ヘサルカ如キモノアルハ當業者ノ注意ヲ要ス太織友禪類ハ意匠ニ腐心ノ跡歴然トシテ見ルヘキモノ少ナシトセス價格ノ點ニ就テモ一疋九圓内外ナルカ故ニ毛斯倫友禪ト多ノ逕庭ナシ故ニ益々意匠柄合ヲ改良シ産額ヲ増進セハ現今ノ毛斯倫友禪ト比肩スルニ至ランコト強テ難事ニハアラサルヘシ當業者タルモノ此方面ニ新販路ヲ開カンコトヲ努ムヘン

絞リ染等ノ女帶地ハ栃木縣ヨリモ其出品アリシカ兩者其前回ニ於テハ之ヲ見サリシモノニシテ優良ナ

ルモノアリ兩毛ノ地カ常ニ競フテ新製品ノ製作ニ心ヲ碎ケルハ賞スヘシ唯一時ノ利ヲ思フテ粗製ノ弊ヲ生セサランコトヲ期セヨ

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品				擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等				
東京府	一一六	二二	二	二	二	二	八	〇、三三	〇、三三	
新潟縣	一三五	三三	一	一	一	一	一	〇、三三	〇、三三	
埼玉縣	二二	一						〇、三三	〇、三三	
千葉縣	六六	一						〇、二五	〇、二五	
茨城縣	一六九	三八						〇、二六	〇、二六	
栃木縣	一六	六						〇、三三	〇、三三	
山梨縣	一三一	六五						〇、二六	〇、二六	
長野縣	八七	一〇						〇、三三	〇、三三	
宮城縣	八一	二〇						〇、二六	〇、二六	
福島縣	六四	二〇						〇、二五	〇、二五	
岩手縣	一〇	二						〇、五〇	〇、五〇	
青森縣	二八	三二						〇、二九	〇、二九	
山形縣										

群馬縣	計
二二四	五八
一一九五	三二五
四一	一一二
二九	六
四七	九
九二	一八
〇、二九	〇、三二

第四十五類 編物組物

一出品 本類ニ屬スル出品ノ種類ハ「トローンウオーク」「バテンレース」類羽織紐類莫大小類ニシテ「トローンウオーク」「バテンレース」類ハ神奈川縣其輸出港所在地トシテ本邦工産中重要ナル地位ヲ占ムル外新潟茨城長野等ノ諸縣ニ多少ノ産出ヲ見ルノミ羽織紐類ハ東京府本邦ニ於ケル産地ノ主腦タルカ故ニ産額モ亦從テ多ク其他ハ山形縣ニ稍多クノ製産ヲ見ルノ外殆ト數フルニ足ルモノナシ莫大小類ハ聯合府縣中多少製造ヲ試ムルモノナキニアラサルモ先ツ東京府ニ限ラル、モノト稱スヘシ斯ノ如ク本類ハ工業品中特種ノモノニシテ聯合府縣内ニ洽カラス且産出區域一地方ニ局限セラレ而カモ集團工業組織ヲ有セサルヲ以テ出品甚タ不振ノ狀ニアリ各種共ニ出品府縣ノ產品ヲ代表セルモノトシテ報告スルニ足ラサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ出品ノ審査ニ就テ所見ノ梗概ヲ叙述スレハ左ノ如ク

二トローンウオーク、バテンレース 本品種ノ輸出ハ年ニヨリテ隆替ナキニアラサレトモ近年著シク其額ヲ増加シ漸ク世人ノ注意ヲ喚起シ重要視セラル、ニ至レリ即チ本品ハ其原料ノ多クヲ海外ニ仰クモノナレトモ工作ノ手數甚タ多クシテ賃率トシテ收入セラルヘキモノ製品價格ニ略ホ半シ製作ハ全然婦女子ノ指頭ニ成リ而モ作業極メテ清潔高尚ニシテ各家庭ノ婦人ノ副業トシテ最モ恰適セリ故ニ初メハ

勞銀低廉ヲ唯一ノ資トシテ彼ニ對抗セントセシモノモ今ヤ本邦婦人ノ妙技ニナル手工品ハ彼ノ製品ニ比シ奪フヘカラサル雅趣ヲ有シ米國ノ如キ苛重ナル關稅ノ賦課アルニ拘ラス多大ノ供給ヲ本邦ニ仰カサルヘカラサルノ狀勢ニアリ故ニ曰ク日用品トシテ歐米ニ多大ノ需用アル本品種ハ過去ノ經驗ニ鑑ミ需用地ニ於ケル嗜好ノ變遷ヲ察シ技術ノ運用ニヨリ意匠ノ斬新ヲ期シ益々販路ノ開拓ニ努メハ發展ノ餘地ハ尙且大ナルヘシ然ルニ其製産態ヲ顧レハ甲地盛ナラントシテ乙地衰ヘ彼地起リテ此地亡ヒ興廢常ナク動モスレハ本業ノ前途ニ危懼ノ念ヲ抱カシムルモノアリ之レ畢竟指導者タル主宰者ニ眞意ナク從業者ニ熱誠ナク兩者漸ク相親ミ產出將ニ多カラントスルニ當リ些事ヲ挾テ互ニ確執シテ遂ニ犬猿ノ疎隔ヲ來スニヨラスンハアラス夫レ本業ノ如キ婦女ノ織手ニヨルモノヲ收攬シテ成ル輸出品ハ親切ナル指導經營ヲ俟チ始テ確實ナル向上ヲ期スヘク根ニ培フテ始テ枝葉繁ク枝葉枯衰セハ幹根亦死滅ヲ免レサルノ理ヲ念ヒ兩者和親協力以テ本末併全センコト本業永遠ノ基礎ヲ啓ク唯一ノ畫策ナルヘシト信ス本業ニ從事スルモノ宜シク三省スヘキナリ左ニ各縣ノ出品ニツキ概評スヘシ

神奈川縣 本縣ハ本業ノ中樞ニシテ意匠ノ適否技術ノ精粗一ニ其指顧ニ出ツルモノナレハ本縣ノ出品カ他府縣ノモノニ比シテ頭角ヲ現ハセルハ決シテ偶然ニアラサルナリ殊ニ其意匠ニ於テ海外ノ風潮ニ直接スルカ故ニ斬新ナルモノ多ク製品ノ仕上ニ於テ格段ノ相違アルハ賞スヘシ然リト雖モ本縣カ斯業ノ發展ヲ期スル上ニ一日ノ儉安ヲ忽ニスヘカラサル責務ヲ思ヘハ尙一層ノ努力ヲ要スヘキモノ少カラ

ストセス

茨城縣 本縣ノ出品ハ縣當局ノ保護獎勵ニヨリ急速ナル發達ヲ見ルニ至レリト雖創始日淺クシテ製作ノ技術未タシキモノ多ク勞益相伴ハサル缺點ヲ有スルハ又已ヲ得サル所ナラン宜シク修熟ニ務ムヘキナリ然レトモ本縣産ノクロニールニスハ品質價值佳良ナルヲ認ム眞摯ナル奮勵ヲ續ケナハ將來大ニ有望ナラン

新潟縣 本縣ハバテンレースノ特産地トシテ其製産力他地方ニ冠タリ然レトモ今次ハ單ニ一人ノ出品ノミニテ全般ヲ窺フニ足ラサルカ種類ハ多様ナリシ本縣ハ元來バテンレースヲ特技トシ殊ニ近時同品ノ原料タルバテンブレードノ製造大ニ進ミタルカ故ニ益々其特色ヲ發揮シ専門的ニ此方面ニ力ヲ傾注シ惡競争ノ弊ヲ戒飭シ有終ノ美ヲ收メラレンコトヲ切望ス

長野縣 本縣ノ出品ハ僅少ニシテ製作尙佳ナラス一層ノ奮勵ヲ要ス

三莫大小類 本品種ノ出品ハ聯合府縣中東京府ノミニ限ラレ其點數五十餘點ニシテ襦衣類多キヲ占メタリ

莫大小類ハ元來舶來品ノ模擬ニ出テタルモノナレトモ一タヒ傳播シテヨリ偉大ナル進步ヲナシ殊ニ前後二回ノ戰役ハ急激ナル需用ノ増進ヲ喚起シ其產出力ノ伸張甚シキニ至リ今ヤ内地ノ需用ヲ充足シテ尙且清國英領印度南洋方面ニ輸出スル額決シテ少クニアラス而シテ本品ノ輸出ハ大阪品ヲ主トシ價格

ノ低廉ヲ標榜シツ、アルカ故ニ其品質動モスレハ粗悪ノ弊ヲ免レサルモノアリテ本邦製品ノ非難ヲ耳ニセシコト一再ナラサルニ反シ東京製品ハ輸入防遏ヲ主トシ歐米品ニ拮抗シツ、アリテ品質優良製作上ノ注意周密ナリ此ノ故ニ海外ノ需用地ニ於テ最早ヤ大阪製品ニ飽キ東京製品ヲ歡迎セントスルノ傾アリト云フ然ルニ東京ノ商工業者ハ一般ニ内地ノ賣買ニ慣レテ比較的外國輸出ニ冷淡ナル憾アリ夫レ本品ノ内地需用ハ勿論益々擴大セラルヘキモ産出力ノ尨大ハ時ニ或ハ製産過多ヲ嘆スルノ秋ナキニアラス宜シク多年ノ經驗ト優秀ナル技術トヲ以テ海外輸出ニ應用シ販路上ニ一新生面ヲ啓キ國利ノ増進ト將來ノ發展トヲ期スルハ一ニ營業ノ勇氣ニ俟テ成功ヲ得ヘキナリ

今次ノ出品ヲ見ルニ點數ニ於テ多カラスト雖其品質稍見ルヘキモノアリ是レ編組ニ動力ヲ利用シ裁縫ニ嶄新ナル機械力ヲ應用セルコト多キヲ加ヘタルト原絲選擇使用等益々精緻ヲ致セルニ因由スヘシ然レトモ往々ニシテ裁縫殊ニ釦穴ノ「カバリ」未タ親切ナラサルモノアルヲ見ル或ハ機械ノ操作ニ熟練セサルノ結果ナルヘキ本會ノ出品ニシテ尙且然リトセハ平素ノ市販品ニ對シテハ蓋シ寒心ニ堪ヘサルモノアラン營業者ノ一顧ヲ乞ハントスル所ナリ沓下ハ歐米品ニ比等スヘキモノアルモ綴合部不充分ニシテ綻ヒ易キモノアリ編物ハ一縷ノ切斷モ忽ニスヘカラサルモノナレハ一段ノ修練ト細心ナル監査ヲ怠ルヘカラス此他手袋帽子等ノ出品アリシモ特ニ記スヘキモノナシ

四組紐類 本品種ノ出品ハ東京府ノ羽織紐ヲ最トシ山形縣ノ羽織紐之ニ亞キ群馬縣ノ羽織紐栃木縣ノ

絹絲總ハ僅カニ數點ニ過キス

羽織紐ハ男子用籠打紐大部分ヲ占メ女子用ノモノ又ハ丸打紐ハ其數甚タ少ク品質優良ナルモノ稀少ナリ出品中東京産ハ本場ノ品ナル丈ケ其品質特ニ良好ナルモノ多キヲ認ム殊ニ其原料ニ人造絹絲ヲ應用セルモノ、如キハ巧ニ其特長ヲ利用シ反テ純絹品ニ優レルノ感アリ人造絹絲ノ用途トシテ其所ヲ得セシメタルモノ營業者ノ手腕ヲ多トスルニ足ル山形縣産ハ米澤商會ノ製ニ係ルモノニシテ同商會カ多年其經營ニ努力セル効果ヲ發揮シ優良ナルヲ見ル其他ノ出品ハ多ク云フヲ要セサルモノトス

左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品				擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計			
東京府	一二四	二九	一	三	五	四	一三	〇、四四		
神奈川縣	七六	一七				二	四	〇、五七		
新潟縣	四一	一			一		一	一、〇〇		
茨城縣	一四	八				二	三	〇、三七		
栃木縣	一	一					一	一、〇〇		
長野縣	二	一					一	一、〇〇		
山形縣	一六	二					一	〇、五〇		
群馬縣	七	一		四	九	一	一五	一、〇〇		
計	二八一	五〇	一	四	九	一	二五	〇、五〇		

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會染織工業調査報告

第四十六類 染織工業用機械器具

本類ノ出品ハ點數百十九人員二十七其種類ハ箆類多ク他ニ綜統杼紋織機械メリヤス針等アリ各府縣共ニ技術ハ多少進歩ヲ認ムヘキモ別ニ斬新ナルモノナシ合資會社桐生製作所ノ製造ニカ、ル箆類ニ稍優良ナルモノヲ見ル出品ノ狀態以上ノ如クナルヲ以テ別ニ評スヘキ點ナシ左ニ本類ノ出品點數人員及擬賞表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	二二	三					一	〇、三三
新潟縣	一一	一						〇、五〇
福島縣	七二	一						一、〇〇
山形縣	三三	一						〇、五七
群馬縣	六四	一						〇、四六
計	一一九	二七	四	一	一	一	一三	〇、四八

清酒、葡萄酒、林檎酒審査報告

審査官 東京 高等工業學校教授 奥村順四郎
同 東京帝國大學農科大學助教授農學博士 高橋 偵 造
其一 清酒

清酒ノ出品點數ハ八百八十八點此出品人員六百九十八名ニシテ本共進會ニ於テハ出品清酒ノ採收ニハ稅務吏員ノ立合ヲ要スル規約ヲ聯合府縣委員會ニテ決議シタルモノナルカ故ニ稅務吏員立合ヒタル確證ナキモノハ斷シテ之カ審査ヲ行ハス而シテ確證ナキ爲審査ヲ受クルコト能ハサリシモノ、各府縣別數ハ左ノ如シ

點數	人員	東京	神奈川	新潟	茨城	栃木	長野	福島	岩手	山形	合計
二	三	一	二	六	八	五	五	一	二	一	二
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
四	七	四	七	四	七	四	七	四	七	四	七

即チ出品總數八百八十八點中五十六點ノ多キニ達シ殊ニ甚タシキハ福島縣ノ如キ西白河及石城二郡ノ出品殆ント全部稅務吏員ノ立合採收ヲナサ、リシモノアリ又右ノ點數中組合長等ノ榮職ニアル出品者並ニ會社組織ノ營業者ニシテ他ノ模範タル可キモノ、尙立合官吏ノ證明ナキモノアリ此ノ如キハ當局

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會清酒葡萄酒林檎酒審査報告

者及出品者ノ不注意ヨリ來レルモノニテ爾後諸府縣共ニ規約ヲ重シシ審査上無益ノ煩勞ナカラシムル
 様注意センコトヲ希望スルノミナラス出品者モ亦稅務吏員ノ立合證明ヲ得ルハ即チ自己出品ノ正確ナ
 ル保證スルモノナレハ自カラ進ンテ此手續ヲナス様心掛クルコト蓋シ緊要ナルヘシ然ラサレハ自カラ
 不利ヲ招キ審査ヲ受クルコト能ハサルノ不幸ヲ見ルニ至ラン而シテ右五十六點ハ全ク審査ニ洩レタル
 モノニシテ擬賞ヲナスノ自由ヲ有セザリシハ審査官等ニ於テモ遺憾トスルトコロナリ
 審査ノ方法ハ啤酒法ニ依リ色澤、香氣、風味ノ三點ニ付キテ精査評點ヲ附シ又化學的分析ニ依リ其品
 質ヲ判別スル爲精酒中ノ「アミノ」酸量ヲ檢定シテ前記啤酒的調査ト比較對照シ正確ナル結果ヲ得之レ
 ニ出品人ヨリ提出セル解説書及其他ノ資料ニ基キ産額販路製造方法價格業況功績等ヲ調査シテ等級ヲ
 定メ百七十八點ヲ得テ之レニ賞ヲ擬シタリ其府縣別擬賞數ハ左表ノ如シ

第四十八類 清酒擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
東京府	三	二						一三、五	
神奈川縣	四二	三七						三二、五	
新潟縣	五七	四〇						二〇、〇	
埼玉縣	五一	五〇						二五、〇	

府縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
千葉縣	二六	二四						二五、〇	
茨城縣	四〇	三三						二七、三	
栃木縣	六九	五五						一八、一	
山梨縣	三六	二二						二六、〇	
長野縣	六六	五八						二七、五	
宮城縣	五八	四一						三一、七	
福島縣	一〇九	九〇						二〇、〇	
岩手縣	四九	三八						二一、〇	
青森縣	五〇	三五						二八、五	
山形縣	一五七	九七						三七、一	
群馬縣	七五	七五						二四、〇	
計	八八八	六九八	三	一八	四二	一一五	一七八	二五、五	

清酒出品ノ最多ナルハ山形縣ニシテ福島、群馬、栃木、長野ノ諸縣之レニ次キ其他府縣ノ出品少ナカ
 リシハ聯合府縣皆水害ヲ蒙リタル爲ニモ係ルナランモ今回ノ聯合府縣ノ多クハ造石高甚タ小ニシテ新
 潟、長野、福島、茨城、山形、埼玉、栃木諸縣ノ外ハ皆七萬石ニ滿タスシテ神奈川縣ノ産額ハ灘二三酒造
 家ノ造石高ノ和ニ比スヘキ小ナルモノナレハ隨ツテ其出品少ナク而シテ關東地ニ於テハ個人トシテ
 ハ二千石乃至三千石ヲ製造スルモノヲ大トシ二百石乃至三百石ノ小酒造家多數ヲ占ムルハ酒造改良上

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會清酒補酒林檎酒審査報告

注意スヘキ事項ナリトス思フニ關東北ノ地ハ其交通不便ニ運輸困難ナル時代ニアリテハ各村落ニ小酒造家ノ存在ヲ必要トナシタレトモ漸次交通機關ノ完備スルニ從ヒ他ヨリ酒類ノ輸入増加シ來リ遂ニ小酒造家ノ存立ヲ危フスルニ至リ廢業ノ止ムナキニ及ヘルモノアルハ事實ニ徴シテ明カナレハ各自酒造家此點ニ留意シ益酒質ノ改善ヲ圖リ其業務ヲ擴張シ以ツテ自衛ノ策ヲナサ、ルヘカラス殊ニ東北ノ地ハ酒造ヲ行フニ必要條件タル氣候ノ寒冷ナルハ關西地方ト異ニシテ頗ル有利ナル地位ニ在スルカ故ニ此點ニ於テモ東北酒造業ノ有望ナル蓋シ大ナリト云フヘシ

審査ノ成績ニ依レハ品質ノ佳良ナルモノ多キハ山形縣ニシテ同縣ノ産業カ顯著ナル發達ヲナシタレハ今回出品ノ全部ニ就キテ見ルモ明ナルコトニシテ清酒ニ於テモ一段ノ進歩ヲ示シ釀造方法ノ改良セラレ學理應用ノ重シスルニ至レルハ欣フヘク殊ニ大山町ノ如キ近來大ニ改新ヲ加ヘ其成績ノ見ルヘキモノアルハ當業者ノ自覺ニ依ルモノニテ大山酒ノ名聲モ次第ニ恢復セラレ、ニ至ルハ余輩ノ信シテ疑ハサルトコロナリ當業者今後益奮勵酒質ノ改良ヲ圖リ優良酒ノ釀出ニ努メンコトヲ期スヘシ
山形縣ニ次キ授賞歩合ノ多キハ新潟縣ナリ其産額モ多大ニ又釀造改良熱心家アリテ其釀造酒モ漸次改良セラレタリト雖トモ未タ最優等ノ地位ニ達セサルハ遺憾ナリトス今後業務ノ擴張ト共ニ其品質ノ改良ニ怠ルナク次回ニ於テハ優等品多數出陳セラル、ニ至ランコトヲ望ム
宮城縣ハ近來稅務當局並ニ縣ノ獎勵ニ依リ其清酒ノ品質ハ改良セラレタレトモ未タ優等酒ヲ出スニ至

ラス酒造家宜シク自省奮勵スヘキナリ

青森縣ハ擬賞表ニ示ス如ク其授賞數ハ第四位ニアリ其酒質ノ改善著大ナル其比ヲ見ス從來青森縣ノ酒ハ色澤濃厚ニシテ一見之レカ生産地ヲ推知スルニ難カラサリシモ今回ノ出品ハ色澤良好ニ風味亦佳ニシテ一段ノ進歩ヲ示セルハ欣フヘキ現象ナルノミナラス其地方生活程度ノ向上セルヲ知ルニ足ルヘシ自今一層醇酒ノ釀造ニ熱心シ東北ニ於ケル一名産地トナルニ至ランコトヲ心掛ク可シ

長野縣ハ其産額多キニ關セス酒質ノ改良ハ遲々トシテ振ハサリシカ近年漸ク改良ニ志セル結果カ本共進會ノ成績ニ顯ハレタルハ欣フ可キモ業況品質共ニ未タ以ツテ覇ヲ天下ニ稱フルニ至ラス宜シク酒造ニ關スル講習ヲ行ヒ實地釀造ニ學理應用ノ道ヲ講シ益改良ヲ企圖スヘシ

茨城縣ノ酒造ハ概シテ進歩シタリト雖モ其良好ナルモノハ二三ニ止マリ他ハ未タ優等酒ヲ以ツテ擬スヘキニアラス將來改良ノ余地多シトス

千葉縣ハ近來酒造改良ニ縣當局者ノ獎勵アリ酒造講習會ヲ開キ巡回教師ヲ置ク等大ニ改善ノ實ヲ舉ゲ得タリト雖トモ全般ニ優良酒ヲ出ス酒造家ノ多カラサルハ遺憾ナリ益奮勵ヲ望ム

埼玉縣ニハ酒造改良ニ熱心ナルモノ並ニ酒造家ニシテ釀造ノ學理ニ精通スルモノ多キニ關セス醇良酒ヲ出ササルハ或ハ原料ノ撰擇並ニ釀造法ニ尙缺クルトコロアルニ依ラスンハアラス此縣ノ如キ東京ニ近キ場所ニ於テハ酒質ニシテ醇美ナランニハ販路ヲ求ムルハ蓋シ容易ナルヘキヲ以ツテ益々酒質ノ改

群馬縣並一府十四縣聯合共進會清酒葡萄酒林檎酒審査報告

善ニ努メ販路ノ擴張ヲナスコト緊要ナラン

山梨、岩手、栃木、神奈川ノ諸縣ニハ佳良品少ナク他府縣ニ比シ遜色アリ今後酒質ノ改善ヲ圖リ次回共進會ニ於テハ優等賞受領ノ榮ニ浴センコトヲ心掛ケサルヘカラス

福島縣ノ受賞數少ナキハ前ニ述ヘタル如ク出品點數百〇九點中審査ニ洩レタルモノ實ニ二十三點ニシテ差引八十五點人員六十七名ニ對スル損賞數ナルモコレヲ總出品人員九十名ニテ除シタルカ擬賞歩合ノ減少ヲ來シタルモノナリ然レトモ同縣ノ清酒ハ近來益改良セラレ良好ナル成績ヲ示シ居レリ只遺憾ナルハ一般ニ規模小ニシテ業況依然タルモノアルコトコレナリ若松市ノ如キ將來一層奮勵發展ノ道ヲ講センコトヲ望ム

群馬縣ノ出品ニハ佳良品比較的多ク進步ノ跡アルヲ認ムト雖トモ此縣ノ酒造家モ規模小ニ縣產額亦大ナラス供給ヲ輸入ニ仰クコト多シ本縣酒造業ノ前途大ニ憂フヘキナリ今後一層奮勵酒釀出ニ努ムルト共ニ其產額ヲ増大ニシ輸入酒ヲ壓スルニ至ランコトヲ希望ス

其二 葡萄酒、林檎酒

葡萄酒及林檎酒ノ出品ハ東京、山梨、岩手、青森、群馬ノ一府四縣ノミニシテ其點數ハ僅カニ二十四點其出品人員十二名ニ過キス而シテ其出品ノ多數ナルハ山梨縣ナリトス

今縣別擬賞表ヲ示セハ次ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級		計	出品人員ニ對スル擬賞割合
			三等	四等		
東京府	一	一				
山梨縣	二	五		二	三	六〇、〇
岩手縣	三	二		二	二	一〇〇、〇
青森縣	三	三		四	五	
群馬縣	五	一		四	五	
計	二四	一二	一	四	五	四一、六

上表ノ如ク葡萄酒及林檎酒ハ出品點數少ナキノミナラス其產額僅少ニシテ他釀造品ト比スヘキニアラスト雖トモ其品質ハ漸次改良セラレテ二三良好ナルモノアルヲ見ルニ至レルハ釀造技術ノ進步トシテ欣フヘキ現象ナリ而シテ洋酒類ノ輸入ハ近年次第ニ増加シ就中葡萄酒ノ如キハ飲用者ノ増加ト共ニ輸入亦多シ故ニ葡萄酒ノ釀造ハ我國ニ於テモ農家ノ副業トシテ農産製造上研究スヘキ一問題ナリトス葡萄酒ノ品質ハ其原料タル葡萄果實ノ品質如何ニ依ルモノニシテ果實ハ亦其種類ニ依リ同シカラス山梨縣ハ葡萄ヲ以ツテ著名ニシテ食用ニ又釀造ニ供セラレ產額ノ多大ナルハ人ノ知ルトコロナルモ其釀造セル葡萄酒ノ醇美ナルモノト稱セラレル品ニテモ未タ香氣及風味ニ缺クルアルハ蓋シ其葡萄樹種ノ選擇栽培宜シキヲ得ス且其釀造法ニ缺クルモノアルニ依ルナランカ余輩ハ大ニ果實酒釀造ヲ獎勵シ産

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會清酒葡萄酒林檎酒審査報告

額ノ増加ヲ欲スルモノナレハ當業者モ宜シク葡萄種類ノ撰擇栽培ニ注意スルト同時ニ將來益醸造法ヲ研究シ醸成品ノ貯藏手入等ヲ怠ルコトナク良酒ヲ醸出スルニ努メ輸入酒ヲ壓スルニ至ランコトヲ望ム

醬油及味噌審査報告

審査官 東京高等工業學校教授 奥村順四郎
 同 東京帝國大學農科大學助教授農學博士 高橋 偵造
 其一 醬油

醬油ノ出品點數ハ四百十五點此出品人員三百四十五名ナリ而シテ出品點數ノ多キハ茨城、長野、福島、山形、群馬ノ五縣ニシテ其最モ少ナキハ東京府ナリトス
 審査ノ方法ハ色澤、香氣、風味ノ三點ニ付キテ精査評點ヲ附シ尙審査ニ際シテ試品ヲ十二倍ニ稀釋シテ品質判定ノ用ニ供セリ且ツ出品人ヨリ提出セル解説書及ヒ其他ノ方法ニ依リ製造高業況販路功績等ヲ調査シ百〇八點ヲ得テ之レニ賞ヲ擬シタリ其府縣別授賞數ハ左表ニ示ス如シ

第四十九類 醬油擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	一人	員	一等	二等	三等	四等	計	

府縣名	點數	一人	員	一等	二等	三等	四等	計	出品人員ニ對スル擬賞割合
東京府	一六	一	一					一	五〇、〇
神奈川縣	一一	一	一					一	五〇、〇
新潟縣	一一	一	一					一	五〇、〇
埼玉縣	二二	一	一					二	二六、三
千葉縣	二五	一	一					二	二六、三
茨城縣	五二	一	一					四	三〇、〇
栃木縣	二二	一	一					二	二〇、〇
山梨縣	一三	一	一					一	二一、二
長野縣	五一	一	一					四	二八、五
岐阜縣	一三	一	一					一	二一、二
長野縣	五二	一	一					三	二八、五
宮城縣	二八	一	一					二	二四、三
福島縣	五二	一	一					三	二四、三
岩手縣	一九	一	一					一	二五、〇
青森縣	二〇	一	一					一	二五、〇
山形縣	四五	一	一					六	三七、五
群馬縣	三九	一	一					四	二八、五
計	四一五	三	三	五	一	二	六	一〇八	三一、三

出品中審査ニ先タチ「カビ」ノ生シタルモノアリシハ出品者不注意ノ致ストコロニシテ此等ハ既ニ此點ニ於テ審査ヲ受クルノ資格ヲ缺キタルモノト云フヘシ出品者爾今此等ノ點ニ用意周到ナランコトヲ望ム

醬油ハ其品質ニ於テ著大ナル進步ヲ示シタリ而シテ其品質製造高業況等共ニ千葉縣ヲ以ツテ最優等トシ他府縣ノ之レニ比スヘキナク千葉縣ハ實ニ主產地タルノ名ニ愧チス同縣野田銚子ニアリテハ勞費節約ノ目的ヲ以ツテ器械類ノ應用盛ナルニ至リ漸次工場組織トナラントスルニ至レルハ欣フヘシ將來益發展ヲ望ム其ノ他ノ諸縣ニ至リテハ未タ一地方ノ需用ヲ目的トシテ製造スルモノ多キハ遺憾ナリ左ニ縣別概評ヲ試ミンニ宮城縣ノ如キ一、二品質良好産額亦大ナル醸造家ナキニアラスト雖トモ其醬油ハ一種特有ノ香氣アルハ其製造方法ニ依ルナランモ宜シク其原料ノ選擇ヲ行ヒ大豆ノ蒸煮小麥ノ炒熬製麴等ニ注意シ優良ナル醸品ヲ得ルニ努ムヘシ

山形、福島兩縣ノ醬油ハコレヲ前同ニ比シ進步ノ程度著大ナラス一層奮勵ヲ要ス

茨城縣ノ出品ハ其品質良好ナルモノアリシハ欣フヘシト雖トモ其産額ハ千葉縣醸造家ノ比ニアラス此縣ニ於テハ大豆ノ産額多ク品質亦優良ナルモノアレハ醬油醸造原料ヲ他ニ求ムルノ煩ナシ宜シク益品質ヲ改良シ實質産額共ニ隣縣千葉ノ右ニ出ツルニ至ランコトヲ望ム

群馬、長野兩縣ノ出品ニモ亦品質良好ナルモノアリ其進步ノ跡ヲ見ルト雖トモ野田及銚子ノ醬油ニ輸入ヲ仰クモノアルハ蓋シ良好ナル品モ産額小ニシテ需用ヲ充タスニ足ラサルニ依ルヘシ將來益々原料ヲ精選シ製造法ヲ改良シ器械ヲ應用シテ勞費ヲ節約シ良品ヲ廉價ニ販賣シ輸入ヲ防キ以ツテ縣下ノ需用ニ應スルニ至ラシメンコトヲ望ム

其他岩手、青森、山梨、栃木、埼玉、神奈川、東京ノ諸府縣ニ至リテハ佳良品ナキニアラスト雖トモ出品點數少ナク全般ニ進步如何ヲ知ルニ困ム就中栃木縣ニハ優良ナル出品アリ埼玉縣ニハ産額ノ稍大ナルモノアルモ未タ優賞ヲ擬スルノ資格ナカリシハ遺憾ナリ

元來醬油ノ如キ嗜好品ハ其土地ノ需用ヲ重シ其需用ヲ充タスヲ以テ目的トセハ足レルカ如キモ然カモ生活ノ程度ハ我國運ノ發展ト共ニ昂上シ嗜好變遷ノ著大ナルモノアルハ多言ヲ要セザルトコロニシテ運輸交通機關ノ發達ハ次第ニ都鄙人士ヲ互ニ接觸セシムルノ機會ヲ多カラシムルニ依リ飲食物ノ嗜好モ全國漸ク一致スルニ至レリ今ヤ野田銚子産ノ醬油ハ獨リ京京市ノ需用ニ止マラス全國至ル所ニ搬出セラレテ其需用ヲ廣メツツアルノ事實ニ徴シ同一風味ノ良品ヲ醸出スルニアラサレハ各地ノ醬油ノ需用ハ次第ニ蠶食セララルルニ至ルヘシ醬油醸造家宜シク此等ノ諸點ニ鑑ミ單ニ一地方ノ需用ニ應スルニ止マラス一般ニ歡迎セララルル良品ヲ醸出スルニ工夫ヲ凝ラサンコトヲ要ス

又近年醬油ハ外國人ノ嗜好ニ適スルモノアリ爲メニ海外輸出漸ク多カレントスルハ輸出貿易上著眼スヘキ事項ナリ醸造家亦益海外ニ販路ヲ擴張スルニ努ムヘキナリ

其二 味噌

味噌ノ出品點數ハ百十二點此出品人員百〇七名ナリ其出品最多ナルハ宮城縣ニシテ之レニ次クハ長野、群馬、青森、山形ノ諸縣ナリトス

審査ノ方法ハ香氣色澤ニ依リテ鑑別シ又必要ニ應シ水ト混合シテ其香味ヲ審査シ且ツ出品人ヨリ提出セル解説書ニ依リ業況販路産額等ヲ精査シ佳良ナリト認ムルモノ總計二十五點ヲ得テ之レニ賞ヲ擬シタリ之レカ府縣別授賞數ハ別表ノ如シ

第四十九類 味噌擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等				
東京府	三	一							三	
神奈川縣	一	二							一	
新潟縣	二	二							二	
埼玉縣	二	二							二	
千葉縣	六	二							六	
茨城縣	二	二							二	
栃木縣	六	二							六	
山梨縣	一	五							一	
長野縣	一	九							一	
宮城縣	一	一							一	
福島縣	一	一							一	
岩手縣	一	一							一	
計	二〇	二〇	二	一	四	三	一	六	二〇	〇

青森縣	一	一							一	
山形縣	一	三							一	
群馬縣	一	四							一	
計	一	一〇	四	一	二	二	四	四	二	五

審査ニ先タチ既ニ微ノ生シタルモノ並ニ變色セルモノアリ福島縣ノ出品ノ如キ其容器全部ニ微ヲ生シ一見審査ニ附スルノ價値ナキカ如クナリシハ甚ハタ遺憾ナリ先キニ東京博覽會審査報告中ニモ味噌ノ出品ニハ容器ヲ選ヒ變色並ニ微ノ發生セサル様注意スヘキヲ以テシタリ此種ノ出品ハ外觀ニ依リ香味如何ヲ聯想セシメ易キモノナレハ假令其味佳良ナリトスルモ微ノ生セルモノハ商品トシテノ價値ナキモノナリト知ルヘシ

味噌ハ其品質ニ於テ顯著ナル改良ノ跡ヲ見スコレ其地方的嗜好ヲ主トスルニ依ルモノナルヘシ然レトモ前述ノ如ク嗜好ノ變化ハ清酒及醬油ニ於ケルト同シク地方産業ノ發達ト共ニ向上シ來レルカ故ニ各自祖先以來ノ舊法ニ依ルコトナク製造法ヲ改良シ美味ナルモノノ産出ニ努ムヘシ特ニ味噌ハ本邦ニテハ日常缺クヘカラサル副食物ノ一ニシテ米ト味噌トニ依リ吾人ノ活力ヲ維持シ得ル如キ貴重ナルモノナレハ其品質ノ良否ハ大ニ食慾ヲ充タス上ニ影響アルノミナラス又炭山鑛山製糸紡績業等多數ノ人夫職工ヲ使役スル所ニ於テハ其副食物ノ美味ナルト否トハ其勞働ノ結果ニ差異ヲ來スモノナレハ此種ノ

工場及労働者ヲ得意トスル味噌製造家ハ同一原料ヲ使用スルトシテモ其製造法ヲ改良シ製麴及醱酵ニ留意シ少シニテモ美味ナルヲ製スルニ努ムヘシ又味噌ハ自家用トシテ製造セラルルモノ尙多シト雖トモ生活程度ノ昂上上共ニ各地方皆之レヲ自家製造センヨリハ寧ろ購買スルノ便ニシテ且ツ新鮮美味ヲ得ルノ利ヲ知ルニ及ヒタレハ味噌製造業ノ状況モ漸次擴張發展スルニ至レリ此時ニ際シ當業者一層勉勵良品ヲ製シテ需用者ヲ満足セシムルト同時ニ其業ノ繁榮ヲ計ラサルヘカラス

植物油審査報告

審査官 工業試験所技手 芝崎 惣吉

第五十類植物油ノ出品ハ岩手縣ノ十點八人ヲ最多トシ順次長野、青森、神奈川、宮城、山形、福島、栃木、新潟、千葉及群馬ノ十一縣ニ涉リ群馬縣ノ一點一人ヲ最モ少シトス出品人員三十九名其點數六十一點ナリ

今出品ノ種別點數ヲ掲クレハ左ノ如シ

府縣	品種	點數
新 神 新 潟 奈 潟 縣 川 縣 縣	菜種油	一一
	荳油	一一
	白絞油	一一
	胡麻油	一一
	椿油	一一
	生落花生油	一一
	菜油	一一
	薄荷油	一一
	計	四七

府縣	品種	點數
長 千 栃 福 宮 山 岩 青 群 野 葉 木 島 城 形 手 森 馬 縣 縣 縣 縣 縣 縣 縣 縣 縣 計	菜種油	二七
	荳油	一一
	白絞油	一一
	胡麻油	一一
	椿油	一一
	生落花生油	一一
	菜油	一一
	薄荷油	一一
	計	六二

審査ノ方法ハ先ツ其色澤、臭味、清濁及浮遊物沈滓ノ有無等外觀上ノ検査ヲ行ヒ更ニ化學的試験ヲ施シテ品質ノ良否ヲ鑑別シ尙ホ不良ト認ムヘキモノニ對シテハ偽和物ノ有無ヲ驗シ更ニ出品者ノ經歷、産額、販路、價格、製造方法、學術ノ應用發明并ニ功勞等ノ如何ヲ考慮評點シテ審査セリ

第五十類 植物油擬賞一覽表

府縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
東京府									
群馬縣									

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會植物油審査報告

計	神奈川縣	新玉縣	埼葉縣	千城縣	茨木縣	枳梨縣	山野縣	長宮縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	群馬縣
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	〇	四	五	九	四	三	四	七					
三	九	一	二	五	八	四	二	七	三	三	二	二	
三													
七													
一	〇	一	一										
二、五六		五、〇〇	二、〇〇						五、〇〇	四、二八	六、六六		二、〇〇〇

五百二十四

今各油類ニ就キ概評ヲ試ムレハ

今回出品ノ油類中最モ多キハ菜種油ニシテ之ニ次クハ荏油ナリ共ニ聯合府縣内ニ於テ最モ多量ノ産額ヲ有スルモノニシテ洋式機械ヲ使用シ盛ニ之レカ製造ヲ行ヘル知名ノ製油家少ナカラス從テ製油上ノ

改良漸次行ハレタルノ結果トシテ油質自ラ改良セラレ品位亦殆ント一定シ來リタルハ喜フヘシト雖地
方邊陲ノ製油家ニアリテハ今尙舊式裝置ニ依リ搾油ヲ行ヘルモノ多ク爲ニ甚タシキ臭氣ト潤濁ヲ生セ
ルモノアリシハ最モ注意ヲ要スヘキ點トス價格ハ菜種油ニ於テハ比較的低廉ニシテ且ツ一定シ居レト
モ荏油ニアリテハ稍々不定ノ傾向アリ該油主要産地トシテハ特ニ留意スヘキコトトス
白絞油ハ色澤、臭味共ニ良好ニシテ品質亦不良ト稱スヘキニ非ラス精製ノ効果見ルヘキモノアリ
胡麻油ハ香味佳良品質亦稍々賞スルニ足ル
椿油及落花生油ハ何レモ潤濁沈滓ヲ呈シ殊ニ椿油ニアリテハ多量ノ遊離酸ヲ含有シ搾油操作及精製ノ
不完全ナルヲ認識セサルヲ得ス

テレピン油、薄荷油及薄荷腦ハ何レモ品質佳良賞揚スヘク殊ニ薄荷ハ其ノ販路ノ漸次擴張セラレ海外
輸出又逐年盛大ナラントスルノ傾向アリ製造ノ方法ニ注意スルト共ニ價格ノ低廉ヲ計ルヘク一層ノ奮
勵ヲ希望セサルヲ得ス

之ヲ要スルニ製油ノ品質ハ機械ノ利用ト共ニ一定シ改善セラレハキヲ以テ原料ノ撰擇及其價格ノ低下
ト製油固有ノ性状ヲ傷害セサル様完全ナル精製ニ意ヲ用ヒ品質ノ上一層ノ改良ヲ加フルコト當業者
ノ急務ナリト信ス

次ニ出品陳列法ニ就テハ從來屢々警告ヲ加ヘラレタル所ナルニ關セス今尙確詰或ハ鐵着ノ儘陳列セル

モノアリ又小ナル容器ヲ用ヒ他類ノ出品物ノ間ニ雜然トシテ配置シタルナト出陳ノ目的ヲ没却シタリト云ハサルヲ得ス將來宜シク一層ノ注意ヲ加ヘ又或程度ノ裝飾ヲ施シ以テ觀者ヲシテ直ニ其出品ノ存在ヲ知ラシメ彼此其性狀ヲ相比較シ其優劣ヲ見ルヲ得シムヘキナリ

最後ニ價格ノ表示法ニ就テ一言センニ一升或ハ一合ノ代價ヲ記シタルハ佳ナレト容器代及ヒ其内容ノ幾何ナルヤヲ判シ難キモノニ就テ單ニ容器共幾何或ハ容器拔キ幾何トシテ表ハシタルハ其價格ノ何程ナルヤヲ直ニ判知シ難ク觀者ノ不便ハ勿論出品者ニ於テモ得策ナリト云フヲ得ス此等ノ諸點ニ就テハ後來當局者并ニ出品者ノ特ニ注意アラントヲ望ム

菓子審査報告

審査官 農商務技師 柁 川 温

本類ノ出品總點數ハ千二百二十點ニシテ出品人員ハ四百七十九人ニ達セリ出品區域ハ一府十四縣ニ及ヒ今回ノ聯合ハ奥羽關東聯合ニシテ四十一年福島縣ニ開設セシ第六回奥羽聯合共進會同シク長野縣ニ開設セシ關東一府十縣ノ聯合共進會ノ出品點數及出品人員ヲ通算スレハ福島縣ニ於テハ出品點數八百三十四點人員二百七十六人長野縣ニ於テハ出品點數千四百四十四點人員三百八十一人ニシテ之ヲ合計スレハ出品總點數千八百七十八點總人員六百五十七人トナル之ヲ今回ノ出品點數及其人員ニ比スレハ數ニ於テハ一籌ヲ輸スルモ出品ノ種類製品ノ品位ニ至テハ前回ニ比シ進歩ノ跡ヲ認ム種類ニ於テ

前回ト異ナルトコロハ「カステーラ」及固有製羊羹水飴類ノ出品カ比較的多數ナルノミナラス製品ノ品位ニ於テモ亦進歩セシトコロアリ本會ノ聯合縣内ハ果物應用ノ菓子類ノ出品常ニ多キハ殊ニ注目スヘキトコロナリ應用セシ果物ノ種類ハ林檎、杏、葡萄、胡桃、栗、梅最モ多ク之ニ次テ柚、梨、椪糖、花林等トス是等ハ聯合府縣内ノ特產果物ニシテ產出最モ多ク價格モ比較的低廉ナルヲ以テ當業者モ新意匠ヲ出シ時好ニ投セントシテ自然果物應用ノ考案ヲ起セシニ依ルモノナリ固ヨリ果物ヲ菓子類ニ利用スルハ大ニ奨励スヘキ事柄ナルモ從來ノ果物利用ノ製品ハ果物配伍ノ適量ヲ得サルカ爲メ酸味強ク爲メニ菓子ノ本領ヲ失ハントスル者アリ或ハ貯藏中醱酵ヲ起シテ變味シ殆ント箸ニ掛ラサルニ至ルアリ是等ハ配伍ノ過量ナルト一ハ果物ノ種類ト菓子原料トノ不調和ニ依ルモノ多シ然ルニ本會ノ出品ヲ見ルニ果物利用ノ菓子類カ例ニ依テ多數ナルニモ拘ハラズ從來ノ如キ常軌ヲ逸セシ製品ヲ見サルハ毎

次此缺點ニ向ツテ戒箴ヲ加ヘシ結果當業者モ一般ノ嗜好上又大ニ注意セシモノナラン今回ノ製品ニ依テ將來ヲ推測スレハ果物利用ノ製品モ製造ノ熟練ト共ニ需要モ亦増加スヘキヲ信ス又「カステーラ」ノ出品ノ多數ナルト其製品カ長崎式ニ依ルモノ頗ル多キハ「カステーラ」ノ嗜好カ漸ク變化セントスルヲ知ル關東奥羽地方ハ東京式ノ菓孔ノ緻密ニシテ上部膨起シ外部ノ色ハ雉色ニシテ淡泊ナルモノヲ常トセシカ今日長崎式ノ濃厚ナルモノヲ好ムニ至リシモノナラン乎「カステーラ」嗜好ノ大勢カ長崎式ニ傾フキツ、アルヲ知ルニ足ル又固有製煉羊羹ノ如キ近頃安物ヲ望ムノ結果ハ製品モ粗惡ニ流レ味保存ノ

如何ヲ願ミス只々容積ヲ大ニシテ外觀ヲ飾ランカ爲煉詰不充分ニシテ水分多キヲ以テ忽チ微ヲ生スル者アリ或ハ澱粉類又ハ「ゼラチン」ヲ混和シテ只容量ヲ大ニセントシテ實質ノ如何ヲ願ミサルモノアリ是等ノ製品ハ其質只堅クシテ粘氣ナク恰モ蒸羊羹ノ如ク眞ニ固有煉羊羹ノ性質ヲ失ハントスルモノアリシカ今同ノ出品ヲ見レハ是等異様ノ出品少ナク概シテ進歩ノ微アリ押物即チ落雁類ノ出品ハ比較的少シ押物ハ菓子ノ種類中ニテモ稍時代ニ晚レテ需要モ減少スルノ傾フキアリ然レトモ日本固有ノ菓子トシテ味ノ如何ニ拘ハラヌ宴席ノ飾菓トシテハ品格ノ清雅ナルヲ愛シテ需要ヲ保チシモ時運ノ進化ニ伴ヒ斯ル無趣味單調ノモノハ自ラ好マサルニ至ル勢ヒ止ラ得サルモノナリ今日押物ノ製造トシテハ原料ヲ精選スルト同時ニ良好ナル模型ヲ用ヒテ形容ヲ益々優美ナラシメテ世ノ需要ヲ維持スルニアリ燒物即チ煎餅「ビスケット」類ノ出品モ比較的少シ此聯合府縣内ニハ從來東京市ヲ除キテハ概シテ此種ノ製品少シ然レトモ近來需要ノ大勢ニ從ヒ燒物モ稍増加セリ此回ノ出品ヲ見ルニ燒物トシテハ東洋製菓株式會社ノ出品ヲ除ケハ概シテ良品ト認ムルモノナシ

西洋風ノ菓子ハ出品少ナク是又森永太郎ノ出品ヲ除ケハ良品ト認ムルモノナシ一時燒物トシテハ「ビスケット」又ハ洋風菓子類ハ新奇ヲ好ム人情トシテ地方ニモ製造スルモノ續出シ取次販賣ヲナスモノ多ク需要モ稍増進セントセシカ販賣上競争ヲナシ其結果何レモ粗製ニ陥リ遂ニ昨今世ノ愛顧ヲ失ハントセリ思フニ是等ノ關係上此種ノ出品ヲ製造者カ躊躇セシモノナラン然レトモ洋菓子「ビスケット」

類ノ如キモノハ良品ヲ産スルニ於テハ前途有望ノ製品ナリ

寶瑞製ノ出品モアリシカ良品ト認ムルモノハ一二點ニ過キス他ハ色澤ノ暗白ナルモノ或ハ内部ノ巢孔ノ多キモノ粘力ノ強過キルモノ又ハ形狀ノ整ハサルモノ多シ此種ノ製品モ一時人氣ニ投シテ地方ニ販路ヲ得シモ今日ハ運々トシテ進マサルカ如シ然レトモ此製品ノ性質形狀ヲ評スレハ先ツ無難ニシテ時勢ニ適セシモノト思料セラル、ヲ以テ良品ヲ出スニ於テハ將來望ミアル菓子ナリ

本會ニ出品セラレシ岩手縣ノ豆銀糖、山形縣ノ熨斗梅、長野縣ノ杏菓子、山梨縣ノ月棗、新潟縣ノ翁飴越ノ雪、埼玉縣ノ五家寶、栃木縣ノ日光羊羹ノ如キハ一地方製產物トシテ多少世ニ知ラレタルモノナリ此内豆銀糖、翁飴ノ如キハ形狀、味、品位等ニ於テハ一般ノ嗜好ニ適スヘシ只々形容ヲ巧尙ニシ容器ヲ考案シテ商品タルノ體裁ヲ整フルニ在リ豆銀糖ハ色澤粘度香味ニ意ヲ留ムヘシ而シテ此回ノ出品ヲ見ルニ色彩ヲ美ナラシメンカ爲メ火度不足ニシテ豆粉ノ腥氣ヲ帶フルモノアリ是カ爲風味ヲ損セリ豆銀糖ナルモノハ所謂洲濱ト略同一趣味ニシテ茶筵ニモ用ヒラル、モノナレハ殊ニ香味ヲ重セサルヘカラス山形縣ノ熨斗梅ノ如キハ酸味甚シク大ニ改良セサレハ此儘ニテハ菓子ノ部類ニ置クコト能ハサルモノナリ長野縣ノ杏製菓子モ酸味ニ失シ熨斗梅ニ類スルモノ多カリシカ此回ノ出品ヲ見ルニ羊羹トシテ配合ノ適量ナルモノアリ且ツ種類モ撰擇シタル結果杏ノ風味ヲ取テ菓子ニ趣味ヲ與ヘタルカ如キハ要領ヲ得タル製品ナリ漸次熟練セルニ依ルモノナラン然レトモ佛國產ノ杏ヲ使用シテ自國產ニ擬

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會菓子審査報告

スルモノアルモ到底芳香ノ氣匹敵スヘキモノニアラス長野縣ニテハ第一杏ノ種類ヲ撰ヒテ原料ノ培養ヲ島ムヘシ山梨縣ノ月雫ハ葡萄ノ名産地ナルヲ以テ砂糖液ニテ包衣シタルモノヲ菓子ノ種類トシテ昔時ハ賞揚セラレシモノナラン又果物ヲ菓子ニ利用スルコトハ現代ノ思想ニシテ昔時ハ是等ノ思想ニ乏シキヲ以テ殊ニ之ヲ珍トセシモノナラン今日ニ於テ之ヲ評スレハ菓子ニアラスシテ只タ葡萄ヲ保存セシカ爲砂糖ヲ以テ包衣シタルモノナレハ之ヲ食スレハ砂糖ト葡萄ハ分離シテ菓子ト云フ趣味ヲ存セス只甘味アルヲ以テ菓子トセリ換言セハ葡萄ノ保存法ニ過キサルニ其ノ保存モ困難ニシテ砂糖漬ニモアラズ佛國ノ果物砂糖漬ノ如キニハ比スヘカラス然レトモ當時ノ着眼トシテハ凡ナラサルモノナリ新潟縣ノ越ノ雪ノ如キモ時代菓子ニシテ現代ニハ不適當ナリ其形容ハ純白ニシテ清楚ナリ之ヲ摘メハ忽チ解崩スルトコロハ恰モ白雪ニ類スルモ其ノ味ハ單調無趣味ニシテ落雁ノ類似品ナリ埼玉縣ノ五家寶ハ起シノ一種ニシテ現代ニ適スルモ形容粗大ニシテ品位卑シ是等ハ一段ノ改良ヲ要ス朽木縣ノ日光産羊羹ノ如キハ日光ニ遊ヒシ人ノ土産トシテ之ヲ携ヘ來リ日光名物ノ一ニ數ヘラレシモ今日依然舊態ヲ存シ毫モ改良ノ跡ナシ硬柔、火加減、粘度等能ク煉羊羹ノ本體ヲ備ヘシモ只砂糖ヲ精撰セサルト其配合量ノ過剩ナル爲日ヲ經ルニ從ヒ周圍一面ニ砂糖結晶シテ恰モ結晶糖ヲ嚙ムカ如ク且惡甘シ改良ヲ要スル點茲ニ在リ又近年群馬縣ノ磯部溫泉ヨリ磯部起シト稱シ一種ノ起シヲ産出シ年曆ハ經サルモ稍好評ナリ此製品ヲ見ルニ製造上ニハ普通ノ起シト比シテ特出シタルトコロナキモ原料タル種ヲ克ク撰擇シ

タル結果色澤形容清楚ニシテ菌ノ當リモ亦輕脆ナリ時好ニ適スル製品ナラン只良糖ヲ用ヒテ餡ヲ多ク用ヒサルコトニ注意スヘシ又青森縣ノ昆布羊羹ノ如キモ近頃世人ノ注意スルトコロナリ製品モ改良シテ淡白トナリ將來需要モ起ルヘシ水飴ノ出品ハ比較的多シ該品ハ近年著シク需要増加セリ水飴ニ二種アリ一ハ色淡ク液透明ナリ之ヲ晒水飴ト稱シ直ニ食用ニ供セリ其一ハ色稍茶褐色ヲ帶ヒ半透明ニシテ粘力强シ是レ近年砂糖ノ騰貴セシ爲菓子ノ原料ニ應用スモルノ頗ル多キヲ加フ今日ノ勢ヲ以テ推測スレハ將來需要ハ益増加スルノ傾向ナリ此回ノ出品モ概シテ良好ナリシモ比較上甘味ノ薄キモノ或ハ酸味ヲ微感スルモノ是等ハ麥芽ノ多少ト原液ノ沈澱時間或ハ色澤ヲ損スルコトヲ憂ヒテ表詰メノ足ラサル等ニ基因スルモノアラサル乎製造者ハ殊ニ此點ニ注意ヲ要ス蒸菓子、饅頭類ノ出品ハ殊ニ少シ固ヨリ是等ノ種類ハ長ク保存セシムヘキ製品ニアラサレハ近距離ノ出品者ハ審査時期ヲ見テ出品スルコトヲ得ルモ遠方ノ出品者ニ在テハ到底安全ナル製品ヲ以テ審査ヲ受クルノ機會ヲ得難キカ爲自ラ出品ヲ見合セシモノナラン

駄菓子即チ雜菓子類ノ出品ハ甚タ少シ能ク分類スレハ起シ類ハ駄菓子ニ屬スルモノナリ駄菓子ハ上菓子ニ比スレハ近頃大ニ改良シ駄菓子ニシテ上菓子ノ部類ニ入ルヘキ品格ヲ保ツモノアリ元來駄菓子ハ中家庭以下ノ需要ニ應スル菓子ニシテ上菓子ニ比スレハ需要區域モ極メテ廣ク消費額モ亦多シ今日菓子ノ經濟ヲ説カント欲セハ宜シク駄菓子ヲ奨励セサルヘカラス駄菓子類ハ多ク貯藏ニ堪アル製品ニシ

テ遠隔ノ境ニ輸送スルコトヲ得レハ現今海外へ輸送セラル、モノアリ上菓子類ハ其地區内一部ノ需要ニ過キス然レトモ上菓子ハ都市ニ於ケル嗜好品即チ營養品ニ屬スルヲ以テ概シテ價格ヲ問ハス品質形容ノ良好ナルモノヲ製セサルヘカラス都市ニ於テ良菓子ノ需要多キトコロハ必ス富ノ度カ進ミテ生活ノ裕カナルモノ、多キ證左トスルニ足ル又吾人カ常ニ關心セシコトハ容器ノ構造ナリ貯藏運搬ヲ要スル菓子ニ至テハ殊ニ注意ヲ要スルトコロナリ縦合製品ハ精良ナルモ容器ノ不完全ナル爲香味ヲ損シテ形體ヲ害ナヒ販路ヲ擴張スルコト能ハサルニ至ルヘシ本會ハ開會前ヨリ霖雨繼續セシヲ以テ容器ノ不完全ナル菓子ハ著シク傷害ヲ受ケタルモノアリ此回ノ出品ニ於テ殊ニ此感念ヲ深クセリ菓子類ノ販路ヲ遠キニ求メント欲セハ須ラク容器ニ注意スヘシ此回降雨ノ多カリシハ吾人ニ斯ル好經驗ヲ與ヘタルモノナラン當業者ハ將來販路ノ擴張ヲ圖ラント欲セハ容器ノ改良ハ製品ノ改良ト駢馳シテ離ルヘカラルモノナルコトヲ思フヘシ近年生活程度ノ著シク上進シ菓子ノ如キモ改良ヲ要スル時期ニ到達セシヲ以テ當業者ハ此際勇進奮勵他事業ノ後ニ落チサランコトヲ勗ムヘシ左ニ擬賞等級表ヲ掲ケテ參考トス

第五十一類 菓子擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	

東 京 府	四	一〇					一	四
神 奈 川 縣	三	〇	二				一	四
新 潟 縣	二	八					一	四
埼 玉 縣	一	〇						二
千 葉 縣	七	三						二
茨 城 縣	一	四						二
栃 木 縣	四	六						三
山 梨 縣	一	四						二
長 野 縣	一	四						二
宮 城 縣	五	六						二
福 島 縣	七	九						二
岩 手 縣	一	二						一
青 森 縣	五	八						一
山 形 縣	一	〇						一
群 馬 縣	一	〇						一
計	一、二、二〇	四七九	五				三	一三三

罐詰審査報告

審査官 農商務技師 花 川 温
同 農商務屬 鈴木 鄰 吾

本類ノ出品總點數ハ二百七十一點ニシテ出品人員ハ百三十四人ナリ出品區域ハ一府九縣ニ互リ出品セサルトコロハ埼玉、群馬、栃木、山梨ノ四縣ナリ本聯合府縣内ハ罐詰ノ原料トシテハ果物類カ特産ニシテ最モ廉價ナルヲ以テ罐詰業者モ亦茲ニ着目セリ故ニ本聯合府縣ノ出品罐詰ハ毎回果物罐詰最モ多ク此他陸産物ニテハ適當ナル原料ニ乏シ只タ水産物ニ於テ將來好原料トシテ盛ニ産出セシムルノ望アルモノハ鮑ニシテ其他鰹、鰻ナリ是等ハ漁獲多クシテ價格モ低廉ナリ鮑ノ如キ清國輸出品トシテ最モ多望ナリ又鰹鰻ノ味付ハ内地向トシテ一般ニ需要アルヲ以テ一層良品ヲ製造セハ將來有望ノ罐詰ナリ茲ニ罐詰ノ出品種類ヲ舉クレハ左ノ如シ是ニ依テ本聯合府縣内罐詰製造ノ状態ヲ知ルニ足ル

- 果物罐詰
- 杏 罐 詰 三十五點
- 桃 罐 詰 十八點
- 櫻桃 罐 詰 十七點
- マルメロ、カリンボケ罐詰 十六點

- 梨 罐 詰 四點
- 栗 罐 詰 三點
- 無花果罐詰 三點
- 林檎罐詰 二點
- 其他罐詰 二點
- 計 百點

- 蔬菜鳥獸肉罐詰
- 瓜なら漬罐詰 七點
- 福神漬罐詰 五點
- 筍水漬罐詰 九點
- 松茸罐詰 八點
- シメジ茸罐詰 四點
- 澤庵漬罐詰 五點
- 櫻漬罐詰 二點
- なめり茸罐詰 二點

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會罐詰審査報告

雜漬物罐詰 二點
 牛肉松茸混煮罐詰 一點
 牛肉罐詰 三點
 小鳥蒲燒罐詰 五點
 計 五十一點

水產物魚介藻及雜罐詰
 鮑水煮罐詰 十六點
 鮑味付罐詰 十六點
 鯉味付罐詰 十二點
 鯨味付罐詰 十二點
 鯛罐詰 十一點
 海苔味付罐詰 七點
 鮪味付罐詰 六點
 鯖罐詰 五點
 烏賊罐詰 五點

榮螺罐詰 五點
 北寄貝罐詰 四點
 蒲鉾罐詰 三點
 鰹蒲燒罐詰 三點
 鰯罐詰 三點
 蛤水煮罐詰 一點
 蟹罐詰 一點
 雜罐詰 七點
 計 百十七點

他ノ聯合共進會ニ出品セル罐詰ノ種類ハ水產物ハ其ノ出品ノ凡ソ半數ヲ占メ果物罐詰ノ如キハ陸產物ノ一部トシテ其數ノ少キヲ例トセシカ本聯合府縣ノ出品ヲ見ルニ果物罐詰ノミニテ殆ント水產物罐詰ト相對峙スルハ本聯合府縣內罐詰業ノ特徵ナリ本邦ニテハ果物ヲ食膳ノ必需品トシテ常用スルノ習慣ナキヲ以テ隨テ罐詰果物ノ如キ其需要ハ微々タリ只口取ノ添物ニ供スルカ如キ些少ノ需要ニシテ其他ハ隨時ノ間食物ニ過キス現在ノ果物罐詰ノ狀態ヲ見ルニ第一原料ノ形狀及成熟ノ不同アルヲ第二酸味ノ強キモノ第三原料ノ種類雜駁ナルヲ第四砂糖液ノ薄キ等カ缺點ニシテ畢竟需要ノ微々タル所以モ亦

此缺點ニ依ルモノナラン然ルニ此回ノ出品ヲ閱スルニ桃、梨ハ系統ノ撰擇及其栽培漸次改良セラル、ニ依テ原料ノ良好ナルモノアリ梨ノ如キハ生地肌緻密ニシテ之ヲ嚙メハ口中ニ残渣ヲ留メス米國産罐詰ニ匹似スルモノアリ桃ノ如キモ肉柔ク香氣高ク味モ良好ナルモノアリ如斯キ好原料ヲ用ユルト共ニ砂糖液モ亦改良シテ舶來品ヲ凌駕スルノ製品ヲ產出スヘシ之ニ次テ櫻桃罐詰カ例ニナキ多數ノ出品アリ多クハ山形縣ノ出品ナリ近年奥羽地方ニテハ櫻桃ノ栽培大ニ行ハレ成熟ノ時候ニハ新鮮ノ物ヲ東京市中ノ果物店ニ販賣スルモノ日ヲ追フテ増加シ珍菓トシテ之ヲ賞美スルモ如何セン腐敗ノ速カナララ以テ止ヲ得ス罐詰トセシモノナラン栽培區域ノ擴張セラル、ト共ニ益々櫻桃罐詰ハ盛ナルヘシ佛國産ノ櫻桃罐詰現在資揚セラルルヲ以テ將來是等ノ罐詰ハ必ス世ニ歡迎セラルルニ至ルヘシ櫻桃ニ二種アルカ如シ罐詰トシテハ白色ニシテ薄紅ヲ帶ヒ稍透明ナルモノハ味良好ニシテ最モ適セリ皮厚クシテ濃紅ナルモノハ罐詰トシテ味宜シカラス罐詰ノ櫻桃ヲ食スルニハ調理シテ食後ノ菓子トスルニハ「バイ」ニ製スルカ或ハ又麵麩ノ小片ヲ燒テ薄ク焦シ「ナイフ」ニテ表面ヲ擦リ其一二片ヲ皿ニ盛りテ是ニ罐詰ノ櫻桃四五粒ヲ加ヘ罐ニ在ル砂糖液ヲ少シク注加シ其上ニ削砂糖ヲ撒布シテ食膳ニ供スルカ如キハ最モ簡易ニシテ美味ナル食品ナリ是等ハ家庭ニテ即席ニ調製スルヲ得ル一ノ料理菓子ナリ此他ノ果物罐詰ノ將來ニ於ケル需要ノ如何ハ豫測スヘカラス只タ杏ノ如キハ根本的ニ種苗ヲ撰擇栽培シテ原料ノ善良トナルニ於テハ有望ノ罐詰ナリ目下ノ原料ニテハ縱カニ口取ノ添物位ニ過キサルヘシ概シテ果物

ノ罐詰ハ原料ノ改良カ急務ナリ蔬菜ノ罐詰トシテハ松茸、筍ハ一般ニ嗜好セラレ産額モ亦最モ多シ本聯合府縣内ノ松茸、筍ハ之ヲ關西即チ京阪地方ノ産ニ比スレハ品質劣リ且ツ産額モ多カラス到底關西地方ノ製品ト競争スルコト能ハサルヘシ稍好奇的ノ製品ト云フノ傾キアリ牛肉モ亦本産物ニアラサレハ味ノ點ニ於テモ産額ニ於テモ中國方面ノ製品ト競争スルカ如キハ不可能ナラン水産物ニ至テハ鮑、鰹ノ如キハ東海岸千葉、茨城、福島、宮城、岩手、青森ノ諸縣ニテハ最モ漁獲ノ多キ魚類ニシテ鮑ノ如キハ罐詰原料トシテハ品質ニ於テ形狀ニ於テ恰好ノ種類ニシテ今日ヨリ尙一層ノ産額ヲ増スヲ得ヘシ鰹モ亦多獲魚類ニシテ殊ニ漁期カ晩季ニ屬スルヲ以テ節ニ製センヨリ寧ロ罐詰ニ適當ナリ且價格モ比較的低廉ナリ鰹モ東海岸ノミナラス西海岸ノ新潟山形二縣ノ如キモ近來鰹刺網漁業發展シテ大鰹ノ漁獲盛ナリシヲ以テ罐詰ノ原料トシテ適當ナリ此他鰹ハ東海岸ニ於テ夏期捕獲シ其肉極メテ低廉ニシテ罐詰原料ニ最モ適セリ然レトモ未タ鰹鰯ノ如ク一般ノ需要少シ罐詰ノ原料トシテハ第一種類ノ適否第二價格ノ低廉ナル此三要件ヲ備ヘタルモノヲ選フヘシ此回出品ノ罐詰ニ付其製造ノ是非ヲ評スレハ罐材「ブリキ」ハ甚タ薄クシテ罐形ノ凸凹ヲ生セシモノアリ大和煮類ニハ加熱ノ強キ爲肉類ノ纖維緊縮シテ味ヲ損セシモノアリ果物ノ如キハ形ノ解崩セシモノアリ又醬油ノ不良ナル爲風味ヲ落セシモノアリ鮑松茸ノ如キハ洗滌粗略ニシテ色澤ノ鮮明ナラサルモノアリ外觀ニ於テモ標紙ノ圖案彩色拙劣ニシテ商品トシテ品位ヲ低ウスルモノアリ標紙ハ一ニシテ商品トシテ外觀ヲ美ニスルハ最モ必要ノマツ

ナリ昨今ノ罐詰ハ外觀ノ粗悪ト内容量ノ一定セサルハ信用ヲ失スルノ大原因ニシテ一磅ト稱スル罐ニシテ内容量ノ甚タシキモノハ正味纒カニ四十匁入内外ノモノアリ多クハ五十匁六十匁入ニシテ七十匁以上ノモノハ誠ニ寥々タリ斯ノ如ク容量ニ不同アルニ於テハ需要者ハ罐詰ヲ購入スルニハ勢ヒ箇々秤量スルノ必要ヲ生シ是カ爲販路滯滞シテ商業上ノ利益尠カラス切言セハ今日ノ儘ニテ在再經過セハ罐詰ノ商賈ハ何時カ滅亡ニ歸スヘシ見識アル罐詰業者ハ頻リニ前途ヲ憂慮シツツアリ今日罐詰業ノ衰頽ハ獨リ製造者ノミナラス販賣業者カ目前ノ小利ニ腐心シ製造者ニ向ツテ頻リニ安物ヲ注文シ製造者モ融通上販賣者ノ意向ニ從フヲ現下ノ利益トシ心中ニハ快カラサルモ強ヒテ安物ヲ製造セントシテ止ラ得ス粗悪ノ材料ヲ使用シ内容量ヲ減スル等安物ヲ以テ敢テ販賣者ノ注文ニ應セリ斯ク罐詰業ハ衰頽スルモ多數營業者中ニハ將來需要ノ大勢ヲ達觀シテ安物製造ヲ中止シ泰然トシテ自箇ノ見地ヲ守テ時勢ノ到來ヲ傍觀スルモノアリ是等ノ特志者ニ依テ今日纒カニ罐詰業ノ墮落ヲ維持シツ、アリ罐詰需要者ハ今日悉ク粗悪ノ製品ヲ好ムモノニアラス畢竟粗悪ノ安物ヲ販賣スルニ至リシヲ以テ中等以上ノ購求者ハ之ヲ厭ヒテ漸次需要セサルニ至レリ昨今ノ罐詰ハ下等ノ食物ニ墮落シ隨テ益々安物ヲ製造シ益々中等以上ノ需要ヲ杜絶セントス營業者モ既ニ之ヲ覺リ口ニハ目下ノ墮落ヲ歎息スルモ一致シテ改善ノ方法ヲ畫策スルモノナキハ遺憾ニ堪ヘス只今日罐詰ノ衰頽ヲ挽回スルノ大手腕家ナキヲ如何セン爰ニ内容正味ノ如何ニ不同アルカヲ證センカ爲主ナル罐詰一二ノ實例ヲ擧ク

魚介罐詰

名	稱	罐ノ種類	罐ノ長	重	量	正	味	打檢	出品人ノ府縣
鮑	水 羹	内 篋 蓋	並	一三九	五粒	五五	良	岩手縣	
同	同	同	並	一二九	六粒	五六	良	同	
同	同	同	並	一四四	六粒	六五	良	同	
同	同	同	並	一三六	五粒	六〇	良	同	
同	同	同	並	一三七	八粒	六二	良	同	
北寄	貝水 羹	内	並	一三〇	七五	六八	良	同	
帆立	水 柱	一斤平罐	三寸六分	一五二	六八	七五	良	同	
北寄	貝水 羹	平罐	並	一四〇	九二	五五	良	青森縣	
鮑	水 羹	内	並	一二三	五七	五七	良	宮城縣	
蟹	水 羹	平	並	一四二	六粒	一一七	良	同	
鮑	水 羹	外 篋 蓋	並	一二八	六粒	五六	良	同	
同	同	同	並	一四八	五粒	七九	良	同	
同	同	同	並	一三五	三粒	五二	良	同	
同	同	同	並	一三八	六粒	六七	良	同	
同	同	同	並	一三一	十一粒	五〇	良	同	

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會罐詰審查報告

計	群馬縣	山形縣	青森縣	岩手縣	福島縣	宮城縣	長野縣
二七一	七五	八〇	三八	二六	四四	二八	四四
一三四	二八	七	一四	五〇	一八	二	二
一〇	一	一	一	二	二	二	二
二八	八	二	三	一	二	四	四
三九	九	二	四	二	四	七	七

五百四十四

紙審査報告

審査官 工業試験所技師 丸澤常哉

本會ニ於ケル紙ハ千葉及青森ノ二縣ヲ除クノ他聯合諸府縣孰レモ多少ノ出品アラサルハナク山梨縣ノ二四〇人五六一點ヲ最多トシ長野、埼玉、栃木ノ三縣之ニ亞テ多ク岩手、茨城、山形、福島、宮城、群馬、新潟、神奈川ト順次其數減シ最少キハ東京府ノ一點ニシテ人員六八二人總數一、一九五點ナリ是ヲ明治四十一年開會ノ長野縣主催一府十縣聯合共進會ニ於ケル紙ノ出品ニ比較スルトキハ人員ニ於テ八〇、點數ニ於テ一五九ヲ増セリ聯合縣數ノ増加ニ比較シテ出品點數ノ増加率著シカラサルハ新ニ加入セル諸縣ノ出品頗ル僅少ナルト東京府及長野縣ノ出品數前回ニ比シ減少セルニ歸因スルモノニシ

テ他ノ諸縣ニ在リテハ孰レモ多少ノ増加ヲ見サルハナク殊ニ埼玉及栃木ノ二縣ノ如キハ出品數前回ニ比シ殆ト二倍ニ達セリ

出品ノ種類ハ殆ト全部手漉紙ニシテ之ヲ用途ノ上ヨリ分類スルトキハ筆記用紙、包裝用紙、障子紙、蠶卵臺紙、蠶兒掃立紙、傘紙、提灯紙及雜用紙等僅々數種ニ過キサレトモ之カ名稱ハ區々多様ニシテ殆ト六十種ヲ超エ一々列舉ニ遑アラス其中最キハ書院紙、判紙、半切紙等所謂筆記用ニ供スル種類ニシテ障子紙及蠶卵臺紙ノ二種亦之ニ亞テ多數ヲ占メ各縣ヲ通シテ此等ノ紙類ノ出品ナキハ稀レナリ此等ノ出品ニ就テ各府縣別ノ批評ヲ試ミンニ

東京府 サクラ紙ノ出品一種アリシノミ、機械漉紙ノ製造所トシテハ王子製紙、板紙會社等日本有數ノ大工場ヲ有シ手漉紙トシテハ年産額九十五萬圓ニ達スル本府ノ出品僅ニ一點ニ過サリシハ深ク遺憾トスル所ナリ但今回出品ノサクラ紙ハ品質佳良ニシテ價亦不廉ナラス能ク用途ニ適スルヲ認ム
神奈川縣 二人三點ノ出品アリ其種類ハ漉返紙、玉壽紙及判紙ニシテ出品僅少ナルタメ批評ヲ下シ難シ

新潟縣 八人一點ノ出品アリ小國紙ハ何等進歩ノ跡ナク殊ニ一枚漉ノ抄造法ヲ採レルハ時勢ニ伴ハサル感アリ大谷内紙及桐紙ハ稍々見ルニ足ルヘキモノアリ

埼玉縣 一二六人一八四點ノ出品アリ其種類ハ蠶卵臺紙、掃立紙、生絲包紙、障子紙、細川紙、日野

群馬縣主催一府十縣聯合共進會紙審査報告

紙、美濃紙、文庫紙等十有六種ニシテ就中蠶卵臺紙ハ出品ノ約三分ノ一ヲ占メ品質概シテ佳良ナリ殊ニ三―四ノ出品ハ極テ優等ニシテ技術ノ精妙ナル誠ニ賞揚スヘキモノアリ障子紙ノ出品亦頗ル多ク其質強靱ナレトモ色相ノ可ナラサルト光線ノ透過充分ナラサルトハ惜シムヘシ細川紙、掃立紙、生糸包紙及文庫紙ノ類ハ中等ノ品ニ富ミ大ナル缺點ナク其用ニ適スルモノ多シ

茨城縣 二二人三二點ノ出品アリ其種類ハ西ノ内紙、棧留紙、美濃紙、西五杷、判紙及半切紙等ナリ此中西ノ内紙ハ出品ノ約三分ノ二ヲ占メ品質佳良ナルモノ多ク其技ノ巧ミナル爾餘ノ紙類ニ比較シテ頗ル逕庭アリ美濃紙、判紙、半切紙ノ類ハ代用紙料ノ混用未タ拙ニシテ品位低ク紙質脆弱ナリ斯クノ如クハ全然木材紙料ヲ原料トセル模造紙ニ比較シテ長所ヲ認メ難シ更ニ叩解ノ方法其他ニ就テ改良セシコトヲ望ム

栃木縣 六〇人九六點ノ出品アリ其種類ハ西ノ内紙ノ三六點ヲ最多トシ障子紙、西五杷紙、飛駒紙、掃立紙、封筒原紙、美濃紙、書院紙、判紙、半切紙、棧留紙、典具帖、謄寫用紙、傘紙、塵紙等極テ多種ニ亘レリ西ノ内紙ハ製法宜シキヲ得品質極テ優良ニシテ茨城縣ノ出品ニ比較シテ稍々優レルモノアリ下野製紙會社ノ出品ニカ、ル機械漉封筒原紙并ニ鼠判紙ハ紙質粗ナレトモ清潔ニシテ價廉ニ能ク其用ニ適セリ堀江友五郎ノ出品ニカ、ル典具帖并ニ謄寫用紙ハ品質未タ精良ト稱シ難キモ其技大ニ進歩セルヲ認ム斯種ノ紙ハ將來最有望ナル種類ニ屬スルカ故ニ更ニ奮勵シテ技ヲ磨キ産額ノ増進販路ノ

擴張ヲ圖ランコトヲ望ム其他ノ紙類ニ至リテハ缺點尠ナカラス殊ニ賞揚スヘキモノナシ

山梨縣 本縣今回ノ出品ハ人員二四〇點數五六一ニシテ實ニ出品總數ノ約二分ノ一ニ達セリ其種類ハ書院紙、判紙、半切紙ノ三種大部分ヲ占メ其他ニ白漉紙、障子紙、糊入紙、奉書紙、蠶卵臺紙、生絲文庫紙、提灯紙、傘紙、掃立紙、薄葉紙等亦多少ノ出品アリ書院紙、判紙及半切紙ハ孰レモ三極ヲ原料トセル所謂改良紙ニシテ色相ノ純白ナル紙面ノ整齊セル等技術ノ進歩頗ル顯著ナルヲ認ム然レトモ往々纖維ノ固結セルモノ板紋ヲ紙面ニ留ムルモノアリ特ニ蒸氣漂白等ノ工程過度ニ失シ特有ノ光澤ヲ損シ紙質脆弱トナレルモノアリシハ惜シムヘシ糊入紙及奉書モ亦三極製ニシテ一種ノ風韻アリ佳品ト謂フヘシ白漉紙ハ櫻紙ト同種ノ紙ニシテ反古紙ヲ再製セルモノ品質價格共ニ中等ナリ障子紙ハ纖維ノ離解不充分ニシテ固結セルモノ多ク抄造ノ術亦幼稚ナリ蠶卵臺紙及其他ノ紙類ニ至リテハ缺點尠ナカラス之ヲ要スルニ楮皮製ノ紙ハ三極製ノモノニ比較シテ甚シキ遜色アリ本縣ノ製紙業ハ近年著シキ發達ヲ遂ケ今ヤ一ケ年ノ産額五十五萬圓ニ達シ叩解機ノ利用、製法ノ改良等事業ノ見ルヘキモノ尠ナカラズ將來益々奮勵シテ健全ナル發達ヲ遂ケンコトヲ切望ス

長野縣 一六五人二〇八點ノ出品アリ點數ノ多キコト山梨縣ニ亞ケリ其種類ハ内山紙、信濃紙、宮本紙、美濃紙、書院紙、障子紙、蠶卵臺紙、三極紙、提灯紙、判紙及雜紙トス中ニ就テ内山紙ハ出品ノ過半数ヲ占メ佳品ニ富ミ技術ノ進歩頗ル著明ナリ殊ニ二三ノ出品ニ至リテハ能ク日本紙ノ特長ヲ發揮

シ強靱ニシテ優絶大ニ賞揚スヘキモノアリ蠶卵臺紙亦多數ノ出品アリ前年ニ比シテ其技ニ一段ノ巧妙ヲ加ヘ埼玉縣ノ出品ト相並ヒテ精良ヲ競ヒ眞ニ主産地ノ名ヲ空シウセサルモノト謂フヘシ本縣ノ製紙業モ亦近年著シク發達シ産額ニ於テハ未タ遠ク山梨縣ニ及ハスト雖楮皮製ノ紙類ニ於テハ其技ノ進歩セルコト聯合府縣中第一位ニ在リ

宮城縣 強製紙、障子紙、掃立紙、判紙、美濃紙、蠶卵臺紙等八人一四點ノ出品アリ強製紙ハ幅員大ニシテ頗ル強靱ナル其名ニ背カス其他ノ紙類ニ至リテハ一般ニ甚々幼稚ニシテ見ルヘキモノナシ
福島縣及群馬縣 出品僅少ナルノミナラス品質劣等ニシテ批評ノ價值ナシ

岩手縣 二一人三七點ノ出品アリ其種類ハ障子紙ノ一六點ヲ最多トシ判紙、美濃紙其他ノ雜紙類合セテ十種ニ亘レリ障子紙、判紙及美濃紙ハ大體ニ於テ製品一定シ特ニ優良ノモノナシト雖亦劣等ノ品ヲ認メス其他ノ紙類ハ出品僅少ニシテ批評ノ限リニアラス

山形縣 桐紙、麻布紙、蠶卵臺紙等八人二一點ノ出品アリ桐紙及麻布紙ハ稍々可ナルモノアレトモ蠶卵臺紙ハ質軟弱ニシテ長野及栃木縣等ノ出品ニ比シテ及ハサルコト遠シ

紙ノ出品ニ關スル府縣別ノ批評ハ大略上ニ述ヘシカ如シ更ニ之ヲ總括シテ概論スレハ今同聯合ノ諸府縣ハ近年各地ニ於テ缺乏ノ聲高キ楮皮ノ産生豊富ニシテ原料ノ點ニ於テ多クノ便利ヲ有スル地勢ナカラス從テ其出品モ山梨縣ヲ除ケハ殆ト大部分楮皮ヲ原料トセルモノニシテ木材紙料若クハ稻藁纖維等

ノ代用紙料ヲ混用セルモノ極テ稀レナリ斯種貴重ナル原料ヲ使用シ多大ノ勞力ヲ費消セルニ關セスニ三ノ縣ヲ除ケハ製品粗惡劣等ニシテ何等進歩ノ跡ヲ認メサルモノ多シ之レ當業者ノ多クハ知識ノ程度低ク時勢ニ暗ク世運ノ推移ヲ覺ラス舊法ヲ踏襲スルヲ以テ能事了レリトシ事業ノ改良進歩ヲ企圖スルモノ僅少ナルニ歸因セスンハアラス然ルニ本邦斯業界ノ現状ヲ見ルニ原料ノ價格日ニ益々昂騰シツ、アレトモ紙價之ニ伴フコト能ハス而シテ廉價ナル機械濾紙ノ需用ハ逐年劇増シテ固有日本紙ノ領域ヲ蠶食シツ、アリ加之交通運輸ノ機關ハ年ト共ニ完備セラレ貨物ノ運搬ハ極テ容易トナリシヲ以テ原料ハ多ク先進ノ紙業地ニ吸收セラレ精良ナル製品ニ化シテ再ヒ原産地ニ現出セントスル状態ニ在リ故ヲ以テ單ニ原料ノ産地タルニ安ンシ古陋ノ舊法ヲ墨守シテ進ムコトヲ知ラスハ遂ニ救フヘカラサル悲境ニ沈淪スルニ至ルヤ明ナリ固有日本紙カ其價極メテ不廉ナルニ關セス廉價ナル洋紙ノ中ニ介在シテ能ク其聲價ヲ維持シ需用ノ敢テ減退スルコトナキハ一ハ國民多年ノ習慣ニヨルヘシト雖抑亦原料特有ノ美質ト抄造ニ獨特ノ妙技アルトニヨリ洋紙ノ到底企及シ難キ特色ヲ具備スルニ歸セスンハアラス當業者須ク原料ノ選擇ヲ慎ミテ其濫用ヲ戒メ適當ナル藥品并其使用法ヲ講究シ更ニ機械器具等ニ改良ヲ加ヘ益々其技ヲ磨キ以テ生産費ノ節約ト紙質ノ改善トヲ圖リ時代ノ進歩、風俗、好尚ノ變遷ニ鑑ミテ諸般ノ用途ニ對シテ適切ナル品種ノ製出ニ努メ廣ク内外ノ需用ヲ喚起シテ大ニ販路ノ擴張ヲ計ルコトヲ要ス最後ニ擬賞一覽表ヲ掲ケレハ左ノ如シ

第五十三類 紙擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	一	一					一	一〇、〇〇〇
神奈川縣	三	二					一	五、〇〇〇
新潟縣	一	八					一	三、七五〇
埼玉縣	一	二六					一	三、七五〇
千葉縣	一八	四					一	二、三八〇
茨城縣	三	二					一	二、七三〇
栃木縣	九	六					一	二、五〇〇
山梨縣	五	一〇					一	二、八八〇
長野縣	二〇	八					一	三、三三〇
宮城縣	一	四					一	三、七五〇
福島縣	一	五					一	二、二二〇
岩手縣	三	七					一	二、八六〇
青森縣	二	一					一	三、七五〇
山形縣	一	三					一	〇、九三〇
群馬縣	一	九					一	二、八六〇
計	一、一九五	六八二	一〇	三三	一一五	一九五	一	二、八六〇

紙製品審査報告

審査官 工業試験所技師 丸澤 常哉

本會ニ於ケル紙製品ノ出品ハ傘、提灯、團扇及扇子ノ四種ニシテ山梨福島及青森ノ三縣ヲ除ケハ他ノ聯合府縣孰レモ多少ノ出縣アラサルハナク點數ノ順序ヨリ云ハ枋木縣ノ九五點ヲ第一トシ岩手縣ノ九四點之ニ亞キ以下千葉、宮城、東京、長野、神奈川、山形、茨城、新潟、埼玉ノ諸府縣順次其數ヲ減シ最モ少ナルハ群馬縣ノ五點ニシテ人員一四六八人總數四五一點ニ達セリ

今此等ノ出品ニ就テ概説センニ
傘ノ出品ハ一二六八三四五點ニ上リ紙製品ノ大部分ヲ占メリ大體ニ於テ多少進歩ノ形跡ヲ認メシモ猶缺點ノ指摘スヘキモノ尠カラス即チ徒ニ外觀ノ優美華麗ナランコトヲ競ヒテ過度ノ虛飾ヲ施シ爲ニ價格并ニ耐久度ニ於テ實用ニ適セサルモノヲ生シ若クハ專ラ價格ノ低廉ナルニカメテ粗製ノ弊ニ陥レルアリ或ハ新奇ノ意匠ヲ出サントシテ反リテ卑俗突飛ノ品ヲ製出セルモノアリ之ヲ要スルニ材料ノ撰擇製作ノ技術及意匠等ノ點ニ就テ更ニ數段ノ研究ト改良トヲ要ス
提灯ノ出品ハ一一八四七點ニシテ其大半ハ白幌ノ半製品ニシテ著シキ缺點ヲ認メサルモ殊ニ賞揚スヘキモノナシ又既製品ハ製作極テ平凡ニシテ何等進歩ノ跡ヲ認メ得サリシハ遺憾トスル所ナリ
團扇ハ七人四一點扇子ハ僅ニ一人二八點ノ出品アリシノミ技術頗ル幼稚ニシテ殆ト見ルヘキモノナシ

而シテ團扇ハ濫團扇ヲ除クノ外ハ扇骨並ニ繪紙共ニ他府縣ノ生産品ヲ利用セルモノニシテ茲ニ批評スル價值ナシ

是ヲ要スルニ今回出品ノ紙製品ハ概シテ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス當業者ノ發奮ヲ切望シテ已マズ次ニ各府縣別ノ略評ヲ試ムレハ

東京府 出品ノ種類ハ傘ノミニシテ人員一三名點數四五點ナリ蛇目傘ハ概シテ佳品ニ富ミ材料ノ撰擇、製作ノ技術共ニ頗ル優秀ナルモノアリ實ニ今回出品中ニ在リテ異彩ヲ放テリ然レトモ亦華奢ニ失シテ實用上ノ價值ヲ疑フヘキモノアルハ惜ムヘシ此他上部ニ諸種ノ模様ヲ施シテ外觀ノ美ニ努メシモノアリシモ寧ロ濃厚ニ過キテ調和ヲ缺キシ嫌アリ更ニ斬新淡泊ナル意匠ヲ出サンコトヲ望ム番傘ハ製作並ニ品質ノ稍見ルヘキモノアリシカ油ニ染料ヲ混用セルハ不可ナリ價格亦不廉ナルヲ認ム

神奈川縣 三人二〇點ノ出品アリ其種類ハ傘一人二點、扇子二人一八點ナリ傘ハ染色堅牢ナラサルノミナラス外部ノ漆下地不完全ニシテ光澤ニ乏シク價不廉ナル缺點アリ扇子ノ出品中内地用ノモノハ扇骨ノ製作稍佳良ナルモノアレトモ海外輸出向ノモノハ意匠並ニ配色陳腐ニシテ見ルニ足ラス本品ハ販路擴張ノ望ミアルカ故ニ切ニ其改良ヲ希望ス

新潟縣 傘及提灯ノ出品合セテ四人一三點アリ傘ハ三人十點ニシテ其中番傘及小傘ハ製作堅牢ニシテ能ク實用ニ適スルモノアリシモ蛇目傘ハ缺點尠ナカラス即チ煩雜ナル飾絲ヲ用キテ虚飾ヲ施シ其結果徒ニ價格ヲ不廉ナラシメテ而モ非實用の脆弱ノ品ヲ生セル如キ或ハ外部ノ塗漆不良ナルカ如キハ大ニ改善ヲ要スル所ナリ提灯ハ製作並技術平凡ニシテ批評ノ價值ナシ

埼玉縣 傘ノ出品三人八點アリ製作拙劣、品質粗惡ナリ大ニ奮勵ヲ望ム

長野縣 傘及團扇ノ二種一五人四三點ノ出品アリ傘ノ出品ハ一人三八點ニシテ其中番傘及小傘ハ稍々可ナルモノアリシモ手元轆轤ハ黒塗ノ儘ナルヲ以テ油ヲ引キシ後紙面ヲ汚スノ虞アリ漆ヲ塗布スルカ然ラサレハ白生地ノ儘製作スルヲ可トス又番傘ノ柄竹ニ使用セル釘ハ多キニ失シ適切ナラサルモノト認ム蛇目傘ハ出品僅少ニシテ批評ヲ下シ難シ團扇ノ出品ハ一人五點ニシテ扇骨並ニ繪紙ハ他縣産ノモノヲ使用セリ

千葉縣 傘ノ出品一人四八點アリ番傘ハ價少シク不廉ナレトモ製作可ナルモノアリ塗奴傘及小傘ハ缺點尠ナカラス蛇目傘ハ製作佳良ニシテ見ルヘキモノアリ然レトモ概シテ外部ノ漆下地ニ缺點アリ茨城縣 傘及提灯ノ二種合計四人一六點ノ出品アリ傘ハ三人一二點ニシテ其中番傘ハ製作並品質稍々可ナルモノアリシモ油ノ乾燥ニ際シテ煤煙ノタメニ汚點ヲ生セシ形跡アルハ惜シムヘシ蛇目傘ハ一般ニ原紙ノ染色未熟ニシテ價格ノ不廉ナル缺點アリ又押上骨ニ兩松葉ヲ使用セルモノヲ見タリ技術ノ纖巧ナルハ賞スヘキニ似タレト實用上ノ價值ヲ疑ハサルヲ得ス提灯ノ出品ハ一人五點ニシテ號レモ白幌ノ未製品ナリ糊張ノ製作中等ニシテ多ク缺點ヲ認メサルモ斯クノ如キ半製品ハ直ニ以テ需用ヲ充シ難

シ將來ハ完全ナル製品トナシテ出品セントラ望ム

栃木縣 傘、提灯及團扇ノ三種合セテ二五人九五點ノ出品アリ傘ハ一九五人六點ニシテ其中番傘及小傘ハ共ニ上部ノ張方不完全ニ外部ノ塗漆、紙面ノ引黒孰レモ拙劣ナリ又軒糸掛ノ裏面ニ紙ヲ貼布セサルモノアリ實用上不可ナリト信ス蛇目傘ハ製作一般ニ拙劣ナルノミナラス價不廉ナル嫌アリ提灯ノ出品ハ四人一九點アリシモ半製品ニシテ製作普通ナリ團扇ハ二人二〇點ニシテ其材料ハ亦他縣ノ生産品ニカ、レリ

宮城縣 傘、提灯及團扇ノ三種合セテ一七人四七點ノ出品アリ傘ハ九人一七點ニシテ其中蛇目傘ハ製作品質稍々佳良ナレトモ猶改良ノ餘地多シ番傘ハ用紙薄キニ過キ實用ニ適セサルモノアリ奴傘ノ天地ニ漆ヲ使用セサルハ裝飾ナキニ過キタリ提灯ノ出品ハ五人二〇點アリシモ平凡ノ一語能ク之ヲ盡シ得ヘシ團扇ノ出品ハ三人一點アリ此中濫團扇ハ外形粗ナルモ價廉ニシテ實用ニ適セリ然レトモ之カ製作固ヨリ容易ニシテ敢テ賞揚スルニ足ラス

山形縣 傘ノ出品四人一七點アリ番傘ハ稍々見ルニ足ルモノアリシモ蛇目傘ハ原紙ノ染色不良ニシテ製作亦拙劣ナリ

岩手縣 傘ノ出品四三人九四點アリテ聯合府縣中最多數ヲ占メタリ番傘ハ製作概シテ佳良ナレトモ價少シク不廉ナル嫌アリ又外部ノ塗色拙劣ナルヲ缺點トス小傘ノ中櫻形ノ模様ヲ應用シタルハ意匠賞ス

ヘキモノアレトモ惜ムラクハ染色ノ技術幼稚ナリ蛇目傘ノ染色亦拙劣ナルモノ多シ改良ヲ切望ス此他輾轡ノ形狀不良ニシテ紙面ヲ損傷スル虞アルモノ及軒糸掛ニ裏張ヲ施サ、ルモノ等アリ營業者ノ反省ヲ乞フ

群馬縣 團扇ノ出品一人五點アリシノミ孰レモ他縣産ノ材料ヲ使用セシモノニシテ批評ノ價值ナシ
最後ニ擬賞一覽表ヲ掲クレハ左ノ如シ

第五十四類 紙製品擬賞一覽表

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	四五	一三				二	五	三、八五
神奈川縣	二〇	三				二	二	六、六七
新潟縣	一三	四				一	二	五、〇〇
埼玉縣	八	三						
千葉縣	四八	四				二	三	二、一四
茨城縣	一六	四				二	二	五、〇〇
栃木縣	九五	二五				三	四	一、六〇
山梨縣								
長野縣								
長野縣	四三	一五				三	四	二、六七

群馬縣並一府十四縣聯合共進會紙製品審査報告

五百五十五

宮城縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	群馬縣	計
四七	九四	一七	一七	一四	四五	
一七	四三	一四	一四	一四	一四	
二	一	一	一	一	七	
五	七	一	一	一	二	
六	八	一	一	一	三	
三、五三	一、八六	二、五〇	一〇、〇〇	二、六〇	二、六〇	五百五十六

蠶表、莫塵、花蕊、經木真田、麥稈真田審査報告

審査官 花蕊検査所技師 杉山良俊

今回出品ノ蠶表、莫塵、花蕊、麥稈真田、經木真田ハ總點數五百八十五人員四百四十八ニシテ宮城縣ノ百六十一點ヲ最トシ青森縣ノ百〇八點岩手縣ノ七十三點神奈川縣ノ五十三點長野縣ノ三十七點栃木縣ノ三十七點新潟縣ノ三十一點順次之ニ次キ全ク出品セサルハ山梨縣及ヒ群馬縣ノ二點ニシテ其他ハ出品點數僅少ナリ審査結了ニ際シ賞ヲ擬スルモノ貳等賞四名參等賞十一名四等賞八十一名合計九十六名ニシテ出品人員ノ二割一分四厘ニ相當セリ

今全般ノ出品物ヲ通覽スルニ前回福島縣及ヒ長野縣主催聯合共進會ノ出品物ニ比スレハ品質組織等ニ於テ改善ヲ認ムル點少カラス價格亦比較的低廉ニシテ出品物殆ント賣約濟トナレルノ盛況ヲ呈セリ之レ斯業ニ對シ當局者ノ指導宜シキヲ得タルト當業者亦改良ニ熱心ナル結果ニ外ナラサルヘク大ニ喜フヘキ顯象ナリトス然レトモ仔細ニ其製品ヲ鑑別スルトキハ原料ノ撰擇栽培及其他ノ點ニ於テモ改良ヲ要スヘキモノ少カラス今左ニ主ナル府縣ノ出品物ニツキ概評ヲ下サントス

宮城縣

本縣ハ古來ヨリ農家ノ副業トシテ蠶表ヲ製造セシモ蠶價未タ振ハサリシカ近年ニ至リ當業者ノ熱心ト當局者ノ獎勵トニヨリ其面目ヲ刷新シ原料菌ノ栽培製缺等ニ改良ヲ施シ産額亦年々増加ノ傾向アリト云フハ大ニ喜フヘキモ尙光澤不良ニシテ原料ノ撰擇宜シキヲ得ス往々枯菌ヲ混織セルモノアリ一層ノ注意ヲ要ス

青森縣

出品物ハ蠶表大部ヲ占ム聞ク本縣ハ岡山縣ヨリ教師ヲ聘シ原料ノ栽培、製作ノ方法等ヲ研究セリト今回ノ出品物ヲ見ルニ品質光澤共ニ優美ニシテ製織上亦相當ノ注意ヲ拂ヒタルカ如キモ乾燥不充分ニシテ微ヲ生セルモノアリ原料ノ撰擇ニ注意ヲ缺ケル傾アリ而シテ比較的産額ノ増加セサルハ或ハ他ニ比シ多少價格不廉ノ感アルニ基カサルヤ當業者ノ考慮ヲ望ム

岩手縣

本縣出品ノ蠶表、莫塵類ハ前回ニ比シ品質ニ於テ多少進歩セリト雖尙製織仕上等ニ缺點少カラス且ツ

菌質軟弱ノ傾アリ原料栽培及ヒ組織上ニ於テ改善ヲ要ス

神奈川縣

本縣ノ出品物ハ殆ント經木眞田ノミニシテ意匠品其大部ヲ占メリ原料宜シキヲ得サルカ光澤ニ乏シク
意匠亦斬新ノモノ少ク關西ノ製品ニ比シ大ナル遜色アルカ如シ宜シク原料ノ選擇意匠等ニ注意センコ
トヲ望ム

栃木縣

本縣出品ノ蠶表ハ原料ノ選擇製織等ニ相當ノ注意ヲ爲シタルカ如キモ間々配列ノ不整ナルアリ市販賣
品ニ比シ多少價格低廉ニ過キサルヤノ感アリ

長野縣

本縣出品ノ蠶表ハ概シテ光澤ニ乏シク原料菌ニ病蟲害ヲ蒙レルアリ原料ノ栽培等ニ一層ノ攻究ヲ要ス

新潟縣

本縣出品ノ蠶表、莫塵類ハ品質光澤等ニ於テ優良ノモノナキニアラサルモ菌質軟弱ノ缺點アリ枯菌
混織シテ地質ヲ損セルモノアリ宜シク原料菌ノ栽培ニ當リ氣候土質等ノ關係ヲ研究シ一層ノ精品ヲ產
出センコトヲ望ム

其他ノ各府縣ハ出品點數僅少ニシテ全般ヲ知ルニ由ナキモ改良ヲ要スル點一二ニシテ足ラサルカ如シ

之ヲ要スルニ今回出品ノ蠶表、莫塵類ハ原料菌ノ栽培ニ當リ病蟲害等ヲ驅除スルノ方法ヲ講シ尙進
テ織成仕上ニ一層ノ改善ヲナサハ農家ノ副業トシテ將來有望ナルヲ疑ハス殊ニ蠶表ハ五八間ヲ主トシ
テ製作スルヲ以テ需用或地方ニ限ラレタルカ如シ之ヲ需用廣キ三六間ニ改ムルヲ得ハ亦販路擴張ノ一
策ナランカ

各縣ヨリ出品セル花薙ハ點數僅少製品亦見ルヘキモノ少ク未タ幼稚ノ域ヲ脱セス宜シク輸出ノ情況ヲ
調査シ製品ノ改良ヲ計ルヘシ

經木眞田ハ神奈川縣ヲ除ク外出品二三點ニシテ且佳品ニ乏シ本年ハ經木眞田非常ノ好況ヲ呈シ且横濱
港ヲ控ヘ聯合府縣中主產地ニ乏シカラサルニ出品僅少ニシテ比較概評ヲ下ス能ハサルハ大ニ遺憾ナリ
トス

皮革製品審査報告

審査官 農商務技師 松 倉 順 一

本類ノ出品ハ百三十六點其人員三十三名ニシテ聯合府縣中埼玉、千葉、栃木、青森及山形等ノ諸縣ハ
全ク出品ヲ見ス且ツ出品ノ種類ハ殆ント靴、靴及鞍ニ限ラレタリ而シテ就中其大部分ヲ占メタリハ製
靴ニシテ若手縣ノ外ハ何レモ多少ノ出品アリ靴ハ東京府及神奈川、山梨ノ二縣又鞍ハ若手、群馬、神

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會皮革製品審査報告

奈川ノ三縣ヨリ出品アリタルモ概シテ本類ニ屬スル出品ノ僅少ナリシハ遺憾トスル所ナリ斯クテ審査ノ結果擬賞ノ格ニ入りタルハ東京府ノ一、二、三等賞各一名神奈川、新潟、宮城、岩手ノ四等賞各一名及群馬ノ同賞二名ニシテ即チ三等賞以上ハ皆東京府ノ占得スル所トナレリ是レ同府ノ出品カ他縣ニ比シ數量及技術ニ於テ優越シタルニ依ル

府縣名	出品				擬賞等級				計
	點數	人員	一等	二等	三等	四等			
東京府	三二	七	一				一	三	
神奈川縣	一九	四						一	
新潟縣	一五	三						一	
茨城縣	一六	二						一	
山梨縣	一九	四						一	
長野縣	〇八	二						一	
宮城縣	一〇	二						一	
福島縣	三三	一						一	
岩手縣	三三	二						一	
群馬縣	二二	六						一	
計	一三六	三三	一	一	一	一	六	九	

製靴ハ東京府ノ出品ヲ以テ優位トナス是レ本品需要ノ關係上自然ノ情勢トシテ敢テ怪ムニ足ラサルヘシ其他諸縣ノ出品ニ至リテモ底附及縫接ノ工ハ共ニ進歩ノ跡歴然トシテ掩フヘカラサルモノアリシハ洵ニ喜フヘシ實ニ我邦ニ於ケル製靴ノ技ハ輸入摸倣品中ニ於テ最モ成功シタルモノノ一ニシテ其手工ニ成レルモノハ一見外國製ノ良品ニ比シ敢テ遜色ナク又最近ノ創始ニ係ル機械製ト雖モ今ヤ將サニ完全ノ域ニ達セントス之レヲ本品ノ對外貿易關係ニ於テ見ルモ明治元年ニ於ケル輸入ハ四萬五千圓ニシテ爾後需要増進ニ伴ヒ十萬圓乃至十五萬圓ノ輸入ヲ見タルコトアルモ四十一年ニ至リテハ僅カニ三萬二千圓(護謄製ヲ除ク)ニ過キス即チ本品ノ輸入カ人口ノ増加並ニ需要ノ増進ト反比例ノ現象ヲ呈スルニ至リタル事實ハヤカテ我邦ニ於ケル斯業ノ隆昌進歩ヲ立證スルモノニアラスヤ然ラハ吾人ハ斯業ノ現況ニ安ンスヘキカ曰ク否請フ之ヲ本邦在留一英人ノ言ニ聞ケ彼レ曰ク

日本製靴ノ價格ハ北米製品ニ比シテ敢テ低廉ナラス何トナレハ兩者ノ堪久力ニハ頗ル逕庭アレハナリ故ニ小包郵便料ヲ損失スルモ之ヲ北米ヨリ輸入スルヲ以テ得策トスト其ノ言ノ當否ハ知ラサルモ又一考ノ値ナシトセス是ヲ最近北米ノ報告ニ見ルニ同國ノ千九百八年ニ於ケル製靴輸出額ハ實ニ二千四百萬圓ニ達シ凡テノ製靴工場ハ規模大ニシテ同國內地商賈ニ對スル卸賣價格ハ五百弗ニ付五分引又輸出品ノ價格ハ小賣價格ノ三割五分引ニシテ一種目(スタイル)ニ對シ二十四足以上ナルニ於テハ種目ノ多キヲ問ハス注文ニ應シ又現今ニ至リテハ體量ニヨル形狀ノ崩ヲ保護スヘキ金屬製保護器(Arch Support)

品)ヲ挿入シ販賣セルカ如キ以テ其規模ノ大用意ノ周到ナルヲ窺フ可シ其他佛國ハ一九〇八年ニ於テ
 四百萬圓英國ハ同年ニ於テ二千二百萬圓ヲ海外ニ輸出シタルノ盛況ヲ見ル鬪テ我カ輸出ノ現狀ニ及ヘ
 ハ明治十三年僅々七圓ノ少額ニ起リ四十一年ニ至リテハ二十萬圓ニ達シ朝鮮ノ如キ一時ハ雜貨店ノ一
 隅ニ石鹼罐詰ト共ニ販賣セラレタルモノ今ヤ一轉シテ獨立營業ヲナスノ隆運ニ向ヒツ、アリト雖モ其
 輸出額ハ未タ北米其他ニ比肩スルニ遠ク且ツ其輸出品タルヤ哈爾濱方面向ノモノ一打三十圓乃至四十
 圓支那方面向ノモノ一打二十圓程度ノ廉價品ニ止マレリ故ニ是等ノ事實ヲ綜合シテ一考スレハ我邦製
 靴業ノ前途ハ尙ホ頗ル遼遠ナルカ如シ加之内地ニ於ケル本品ノ需要ハ益々増進ノ一方ニシテ尙ホ朝鮮
 清國ノ如キモ亦我カ供給ニ俟ツ所多ク而カモ益々増加ノ傾向アリ其他年額五百十萬圓ノ外國品ヲ輸入
 スル秋馬、二百五十萬圓ヲ輸入スル加奈太、八百九十萬圓ヲ輸入スル英領南亞米利加、六百四十萬圓ヲ
 輸入スル喜望峰殖民地、五百二十萬圓ヲ輸入スル澳洲及新西蘭土、三百四十萬圓ヲ輸入スル墨西哥等
 ノ如キ何レカ本邦製靴ニ對スル將來ノ好市場タラサランヤ想フテ此ニ至レハ當業者タルモノ豈ニ奮起
 スル所ナクシテ可ナランヤ須ラク其製作ハ學理ニ依リ經驗ニ訴ヘ形狀、意匠、寸度ノ測定、用革ノ裁
 斷及ヒ縫接等諸般ノ事項ニ一層ノ研究ヲ重ネ進ンテ適切ナル機械力ノ應用ヲ擴大シ管ニ製品ノ完全ヲ
 期スルノミナラス產額ノ増加ヲ圖リ以テ將來無限ノ需要ニ應スルノ準備ヲ立ツルコト切ニ希望ニ堪ヘ
 サル所也

靴ノ出品ハ極メテ少數ニシテ靴ト等シク東京府特ニ出色ノ技ヲ有シ價格亦適當ナルヲ見ル其佳良ナル
 ハ重量ヲ加減シ縫合ニ注意シ更ニ無用ノ裝飾ヲ去リ實用的ナラシメタル等進歩ノ跡歴然タルモノアリ
 然レトモ若シ本會出品ヲ別トシ現ニ市場ニ販出セラレツツアル商品ニ就テ觀察スルニ其製作力果シテ
 需要者ヲシテ充分満足セシムル程度ノモノナリヤ否ヤ未タ俄カニ斷言スル能ハサルカ如シ之ヲ輸出品
 ニ就テ見ルニ清韓向土呂形衣裳入及襪形靴及蒲鹽向天間形及疊形靴等ノ如キハ其ニ製作裝釘及金具ノ
 粗惡ニ就テ常ニ非難ノ聲アルニ想到セハ未タ必スシモ完全ナリト首肯スル能ハス又内地需要品ノ如キ
 モ外觀ニ於テハ多クノ缺點ヲ認メサルニ至リシモ革張及布張等ノ内部ニ施セル裝置及構造ノ堅牢ナラ
 サルモノアルハ親シク實見スル所也

尙ホ近來海外ニ渡航スル者往々好ンテ外國製古靴ヲ高價ニテ購入シ之ヲ携帶スルノ事實ヲ見ルモ我靴
 ノ堅牢ナラサルコトヲ推知スルニ足ル之ヲ要スルニ靴類ノ製作ハ近時著シキ進歩ヲ示セリト雖モ尙ホ
 歐米品ニ比較スルトキハ總ヘテノ點ニ於テ改善ノ必要ヲ認ム當業者タルモノ宜シク此ニ鑑ミル所アリ
 材料ノ選擇、技術ノ修練、用途ノ研究等ニ關シ一層ノ省慮ヲ望マサルヲ得ス
 鞍ハ出品最少ク特ニ評スルニ足ルモノナシ

漆器審査報告

審査官 静岡縣工業試驗場技師 牧 瀬 三 郎

一 出品

本會ニ漆器ヲ出品セルハ新潟、福島、青森、山形、岩手、宮城、栃木、群馬、長野、茨城、東京、神奈川、山梨ノ一府十二縣ニシテ聯合府縣内一點ノ出品ヲモ見サルハ埼玉、千葉ノ二縣ノミ漆器出品ノ總點數ハ二二四五點ニシテ其人員四三三人ヲ算ス
今各縣別トシテ其出品點數及其人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

縣 別	出品點數	出品人員
新 潟 縣	五二二	八一
福 島 縣	三九七	九五
山 形 縣	二七四	四一
長 野 縣	二〇四	六九
宮 城 縣	二〇三	四〇
神 奈 川 縣	一八二	一九
青 森 縣	一四〇	一四

東 京 府	一一三	一六
群 馬 縣	七七	一〇
岩 手 縣	六六	三八
栃 木 縣	四〇	四
茨 城 縣	二六	五
山 梨 縣	一一	一
埼 玉 縣	一	一
千 葉 縣	一	一
合 計	二、二四五	四三三

右表ニ表スカ如ク其出品點數ノ最モ多キハ新潟、福島ニシテ出品人員ノ最モ多キハ福島、新潟ニシテ
三梨、栃木、茨城ノ如キハ出品點數人員共ニ甚タ振ハス然リト雖共進會ニ於ケル出品ノ多少ハ以テ俄
ニ其産業ノ盛否ヲトスヘキニ非サルヲ以テ左ニ各聯合府縣別ノ漆器生産額ヲ示シ以テ其業況ノ大勢ヲ
示サントス

縣 別 明治四十一年度漆器産額
福 島 縣 五二二、二八四

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會漆器審査報告

神奈川縣	二〇三、〇四七
東京府	二二三、〇〇〇
長野縣	一九二、七五〇
新潟縣	一八四、〇〇〇
山形縣	一五七、六六八
宮城縣	一七六、四六〇
栃木縣	八九、〇〇〇
青森縣	四六、三七七
岩手縣	三八、五〇三
群馬縣	五八、〇〇〇(五箇年平均)
山梨縣	九、〇〇〇
茨城縣	八、〇〇〇
埼玉縣	—
千葉縣	—
合計	一、八九八、〇八九

是ニ由テ之ヲ觀レハ聯合府縣内ニ生産スル漆器ノ總産額ハ漸ク百八十萬圓ニシテ假ニ二割ノ統計漏ヲ加算スルモ猶ホ二百萬圓ヲ上下スルニ過キス之ヲ關東北一府十四縣ノ廣大ナル地區ヲ網羅シ而カモ漆汁ノ有力ナル産出地トシテハ漆器工業ノ現況未タ大ニ振ハサルヲ見ルヘシ

聯合府縣内漆器ノ産地トシテハ先ツ指ヲ福島縣會津ニ屈セサル可カラス其漆器ノ種類ニ於テハ津輕産唐塗ノ如キ若クハ鎌倉産鎌倉彫ノ如キ越後村上ノ堆朱彫漆ノ如キ各地其特色アル漆器ヲ生産セルハ勿論普通漆器ニ於テモ各地ニ於ケル生産ノ技術概シテ一方ニ偏シ研磨ニ長スル地方ハ研磨ニノミ偏シ塗リ立テニ長スル地方ハ塗リ立テニノミ傾キ或ハ髹技ニ長スルモ描金ニ拙ナル謗リヲ免カレサルハ一般ノ通患ナルヲ認ム之ヲ例セハ重箱ノ如キ表面ヲ巧ナル呂色ニ仕立テ以テ其研磨ノ長技ヲ示スモ蓋ヲ開イテ内部ヲ見レハ其表面ノ極メテ粗劣ナルヲ見ル事稀ナラス或ハ髹技一般ニ美良ナル器物ニ對シテ拙劣ナル描金ヲ施シタルカ爲メ却テ之ヲ汚損シ觀ルモノヲシテ描金ナカリセハノ感ヲ起サシムルモノアルハ遺憾ナリ然リト雖モ今回聯合ノ關東北各府縣ノ出品ニ係ル漆器ハ概シテ堅實ナル家庭ノ實用品ヲ主トシ髹構髹法共ニ一般堅牢ニシテ用漆亦概シテ美良ナルヲ以テ各府縣ノ生産狀況ハ連年健全ナル發達ヲナシツ、アルカ如シ殊ニ山形ノ如キ新潟ノ如キ其出品ヲ通覽スルニ其品種ニ變化アルソノ技術ノ優秀ナル漸ク舊來ノ面目ヲ一新シツ、アルヲ見ルヘシ惟フニ各縣漆器業將來ノ發達ヲ策センニハ各產地ニ於ケル特色アル長技ヲ主トシテ發揚セシムルト共ニ漆工全般ニ渡レル各種ノ技工ヲ練磨シ美術品

ニモセヨ實用品ニモセヨ各其用途ト程度ニ相應セルノ器物ヲ生産セサルヘカラス之ヲ今回ノ出品ニ見ルニ様、樣、描金ノニ技往々ニシテ其均衡ヲ失セルノ製品アルヲ見ル如此ニシテ各部ノ釣合ヲ失セルノ技工ハ遂ニ其苦心ノ效ナク徒ラニ製品ノ價格ヲ増加スルニ止マルカ若クハ加工却テ其ノ美ヲ損スルノ迂濶ニ陥ルニ至ルハ遺憾トスル所ナリ

二 審査

本會ニ出品セル漆器ニ二四五點ハ審査規定ニ因リ審査長ノ指示セル方針ニ從ヒ審査長ノ承認ヲ經タル左記審査ノ方法ニヨリ出品點數ノ少キ山梨縣ヨリ初メ茨城、栃木、岩手、群馬、東京、青森、神奈川、宮城、長野、山形、福島、新潟ニ終リ順次各府縣出品陳列ノ現場ニ於テ各縣別審査ヲ施行スルコトトセリ漆器審査ノ方法ヲ規定セルコト左ノ如シ

第一 現品審査

第一項材料 棟材用漆其他材料ノ良否、應用ノ適否

第二項工作 樣構樣法及描金等製作技術ノ巧拙

第三項意匠 形狀及蒔繪、圖案等製作意匠ノ優劣

第四項價格 商品トシテノ價格ノ適否

第二 參考審査

第一項 製産ノ規模及販路ノ廣狹

第二項 經歷及功績

第三項 經營法及技術上ノ改良進歩

第四項 過去ノ授賞

而シテ現場ニ於ケル現品審査ニ與リタル審査員ハ左ノ如シ

- 東京 赤塚 自得
- 新潟 小林 又治郎
- 静岡 石川 權次郎

一人數點ノ出品ニ係ルモノハ其全部ヲ見通シ以テ參酌ヲ加ヘ之カ評點ヲ附スル事トセリ第五七類中佛壇ノ如キ若クハ篋筒、火鉢等ノ如キ主トシテ指物ニ屬スルカ如キ漆工中特種ノ性質ヲ有スルモノハ殊ニ其主要トスル點ニ重ヲ置テ考查ヲ經タリ即チ佛壇ノ如キハ其意匠彫刻ノ優劣及全體ノ調子ニ重ヲ置キテ押箱、樣飾、金具等附屬技工ニ屬スルモノヲ從トセリ本會出品ノ漆器中各產地ヲ通シテ産出スル普通漆器類ニ於テハ一般ヲ通シタル標準ニ準シタルモ鎌倉彫ノ如キ村上堆朱彫ノ如キ日光堆朱塗ノ如キ或ハ山形、新潟ノ竹塗等ノ如キハ多少其標準ヲ變更シ重ヲ其技工ノ點ニ措ク之ヲ考查スルコトトセリ

三 擬賞

前記ノ標準ニ依テ第一現品審査ノ各項目ニ準シテ一々出品物ヲ考查評點シタル成績ニヨリ優良ト認メタルモノ百八十八點ヲ選拔シ更ニ第二參考審査ノ項目ニ準シテ其生産ノ業況成績等ヲ考查參酌シ其優良ナルモノ一二九點ヲ選定シ之ヲ擬賞シ内一等四點、二等一二點、三等二五點、四等八八點、合計百二十九點ノ等級ヲ附セリ

今各縣別トシテ其擬賞數並ニ出品人員ニ對スル擬賞割合ヲ表示スルコト左ノ如シ

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
東京府	一一三	一六					四、三七	
神奈川県	一八二	一九		二			二、六三	
新潟縣	五二二	八一		四			四、五六	
埼玉縣								
千葉縣								
茨城縣	二六	五					四、〇〇	
栃木縣	四〇	四					五、〇〇	
山梨縣	一一	一					一、〇〇	
長野縣	二〇四	六九					一、七三	

府縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城縣	二〇三	四〇					三、〇〇	
福島縣	三九七	九五					二、一〇	
岩手縣	六六	三八					〇、五二	
青森縣	一四〇	一四					五、〇〇	
山形縣	二七四	四一					四、一四	
群馬縣	二七	一〇					五、〇〇	
計	二、二四五	四三三	四	二	二	八	二、九七	

前表ニ示スカ如ク擬賞點數ノ割合最モ多キハ山梨、青森、栃木、群馬縣ニシテ新潟、東京、山形縣之ニ次キ其ノ成績ノ最モ不良ナルハ岩手縣ニシテ其ノ出品人員ニ對スル擬賞ノ割合僅カニ〇、五二割ニ過キス

四 各縣別概評

今回出品ノ漆器ヲ各縣別ニシテ之カ概評ヲ試ムルコト次ノ如シ
茨城縣

本縣出品ノ漆器ハ多ク粟野春慶塗ニシテ内數點ノ木彫鏝繪ノ出品ヲ見ル様ハ多ク常野産ノ檜ヲ用ユルモ様構一般ニ粗ニシテ漆質又佳良ナラス上物ハ七回並物ハ三、四回ヲ塗ルト稱スルモ椽面概シテ美良ナラス品種ハ黃春慶及赤春慶塗ノ膳重箱、切溜辨當箱、盆等ノ食器類ヲ多シトナス價格ハ粟野春慶尺

群馬縣 群馬一府十四縣聯合共進會漆器審査報告

一寸會席膳十枚箱附ノ價格四圓尺三寸七ツ入子切溜一組七圓五十錢ハ相當ナリ此種ノ食器類ハ低價堅牢品ニシテ相當ノ需用多キヲ見ルモ本縣ノ業況甚タ振ハサルヲ見ル本縣ニ於テハ漆汁ノ産出少ナカラス更ニ常野地方ニ於ケル良材ノ産出多キヲ以テス斯業ノ盛大期シ難キニ非ス願クハ盛ニ職工ヲ養成シ技術ヲ練磨シ以テ産額ヲ大ナラシメ粟野春慶ノ歴史ヲ誇ルニ足ルヘキ前途ノ發展ヲ期セサルヘカラス

本縣漆器ノ産額ハ四十一年ニ於テ九千五百十四圓ニ達ス之ヲ三十七年ニ於ケル三千〇十圓ノ産額ニ比シテ五ヶ年間三千五百餘圓ノ増加ヲ示ス以テ本縣漆器業カ逐年多少ノ發達ヲナシツ、アルヲ知ルヘシ

山梨縣

本縣今回ノ漆器出品ハ甚タ振ハス只僅ニ甲府市保坂宇三郎一人ノ出品ニ過キス其出品ノ種類ハ重箱、膳ノ如キ食器類及硯箱、鏡臺、置床等ニシテ特ニ賞スヘキ特長ヲ有セス硯箱ノ如キハ描金ノ技未タ熟セス樟構ハ蓋ノ操リ方ノ如キ上品ナラス重箱ノ如キ重ネ物ニシテ其寸方ニ不同アルヲ見ル洋本形辨當箱ノ如キ日用品トシテハヤ、考案ニ過キタルヲ覺ユ膳ニ木瘡ヲ生シタルハ其乾燥不良ナルト下地ノ不良ナルニヨル七寸五分重箱ハ榑構榑技共ニ可也底部ノ内隅角ヲ圓クシタルハ實用ニ適ス本縣産武田木鉢亦佳ナリ要スルニ本縣ノ漆器業ハ極メテ幼稚ナル域ヲ脱出セサルノ感アリ由來漆器業ノ如キ工藝

美術ニ屬スル産業ハ職工ノ養成技術進歩ニ多大ノ歲月ヲ要スルヲ以テ俄ニ斯業ノ繁盛ヲ期待ス可カラサルモ指導獎勵宜シキヲ得ハ他日ノ成功期シテ待ツヘク本縣ノ當業者更ニ一段ノ奮勵ヲ望ム

岩手縣

本縣ノ漆器産額ハ三萬八千五百餘圓ニシテ主トシテ膳、碗等ノ飲食器具ニシテ其額二萬八千五百餘圓ニ達ス其主産地ハ二戸郡ヲ主トシ膳澤盛岡之ニ次ク二戸郡ノ漆器ハ古來所謂南部碗ト稱セラレタル極メテ古キ來曆ヲ有スルモ近時安價ナル膳碗類ノ粗製品多ク産出セラレタル爲メ斯業大ニ振ハス之ヲ今回ノ出品ニ徴スルモ其品質概シテ良好ナラス榑構ノ苦窳シタルモノ多ク甚シキハ二枚組ノ盆ニシテ歪形ナル爲メ組合セラナス能ハサルモノアリ然レトモ南部漆器ハ其漆質美良ナルヲ以テ榑材ノ選擇ニ乾燥ニ其榑構ニ形狀ニ更ニ一般ノ注意ヲ拂ハ榑榑相適シ以テ需用ヲ多カラシメ引ヒテ昔時ノ名聲ヲ回復スル事ヲ得ヘシ本縣最近五ヶ年漆器産額ヲ比較スルニ左ノ如シ

年次	裝飾品	家具	飲食器	其他	合計
明治三十七年	?	?	?	?	一五、二二八
同 三十八年	二、二七〇	四、六五〇	一〇、八四九	八〇〇	一八、五六九
同 三十九年	二、二五六	五、八六〇	一四、四八〇	九二〇	二三、五一六
同 四十年	一、五九〇	七、五二二	一八、二七六	一、五〇〇	二八、八七九
同 四十一年	一、五一〇	六、〇〇〇	二八、五一〇	二、四八二	三八、五〇三

群馬縣主催一府十四縣聯合共進會漆器審査報告

之ニ依テ之ヲ見レハ本縣漆器ノ産額ハ逐年多少ノ増加ヲ示ス殊ニ近年二戸漆器組合ニ於テハ蒔繪傳習所ヲ設ケ銳意斯業ノ改良ニ盡瘁シツ、アルヲ以テ更ニ其品質ノ改善ヲ見ルニ至ラン然レトモ之ヲ本縣現時ノ状態ニ察セハ蒔繪ノ改善ヨリモ寧ロ櫛ノ改良ヲ急務トシ之ニ次クニ髹法ノ改良ヲ以テシ然ル後ニ表面蒔繪類裝飾ニ及ンテ可ナリ何トナレハ此地ニ産出セル日用膳碗家具類ノ如キハ髹法共ニ可ナレハ飾ルニ描金ノ美ヲ以テセサルモ尙克ク其聲價ヲ保チ洽ク世ノ需用ヲ満ス事ヲ得ヘケレハナリ

青森縣

本縣ノ出品ハ多ク弘前市ニ産スル所謂津輕塗又ハ唐塗ト稱スル各種彩漆ノ花紋ヲ研出セルモノニシテ其品質ハ概シテ堅牢隱健ナリ出品ノ種類ハ重箱、菓子器、膳盆類ノ飲食器具若クハ文庫、硯箱、文台花臺等ノ裝飾的家具類ニシテ板物ニ屬スル物ヲ主トス本縣ノ漆器ハ櫛構寧ロ頑丈ニ過ルノ嫌アリ概シテ板物ノ分厚甚タ厚ク只堅牢ヲノミ誇ルノ感アリテ品位餘リニ高カラサルノ感アリ津輕塗ノ特長ハ寧ロ其花紋ノ溫雅髹色研磨ノ美良ナルニアルモ強ヒテ模様ノ變化ヲ求メントシテ或ハ櫛目ヲ施シ若クハ扇地紙模様若クハ牡丹唐草模様等ヲ表ハシ以テ髹面ノ單調ヲ破ラント試ミタル出品ヲ見ルモ其變化寧ロ強キニ失シ調子整ハサルヲ覺ユ

本縣漆器ハ概シテ櫛材ノ乾燥良好ナルト下地塗ノ施工丁寧ナルトニヨリ品質ノ堅牢ナルヲ認ムルモ價格少シク不廉ナリ本縣漆器ノ改良スヘキハ寧ロ櫛構ノ形狀ニ意匠ヲ加ヘテ製品ノ形態ニ嶄新ナル趣味ヲ表ハスニ務メ之ニ加フルニ花紋模様ヲ美ナラシムル爲ニ彩漆混合法及其色彩ノ調和ヲ考究シ髹面ノ美良ト相俟ツテ鮮麗ナル色相ノ調和ヲ施サシメハ強ヒテ野調アル紋形等ヲ以テ表面ノ調子ニ變化アラシムルニ優リテ唐塗本來ノ溫優ナル花紋ト光澤アル髹色等ヲ以テシ之ニ添フニ品位高キ形狀ノ美ヲ以テセハ其實質ノ堅牢ト相俟ツテ體ニ青森漆器ノ聲價ヲ高カラシムヘキヲ信ス

本縣漆器業獎勵ノ機關トシテハ弘前市ナル工業學校ニ髹漆部ヲ設ケ徒弟ヲ教養シ或ハ當業者ノ縣外視察等以テ本縣ノ當業者カ津輕漆器ノ發展ニ盡瘁シツ、アルヲ以テ其産額年々増加ノ傾向ヲ示ス左ニ本縣漆器ノ最近五ヶ年間ノ生産額ヲ表示セン

年 別	裝 飾 品	家 具	飲 食 器	其 他	合 計
明治三十七年	二二二二	一三、六〇一	六、六一〇	三、一一四	二二、五四七
同 三十八年	四三三五	一八、二六七	七、〇七四	四、三〇七	三〇、〇八〇
同 三十九年	二、四六五	五、七四三	九、九八〇	二六、八七一	四五、〇五三
同 四十年	一、一二五	二二、七六二	一一、九五七	七、八九七	四三、七四一
同 四十一年	一、五五三	二一、五五四	一四、四六五	八、八〇五	四六、三七七

群馬縣

本縣漆器ノ業況ハ未ダ以テ重要ナル生産ト稱スルニ足ル可キ特長ナキヲ遺憾トス只タ今回ノ出品中聊

群馬縣漆器一府十四縣聯合共進會漆器審査報告

カ注目ニ値スヘキハ鹽川徳兵ノ出品ニ係ル赤城塗トナス赤城塗ハ福岡縣久留米ニ産スル籃胎漆器ト同種ノ竹椽漆器ニシテ堅牢ト雅致トヲ以テ優レル製品ナリ就中盆類ノ如キ將來販路廣大殆ト無限ノ需用ヲ有スト云フモ不可ナカルヘシ殊ニ籃胎漆器ハ近時漸ク外人ノ嗜好ニ適スルノ傾向ヲ示シツ、アルヲ以テ更ニ其生産ノ規模ヲ擴展シ以テ海外輸出ノ途ヲ開カハ亦本縣産業ノ一タルニ至ラン今回出品ノ赤城塗ハ久留米籃胎ニ比シテ竹椽ノ編成並ニ其髹色稀ヤ精巧ヲ缺クカ如クナレトモ其價格概シテ低廉ナルヲ以テ一般ノ需用トシテハ寧ロ適當ノ製品ト稱スルヲ得ヘシ

此他前橋、高崎兩市ヨリ出品セル普通漆器ニ屬スル膳、重箱、盆、硯箱等ハ品質多ク精良ナラス殊ニ描金ヲ施セル物ノ如キハ極メテ拙ナルモノ多キヲ見ル然レトモ中田伊勢太郎出品ノ洗米塗内足膳ノ如キハ髹法佳良椽構亦可ナレトモ本縣ノ漆器業ハ其生産ト共ニ技術甚タ振ハサルカ如シ

本縣漆器ノ産額ハ最近五ヶ年間ニ於ケル平均額一ヶ年五萬八千圓ニシテ其種類別ヲ擧ケレハ左ノ如シ

目留漆鏡臺針函	一萬三千圓
同 箱膳	一萬百圓
同 會席膳	八千圓
同 重箱	八千圓
同 雜	五千圓

堅地漆重箱	三千五百圓
同 膳類	四千二百圓
同 硯箱	一千圓
同 雜	二千五百圓

朽木縣

本縣ノ漆器ハ主トシテ日光堆朱彫ニシテ其出品ノ種類ハ文庫、硯箱、手袋箱、卷蓆箱等ノ箱類及盆類、類ノ裝飾具ニシテ日光町竹内專吉福田文吉ノ出品ハ重箱會席吳服盆等研出シ普通漆器ニシテ一般ニ研磨宜シキモ器物ノ内部及底部等ノ塗リ方不良ニシテ多ク刷目ヲ生ス金虫喰四段重ノ如キ内塗不良ニシテ底隅直角ヲナスハ宜シカラス紅葉繪研出シ吳服盆ノ如キ刻苧目ヲ生スル甚タシク研出シ紅葉繪ノ漆面ニ研キ殘シヲ存シ龜甲形果子器ハ髹惡シカラサルモ椽構不良ニシテ蓋ニ狂ヲ生スル事甚シ

日光堆朱ハ寶曆年中江戸ノ人古市法橋相谷ナル者支那ノ堆朱ニ擬シテ之ヲ作り技ヲ門人翠谷ニ傳ヘタルモノト稱スル所謂擬古堆朱ニシテ材ハ多ク朴ヲ用ヒ其彫技稀ヤ精細ニシテ刀法亦一種ノ趣味ヲ帶フ髹法ハ朱黒混合ノ髹色ヲ表スヲ以テ同シク擬堆朱ニ屬スル村上産ニ比シテ深厚ノ味ヲ存ス日光堆朱漆器亦一名産トシテ賞揚スルニ足ルヘシ

由來彫漆ニ屬スル本堆朱、堆黒、曲輪彫等ノ純美術漆器ニ屬スルモノハ其需用大ナラサルモ所謂擬堆

朱ニ屬スル今回出品ノ村上産擬堆朱彫鎌倉産鎌倉彫及本縣産日光擬古堆朱彫漆ノ如キハ其製作甚タ困難ナラズ從テ價格比較的安ク之ヲ盆小箱類ノ日用器具ニ應用シ若クハ机棚等ノ稍大ナル裝飾的家具類ニ應用スル等其製品ノ適用極メテ大ニシテ而カモ彫刻美ヲ發揮スル事ヲ得ルカ故ニ其趣味極メテ深ク内外人ノ趣味ニ適スルヲ以テ海外輸出品トシテ亦有望ナル工藝美術品ト稱スルヲ得ヘシ殊ニ此種ノ彫刻ノ如キ棕色ノ如キハ器械力ヲ直ニ應用シ難キ製品ニシテ我得意ノ長技ニ屬シ其製品優美ニシテ價格比較的低廉ナル製品トシテ前途益有望ノ工業タルヲ認ムルヲ以テ殊ニ此種ニ屬スル彫刻漆器ノ發達ヲ獎勵センコトヲ望ム

長野縣

本縣漆器ノ製產地ハ縣下數郡ニ互リ長野市松本市下伊那郡飯田町諏訪郡玉川村西筑摩郡福島町檜川下水内郡飯山町等ニシテ本縣漆器最近五ヶ年間ノ總産額ハ次ノ如シ

年次	産額
明治三十八年	八九、五三二
同 三十九年	一七二、〇一二
同 四十年	二二六、〇一二
同 四十一年	一九二、七五〇

同 四十二年

一三七、七〇三

製品ノ主ナル種類ハ膳、重箱、硯箱、椀、盆、廣蓋等ノ日用品ニシテ描金ヲ施セルモノ稀ニ多クハ塗立物ニシテ研磨物ノ上等品少ナシ佛壇ハ飯山町ヨリ數點ノ出品ヲ見ル彫刻其他ノ製作稍ヤ可ナルヲ見ル

福島町加藤彦助出品ノ薄春慶櫃目重ハ様佳ニシテ様亦難ナシ

所謂木曾春慶ノ様材ハ木曾産ノ良材ヲ用ユルモ様構様樣共ニ優良ト稱シ難シ而カモ價格ノ割合ニ廉ナルヲ以テ常用ニ適ス要スルニ本縣産出ノ漆器ハ其ノ産額二十三萬七千餘圓ニ達スルモ技術ノ點ニ於テ特ニ優秀ナル長所ヲ認ムルコト能ハス長野漆器ノ代表的ノ生産品ヲ舉クルニ難シ

漆器獎勵ノ機關トシテハ漆器講習所ヲ福島町檜川村及飯田町等ノ主産地ニ開設シ以テ技術ノ改良ニ勉メ下水内郡立漆器徒弟學校ニ於テハ漆工ノ徒弟ヲ養成シ大ニ本縣漆器業ノ發達ヲ圖リ福島及平澤ニハ産業組合ノ設立ヲ見ルニ至リ漸次斯業ノ改良發展ヲ計リツ、アレハ本縣ニ於ケル漆器業ノ將來有望ナル生産業ノ一タルニ至ランカ

新潟縣

本縣漆器ノ主産地ハ新潟市、岩船郡村上町中蒲原郡柏崎、長岡市、中頸城郡高田町等ニシテ其製品ノ種類ハ膳、椀、盆、硯箱、寶箱、文庫、文臺、書棚、花臺等ナリ

本縣漆器ノ總產額ハ二十四萬一千圓ニシテ其最近五ヶ年ノ漆器總產額及其種類左ノ如シ

五百八十

年次	裝飾品	家具	飲食器	其他	合計
明治三十八年	一一、二二一	二二、八五三	五一、八一二	九、四〇五	九六、二九一
同三十九年	二六、三九〇	四三、三二九	五九、二〇七	二二、九八〇	一五二、九〇六
同四十年	三三、八三七	五一、一五〇	七〇、二八三	三三、三二〇	一八八、五九九
同四十一年	三三、四一九	五二、一一〇	七三、二四〇	二五、二五二	一八四、〇五五
同四十二年	?	?	?	?	二四一、〇〇〇

之ニ依ツテ之ヲ見レハ其產額多少増加ノ傾向ヲ示スモ著シキ發達ヲ見サルカ如シ

本縣漆器ノ椽材ハ多ク板物ニ林材ヲ用キ下地ハ堅地並ニ澁地ヲ一般ニ使用スルモ椽材ノ乾燥不十分ナルモノ多ク殊ニ重箱類ノ蓋ノ如キハ殆ト凡テ反リヲ生シ著シク其價値ヲ損セルモノヲ見ル新瀉漆器ニ於テハ殊ニ椽材ノ撰擇ニ充分ノ注意アラントヲ望ム

新瀉漆器ハ金磨塗磯草塗及竹塗等ニシテ其製品ハ膳重箱盆等ノ板物ヲ多シトス概シテ描金ヲ施セルモノ少ク會々之アルモ其圖樣上品ナラス其技術未タ熟達セサルヲ見ル大井猪之松出品竹塗花瓶ニ川ノ邊一湖ノ描金ヲ施シタル如キハ新瀉漆工描金界ノ意氣振ハサルヲトスルニ足ラム

新瀉竹塗漆器ハ近時其產出ノ漸ク多ク技工亦稍ヤ圓熟セルヲ見ルモ所謂細工塗トシテ技巧ニ於テハ山

形産ニ孰レソヤノ感ナキ能ハス只新瀉竹塗漆器ハ其價格ノ低廉ナルト其應用ノ適用ナルト斷好者ノ翫弄品ニ非スシテ確ニ商品トシテ市上ニ歡迎セラルルニ足ルヘシ

金磨塗ニ至ツテハ其溫潤ナル椽色愛スヘク描金ノ如ク金光絢爛ナラサルモ一種ノ趣味掬スルニ足ル寧ロ廉價ナル時繪物ヨリモ實用ニ値スル工藝品ト稱スルヲ得ヘシ

磯草塗亦本縣ノ一名産ナリト云フヘシ村上漆器ハ彫刻漆器ニシテ推未推黒等概シテ本縣漆ニ屬スルモノヨリモ木彫物ノ擬製品ヲ多シトス一般ニ嶄新ナル意匠ニ乏シキモ模様多クハ調和ヲ得彫刻亦熟練セルモノ多ク椽色亦雅良ナルヲ見ル而カモ椽構ハ棚物ノ引出シノ如キ「クツロギ」餘リニ大ニ過キタルカ如キ若シクハ彫刻模様ノ高彫餘リニ高キニ過キタル爲メ椽色不均一ニシテ却ツテ其効果ヲ損シタルモノノ如キ或ハ盆附ノ卷簾箱ニシテ兩者其ノ椽色ヲ異ニセルモノノ如キ等ノ缺點ヲ認メタルモ概シテ良好ノ製品タルヲ失ハス村上堆朱ノ種類ハ盆、菓子器、簾箱、香盒等ヲ主トシ其椽構形狀ニ嶄新ナル意匠ヲ施セルモノハ殆ト絶無ト云フヘク概シテ舊來ノ形狀ヲ模倣セルニ過キス惟フニ村上漆器ニ一段ノ改良ヲ望ムヘキ點ハ其彫刻模様ノ平面意匠ノ研究ハ元ヨリ更ニ其形狀考案ノ立體的意匠ノ改良ニ充分ノ力ヲ盡シ以テ各種變化アル器物ニ其鍛練セル彫刻ノ技術ヲ應用シ或ハ和洋大小ノ家具ニ或ハ日用ノ雜器具ニ村上彫漆ヲ應用シ更ニ其販路ヲ擴張シ進シテ海外ノ需用品ニ及ホシ以テ村上漆器輸出貿易ノ路ヲ講セン事ヲ

群馬縣主權一府十四縣聯合共進會漆器審査報告

五百八十一

柏崎産呂色塗及花塗漆器亦優良製品ト稱スヘシ

本縣出品ノ佛壇ハ概シテ其彫刻ノ巧ナル意匠ノ調和ヲ得タルモノ多キヲ見ル或ハ押箱ノ美良ナラサル
金具類ノ粗末ナル或ハ消金ヲ施スニ技工ノ拙劣ナル爲メ彫刻ノ美ヲ没却セシメタル或ハ意匠ノ不釣合
ナル等ノ缺點ヲ有スルモノアルモ一般ニ彫刻其他ノ裝飾概シテ絢爛ナリ東京府出品ノ佛壇ノ堅實ナル
ニ比シテ新潟出品ノ佛壇ハ其趣味鮮麗ナルヲ見ル

要スルニ本縣今回ノ出品ハ實ニ五百餘點ノ多キニ達シ其出品數ニ於テ聯合府縣中ノ主位ヲ占メ其出品
ノ品位又全般ニ互リテ優良ナル好果ヲ收メ得タルヲ見ル本縣漆器獎勵ノ機關トシテハ物産陳列館ニ圖
案ノ技術者ヲ置キ意匠ノ改善ニ勉メ若シハ漆工會ヲ組織シテ會員ノ製品ヲ審査品評シ或ハ實業補習學
校ニ於ケル講習會ノ如キ柏崎漆工青年會ノ如キ各斯業ノ改良進歩ニ努力シツツアルヲ以テ本縣漆器業
カ將來ニ於テ其發展ノ効果ヲ收メ得ヘキヲ信ス

東京府

東京府ノ漆器生産額ハ二十二萬三千餘圓ニ達スト雖トモ今回ノ出品ハ甚タ振ハス只僅ニ東京美術漆器
ノ一斑ヲ示スニ過キス

東京府今回ノ漆器出品ハ主トシテ美術裝飾的ノモノ多ク從ツテ蒔繪モノ多數ヲ占ム川ノ邊一湖ノ蒔繪
手箱ノ如キ水草蒔繪硯箱ノ如キ池田泉哉ノ手箱ノ如キ漆工ノ精技賞スヘシ然レトモ今回ノ出品物ハ其

ノ數ニ於テモ其ノ技巧ニ於テモ漆工技術者ノ叢淵タル美術工藝ノ樞府タル東京市ノ出品トシテハ大ニ
振ハサルヲ惜ム

神奈川縣

本縣産出ノ漆器ハ其産地ニヨリ其生産ノ品種ニヨリ之ヲ三別スヘク其出品亦從ツテ三種ニ類別スルヲ
至當トス

一 横濱輸出漆器

横濱市ニ産スル漆器ハ主トシテ海外輸出漆器ニ屬スルモノナリ福井民次郎出品ノ手袋箱手巾入小箱長
手盆等ハ之カ代表的ノ製品ト見ルヘク静岡輸出漆器ニ髣髴タルモノニシテ品質粗惡ノ難ヲ免レス惟フ
ニ漆器業將來ノ大發展ヲ期スルニハ只海外輸出貿易ノ成否奈何ニアルモ之ヲ今日ニ於ケル貿易漆器ノ
現況ニ見ルニ其前途憂フ可キアルヲ覺ユルナリ内ニ強力ナル團體ノ協同アク猥リニ價格ノ競争ヲ事ト
シ以テ其品質ノ下落ノ來シ粗製濫造ノ結果日本漆器ノ名聲ヲ失墜セルニ際シテ外ニ獨乙模造漆器ノ強
力ナル競争ヲ蒙ル誠ニ本邦輸出漆器ノ將來ハ甚タ寒心スヘキモノアルニ非スヤ然リト雖トモ手工の工
藝ノ技術ハ我日本人ノ長技ナリ漆工ノ如キ其最モ適當ナル工藝美術ニ屬スルヲ以テ其長技ヲ利用シ需
用ニ應シタル適當ナル製品ヲ製作シ徒ラニ廉價ヲ旨トセス其品質ト其技巧トヲ以テ販路擴張ノ途ヲ講
シ以テ將來輸出漆器ノ秩序アル發展ノ根據ヲ作ラサルヘカラス

二 鎌倉漆器

鎌倉漆器ハ木彫刻ノ漆器ニシテ其刀法採色圖案共ニ古推温健ニシテ趣味ヲ以テ優ル然レトモ其生産ノ状態甚タ振ハス只博古堂後藤一家ノ相傳ニ屬シ守舊恪守未タ大ニ門戸ヲ開放シ盛ニ職工ヲ養成シ以テ其産額ヲ増大シ廣ク其ノ名聲ト需用ノ途ヲ啓クニ至ラサルハ遺憾ナリ之ヲ今回ノ出品ニ見ルニ其製品殆ト盆、小箱類ノ小器具ニ止マル願クハ今少シク鎌倉彫應用ノ途ヲ廣クシ或ハ大小ノテーパールニ椅子ニ或ハ書棚飾棚等ノ棚物類ニ若クハ額縁帽子掛等普ク和洋各種ノ家具類ニ應用シ其彫刻ノ妙趣ヲ發揮シ以テ鎌倉彫ノ利用ノ範圍ヲ擴張スルト共ニ盛ニ職工ヲ教養シ以テ其産業ノ發展ヲ企テサルヘカラス

三 箱根漆器

本縣足柄下郡小田原湯本ニ産スル箱根漆器ト稱スルモノハ盆菓子器等ノ挽物様ニ採飾セルモノニシテ様質加工共ニ良好ノモノ多ク殊ニ此種ノ需用ハ極メテ廣ク價格モ又甚タ高カラス堅牢ニシテ實用ニ適スルヲ以テ箱根丸物漆器ハ有望ナル工産物ト稱スヘシ

本縣ニ於ケル最近五ヶ年間ノ漆器總産價額及其種類別價額左ノ如シ

年次	總産價額	裝飾品	家具	飲食器	其他
明治三十七年	二二八、七二九 _円	三一、三九〇 _円	五二、六一四 _円	三八、六一四 _円	一〇六、二〇〇 _円

同 三十八年	二五三、三二二	八九、六八九	五〇、八三三	四六、七三八	六六、〇六二
同 三十九年	三二六、七三〇	一〇五、二三七	七四、九九六	六八、五五一	七七、九四六
同 四十年	二八八、九一一	八九、七二一	六九、〇八四	六三、八三八	六六、二六八
同 四十一年	二〇三、〇四七	五四、〇一三	二四、〇八一	五五、三九七	三九、五五六

宮城縣

本縣漆器ノ産額ハ四十二年度ニ於テ十九萬餘圓ニ達シ逐年其産額ノ増加ヲ示ス今左ニ最近五ヶ年間ノ漆器製産額ヲ表示セン

年別	裝飾品	家具	飲食器	其他	合計
明治三十八年	三五、〇〇〇 _円	六一六 _円	三九、八五二 _円	七、〇七三 _円	八二、五四一 _円
同 三十九年	三九、七六〇	五、七〇〇	三七、一五二	一、二六九〇	九五、三〇一
同 四十年	四〇、四六〇	七、一六〇	四〇、一一二	一五、三二三	一〇三、〇四五
同 四十一年	四四、二〇〇	二七、六〇〇	八〇、三一〇	二四、三五〇	一七六、四六〇
同 四十二年	?	?	?	?	一九〇、五四〇

宮城縣ノ漆器ハ其主産地ニヨリ之ヲ二大別スヘシ即チ一ハ仙臺漆器ニシテ他ハ鳴子漆器ナリ

一 仙臺漆器

宮城縣仙臺市ニ産出スル漆器ハ會席膳、朝綠盆、硯箱、文庫、菓子器等ノ食器類及裝飾具ニシテ主ト